

令和5年度 全国アントレプレナーシップ醸成促進に向けた 調査分析等業務報告書

文部科学省 科学技術・学術政策局
産業連携・地域振興課
(調査委託先：有限責任監査法人トーマツ)



文部科学省

目次

| | |
|--|------------|
| 【はじめに】 本事業の概要・実施方法 | 4 |
| 0.1 本調査の背景・目的・内容 | 5 |
| 0.2 本報告書の構成 | 15 |
| 0.3 エグゼクティブサマリ | 16 |
| 【第1章】 有識者委員会での取組・議論内容 | 18 |
| 全体統括委員会（アントレプレナーシップ醸成促進に係る全体像の整理） | 19 |
| 1.1 アントレプレナーシップ醸成における課題を踏まえた論点の整理 | 20 |
| 1.2 アントレプレナーシップ醸成促進に向けた目指すべき姿 | 27 |
| 1.3 検証論点の全体像の整理 | 31 |
| プラットフォーム具体化WG（アントレプレナーシップ人材の裾野拡大に向けたプラットフォーム形成に関する検討） | 32 |
| 2.1 2023年度の検討課題 | 33 |
| 2.2 学生の巻き込み | 41 |
| 2.3 実践の場への接続 | 57 |
| 2.4 企業等との連携 | 67 |
| 2.5 今後の検討項目 | 71 |
| 教育効果の測定指標具体化WG（アントレプレナーシップ教育における教育効果の測定指標の確立に関する検討） | 74 |
| 3.1 現状の課題・背景に基づく、検討論点と調査概要 | 75 |
| 3.2 教育効果の評価の確立に関する検討 | 81 |
| 3.3 全国アントレプレナーシップ人材育成プログラムを通じた検証に関する結果 | 91 |
| 3.4 整備した指標に基づく改善・研究の推進に関する検討 | 102 |
| 3.5 今後の検討項目 | 111 |
| 拠点都市事例展開WG（アントレプレナーシップ教育に関する内容の事例やノウハウの共有に関する検討） | 112 |
| 4.1 実施結果 | 113 |

目次

| | |
|--|------------|
| 【第2章】 全国アントレプレナーシップ人材育成プログラム | 119 |
| 受講機会創出に向けた全国アントレプレナーシップ人材育成プログラムの検討 | 120 |
| 5.1 エグゼクティブサマリ | 121 |
| 5.2 2023年度取組結果の詳細 | 156 |
| 【第3章】 国内のアントレプレナーシップ醸成に資する各種動向調査 | 195 |
| 海外大学の調査結果 | 196 |
| 6.1 現状の課題・背景に基づく、検討論点と調査概要 | 197 |
| 6.2 調査結果、調査まとめ | 201 |

【はじめに】
本事業の概要・実施方法

本調査の背景及び調査テーマ

- ✓ 本調査は、アントレプレナーシップ醸成の裾野を我が国全体に拡大するために、受講機会の創出、プログラムの教育的価値の向上、ステークホルダーの参加促進に関して検討を行った

背景

- 新型コロナウイルス感染症の流行やオンラインでのコミュニケーションを可能とするデジタルツール普及の急速な技術進展等による社会環境の変化の中で、様々な困難や変化に対し、自ら枠を超えて行動を起こし新たな価値を生み出していく精神（アントレプレナーシップ）を我が国全体で醸成していくことが重要であり、アントレプレナーシップを備えた人材の育成及びその環境整備が必要になっている
- 我が国全体でアントレプレナーシップを醸成するために、EDGE-NEXT 実施機関やスタートアップ・エコシステム拠点都市に参画している機関が中心となってアントレ教育をリードし、他の全国の大学等と連携し、自律的・効果的にアントレ教育プログラムを続けていくことが求められている
- 本事業では、アントレ教育が提供されていない地域の学生等にも受講機会を提供していくことやアントレ教育の効果検証手法の整備、継続的に情報収集や発信が行われるプラットフォームの運用等により、全国の大学等において希望するすべての学生がアントレ教育を受講できる環境を実現に向けた検討・整備を進めることを目的としている

2023 年度 調査 テーマ

1 受講機会の創出

- アントレ教育に対する大学生の認知拡大・関心醸成に繋がるコミュニケーション戦略の検討及び実証について
- 学生間の交流を促す学生コミュニティの形成に向けた検討及び実証について
- 各大学や拠点都市、民間企業等との連携による社会全体への理解啓発施策の検討及び実証について

2 プログラムの教育的価値の向上

- 国内外の既存教育指標に基づき、適切なアントレ教育の教育効果の評価手法の検討・開発について
- アントレ教育の裾野拡大に資するアントレプレナーシップのコアコンピテンシーの検討及び教育ガイドや研究ガイドの検討について
- アントレ教育の展開に向けた教員向けの育成プログラム（FDプログラム※）の検討及び実証について

3 ステークホルダーの参加促進

- 学生の巻き込みに有効なコンテンツの設計に向けた検証について
- 拠点都市及び地方都市との接続、連携方法の仮説構築及び実証について
- 教育プラットフォームにおける、民間企業参画のインセンティブの検証及び実証について

※FDプログラム：Faculty Development Program

アントレプレナーシップ教育の全体像

【未来社会像】

多様な価値を認め“Well-being”を達成するためのより良い社会
一つの固定されたものではなく、常に考え続けていかなければならないもの

【目指す人材】

急激な社会環境の変化を受容し、新たな価値を生み出していく精神
(アントレプレナーシップ)を備えた人材の創出

研究成果の活用も含め、スタートアップやスモールビジネス、
地域特有課題の解決など、創造したい未来・解決したい課題に応じ、
実際に事業を進めていくにあたり必要な様々な専門知識や機会を提供

既存組織

スタートアップ

スモールビジネス※

未来創造や課題解決のために必要な汎用知識やスキルを
提供するとともに、それらを活用し、
実現に向けた仮説検証ができる場や機会を提供

社会に存在する課題を自分事として捉える
課題の発見力や共感力を育むことを入口に、
不確実性の高い環境下でも自身の持つ資源を超えて機会を追求し未来創造や
課題解決に向けた行動を起こしていくための精神と態度を学ぶ場や機会を提供

■ 各専攻分野を通じて培う学士力

(中央教育審議会答申)

- (1) 知識・理解、(2) 汎用的技能、(3) 態度・志向性、
- (4) 統合的な学習経験と創造的思考力

■ 「生きる力、学びのその先へ」

(文科省 新学習指導要領)

- ・学んだことを人生や社会に生かそうとする(学びに向かう力など)
- ・実際の社会や生活で生きて働く(知識及び技能)
- ・未知の状況にも対応できる(思考力、判断力、表現力)

■ Education2030

「変革を起こす力のある
コンピテンシー」(OECD)

- ・新たな価値を創造する力
- ・対立やジレンマを克服する力
- ・責任ある行動をとる力

アントレプレナーシップの発揮

社会実践段階

コンピテンシーの形成段階



動機付け・意識醸成段階

アントレプレナーシップの醸成

アントレ教育に関わらず、
大学卒業までに
広く身に付けるべき能力

※ スモールビジネスにはNPOなども含む
 ※ 令和2年度大学におけるアントレプレナーシップ教育に関する調査報告書の第1章(P.9)

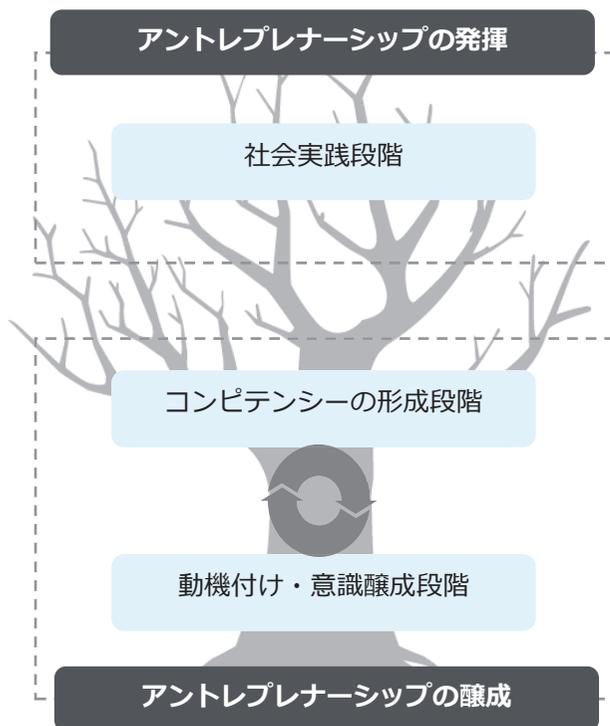
アントレプレナーシップ醸成に向けた本事業の目的と現状把握の観点の整理

✓ アントレプレナーシップ醸成に向け、目指すべき姿を検証する上で必要となる観点を整理した

本事業の目的

- 本事業では、全国の大学等において希望するすべての学生がアントレ教育を受講できる環境の実現に向けた検討・整備を進めることを目的としており、その上で全国規模のアントレ教育プログラムを中心としたアントレプレナーシップ醸成プラットフォームの構築を目指すものとなる
- 全国の各大学でのアントレ教育の提供環境の整備や持続的な運営モデルの確立、民間企業等との連携による実践的な機会との接続を通して、アントレプレナーシップの醸成促進を図る

目指すべきアントレ教育の姿の検討



目指すべき姿に対する現状把握の主な観点

アントレ教育の実施・普及状況

- 国内大学でアントレ教育を実施している大学や受講者の割合がどのようになっているか

アントレ教育を行うためのプログラム整備

- アントレ教育を実施するためのプログラムは整備されているのか

アントレ教育を行うための体制

- アントレ教育を行うための体制（プログラム・インフラ）は整備されているのか

着眼点を踏まえた具体的な指標・項目

➤ アントレ教育実施大学率



➤ アントレ教育受講率



➤ 正課科目の開講



➤ プログラム※の整備状況



※動機付け～社会実践までの段階におけるプログラム

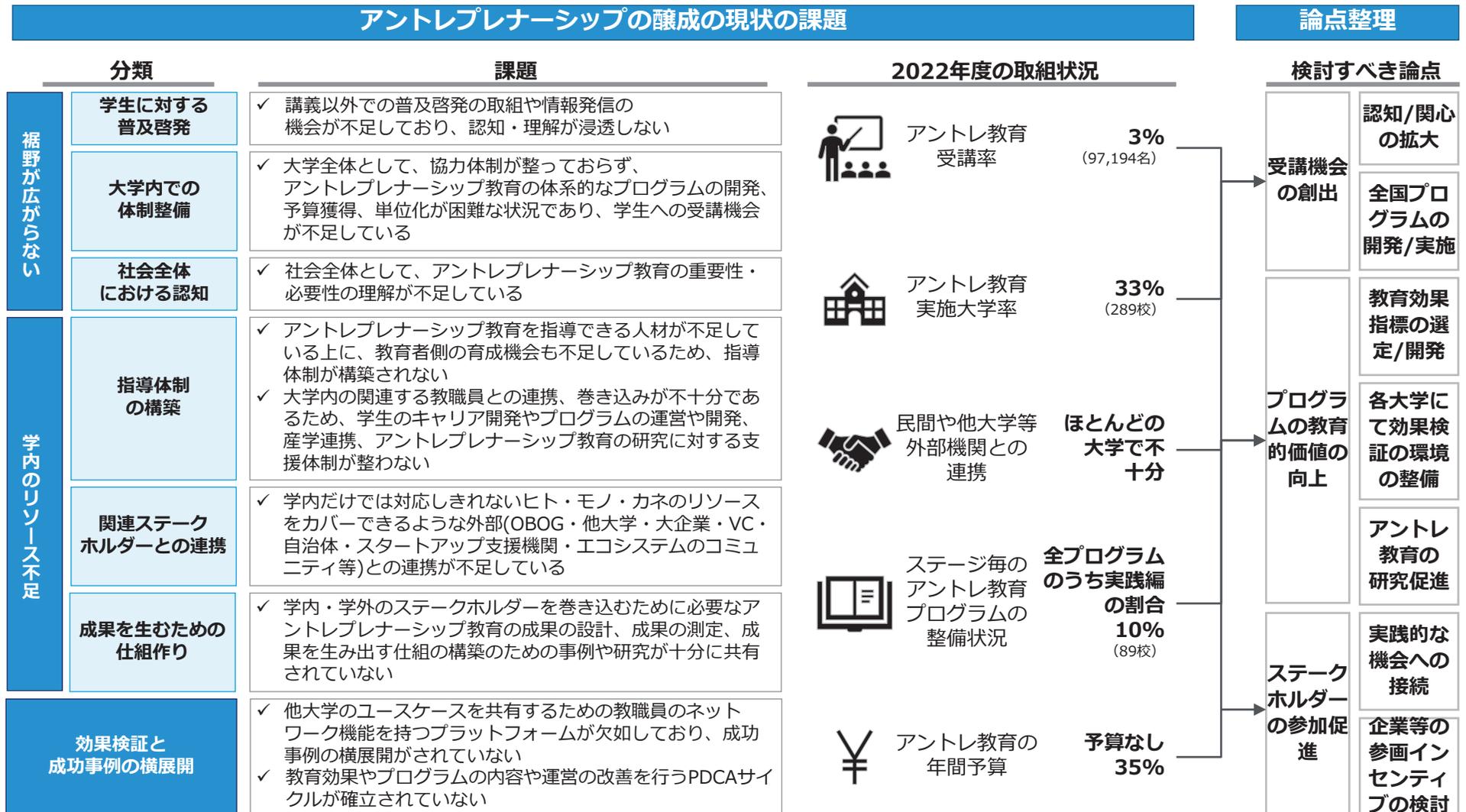
➤ 外部機関等との連携



大学単独だけ網羅的にインフラ整備することは困難のため、外部との連携を要する

アントレプレナーシップ教育の現状の課題を踏まえた論点整理

- ✓ 2022年度実施した国内の大学を対象に実施したアントレ教育の実施状況の調査結果を踏まえ、アントレ教育における醸成段階の現状の課題を整理した上で、2023年度の事業における解決すべき主な課題を整理した



アントレプレナーシップ教育における課題の詳細

✓ 2020年度の調査報告書において、アントレ教育推進における課題を整理している

| 現状の課題 | | アントレ教育 | | | アントレ教育後 |
|---------------------|---|---|---|---------------------|---------------------|
| | | アントレプレナーシップの醸成 | | アントレプレナーシップの発揮 | |
| | | 動機付け・意識醸成 | コンピテンシーの形成 | 社会実践 | |
| 1 受講者の裾野拡大 | 学生に対する普及啓発 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 講義以外の取組や情報発信の不足 ✓ 学生コミュニティとの連携不足 ✓ 小中高との連携不足 | | | 3 成果を生むための仕組みの不足 |
| | 大学内での理解の促進 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 大学全体としての理解・協力の不足（各学部や研究科での個別対応になっている） ✓ 単位化/必須科目化等、学び促進不足 | | | |
| | 社会全体における認知 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ アントレ教育の重要性・必要性の理解不足 ✓ 社会一般における理解不足 スタートアップだけではなく企業内でもイノベーションを創出する人材の必要性 ✓ 保護者における、学生の受講に対する理解不足 | | | |
| 2 アントレ教育のリソース不足 | 学内リソース | ヒト | <ul style="list-style-type: none"> ✓ アントレ教育を指導できる人材の育成不足・実務家の採用不足 ✓ キャリア開発等の教員の巻込不足 ✓ 大学内の教育の巻込の不足 ✓ 学術と実務双方を進める教員の育成不足 | | |
| | | モノ | <ul style="list-style-type: none"> ✓ コーディネート機能の未構築（動機付けから社会実践まで学べるプログラムの全体コーディネートが不足） ✓ 事務局機能の未構築（教員が指導に集中できる環境構築が不足） ✓ 教育プログラム及び共有の不足（成功事例の大学間の事例共有の場および動機付けから社会実践まで学べる場の整備が不足） ✓ アントレ研究に対する支援不足 | | |
| | | カネ | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 全大学共通プログラムの開発不足 ✓ 人事評価制度の未対応 ✓ 起業支援プログラムの不足 | | |
| | 学外リソース | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 学内だけでは対応しきれないヒト・モノ・カネのリソースをカバーできるような外部（OBOG・他大学・大企業・VC・自治体・スタートアップ支援機関等）との連携不足 ✓ 各地に所在するエコシステムのコミュニティとの連携不足 | | | |
| 3 成果を生むための仕組みの不足 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ アントレ教育後のフェーズにおける課題（右記記載） | | | 3 成果を生むための仕組みの不足 | |
| 4 効果検証と成功事例横展開 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 他大学の取組を知る機会の欠如 ✓ 教育効果の可視化不足（各大学の取組を横展開するための取組評価指標及び有識者による第三者評価を行う継続的機会の設置） | | | | |

✓ 仕組みの企画設計及び学内外を巻き込む人材の不足

✓ アントレ教育後の展開を見据えたプログラムの未整備や外部連携の未構築

本事業のスコープ

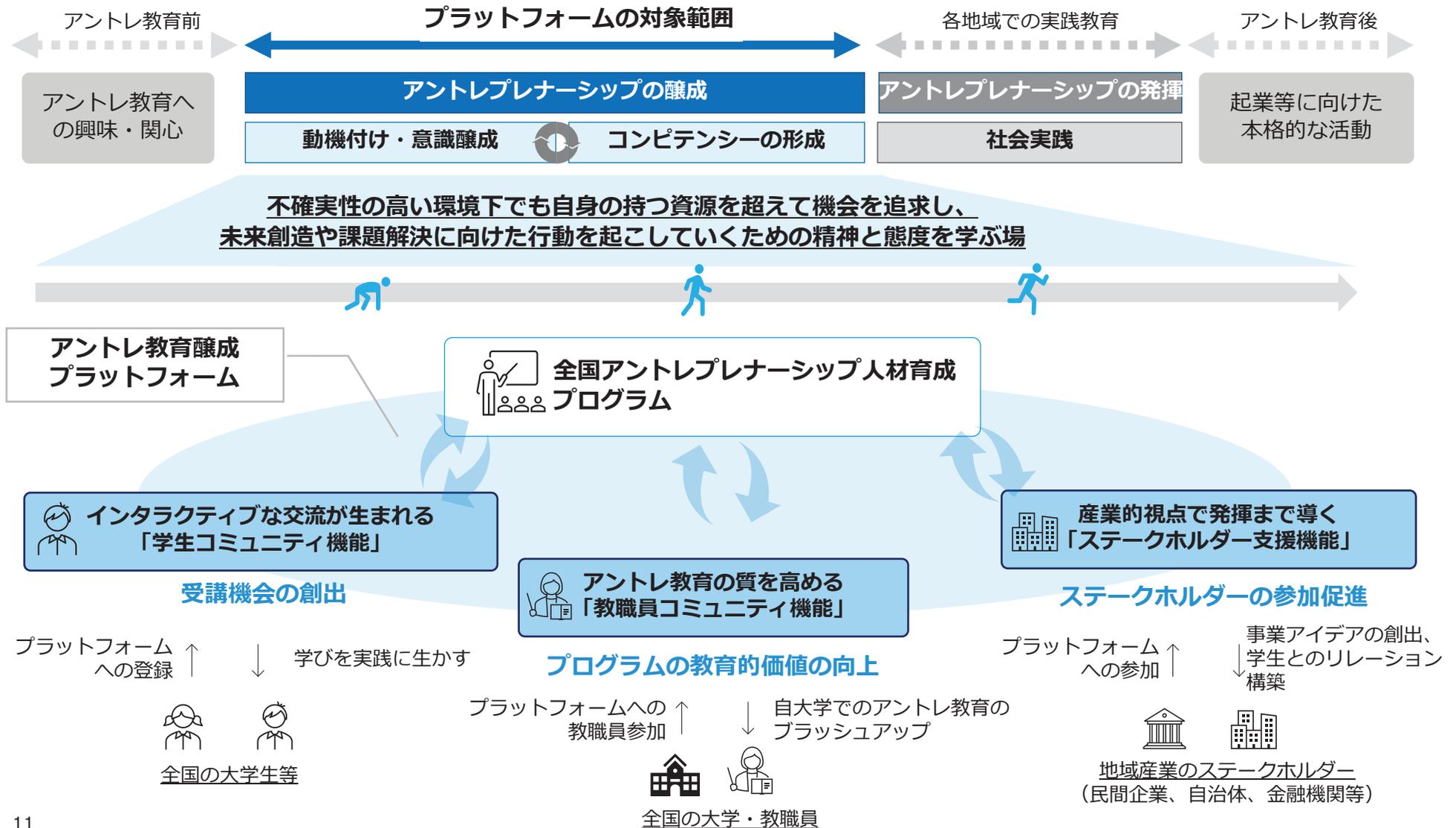
- ✓ アントレプレナーシップの醸成段階において、解決すべき3つの課題に取り組むため、教育プログラムの開発・プラットフォームの形成について検討することが本事業のスコープとなる

| | | アントレプレナーシップの醸成 | アントレプレナーシップの発揮 |
|---------------|----------------|---|---|
| | | 動機付け・意識醸成  コンピテンシーの形成 | 社会実践 |
| 解決すべき主な課題 | 受講機会の創出 | ✓ アントレ教育に対する学生の <u>認知・関心が不足</u> しており、アントレ教育の受講につながっていない | — |
| | プログラムの教育的価値の向上 | ✓ 大学のリソース不足により、 <u>教育効果の高いプログラム開発</u> 、及び運営や効果測定等の <u>実施体制が整っていない</u> | ✓ プログラムで得られる <u>便益や受講後の人材像が不明確</u> であるため、動機付けにつながらず、当事者意識の醸成がされず継続的な学習が実現しない |
| | ステークホルダーの参加促進 | ✓ 学生への広報やフォローアップにおいて、地域の <u>ステークホルダーとの連携が十分にできていない</u> | ✓ ステークホルダーとの連携が不十分であることから、 <u>フィールドワーク等の社会実践の機会が不足</u> している |
| アントレ教育の目指す方向性 | | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 全国の学生に受講機会を創出するために、<u>オンラインを主とした大人数が受講可能なプログラム</u>を開発し、学生や教職員が交流できる<u>プラットフォームを構築</u>し、アントレプレナーシップの醸成を図る ✓ 各大学がそれぞれオリジナルのプログラム・カリキュラムを立ち上げるのは困難であるため、<u>全国プログラム等も活用し、大学間でもプログラム等を補完しながら、アントレ教育を実施できる仕組み</u>を構築する | <ul style="list-style-type: none"> ✓ オンラインでは創出しづらい<u>実践の機会</u>においては、<u>各地域や各大学や各種ステークホルダーと連携</u>し、アントレプレナーシップの発揮を図る ✓ アントレプレナーシップの発揮では、<u>フィールドワーク</u>が重要であり、その教育を実現するための<u>コネクションを形成する</u> |
| 教育プログラムの開発 | | ✓ 全国プログラムを通して、全国の学生に提供を図る | ✓ 各地域の特性を生かしたプログラム開発・提供を図る |
| プラットフォームの形成 | | <ul style="list-style-type: none"> ✓ アントレ醸成の場を形成するとともに、各地域での実践の機会への接続を図る ✓ ターゲットを限定せずに、<u>エントリーレベルをターゲットとする</u> | ✓ 各地域の特性を踏まえたPF形成・運営を図る |
| | | 本事業で取組・開発する対象 | 各地域で形成・開発する対象 |

接続

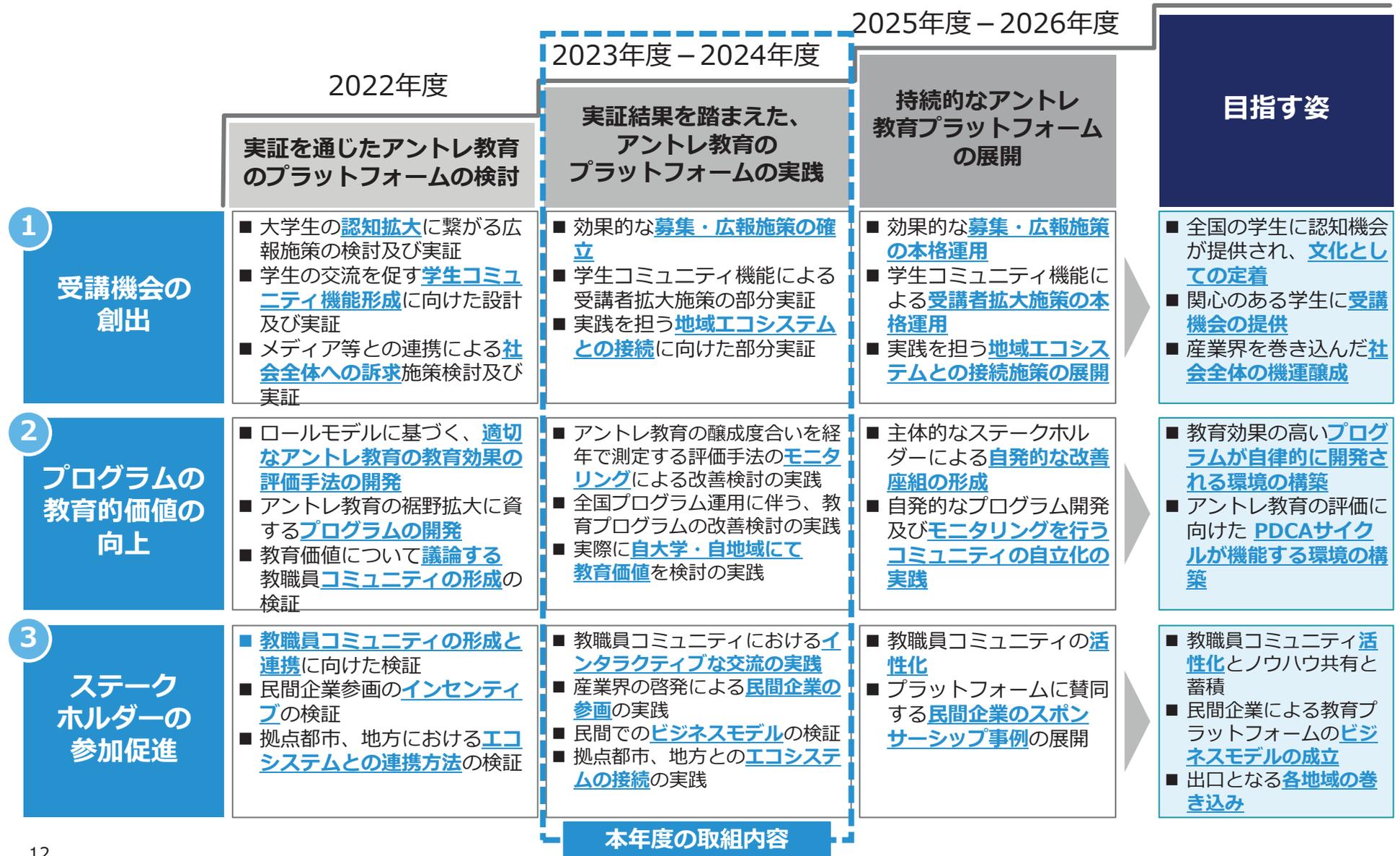
アントレ教育醸成プラットフォームの位置づけ（初期仮説）

- ✓ アントレ教育醸成に向け、アントレ教育プログラムを軸として、学生コミュニティ機能・教職員コミュニティ機能・ステークホルダー支援機能を有するプラットフォームが必要と考える



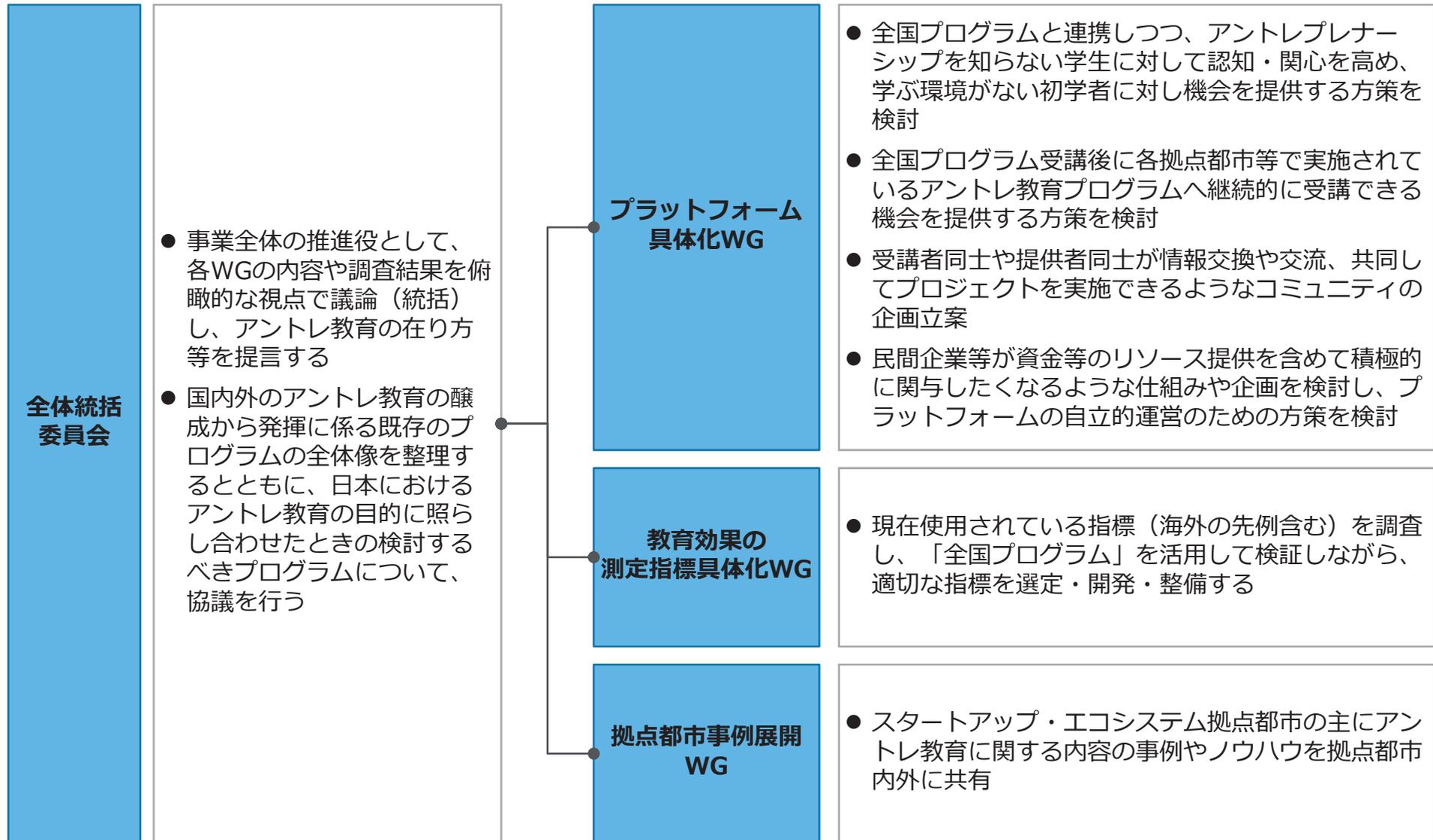
本事業のマイルストーン

✓ アントレ教育の裾野拡大に資する多様なステークホルダーを巻き込んだ持続的なプラットフォームの構築に向けて、2022年度の実証フェーズを経て、段階的な検証・実現を目指す



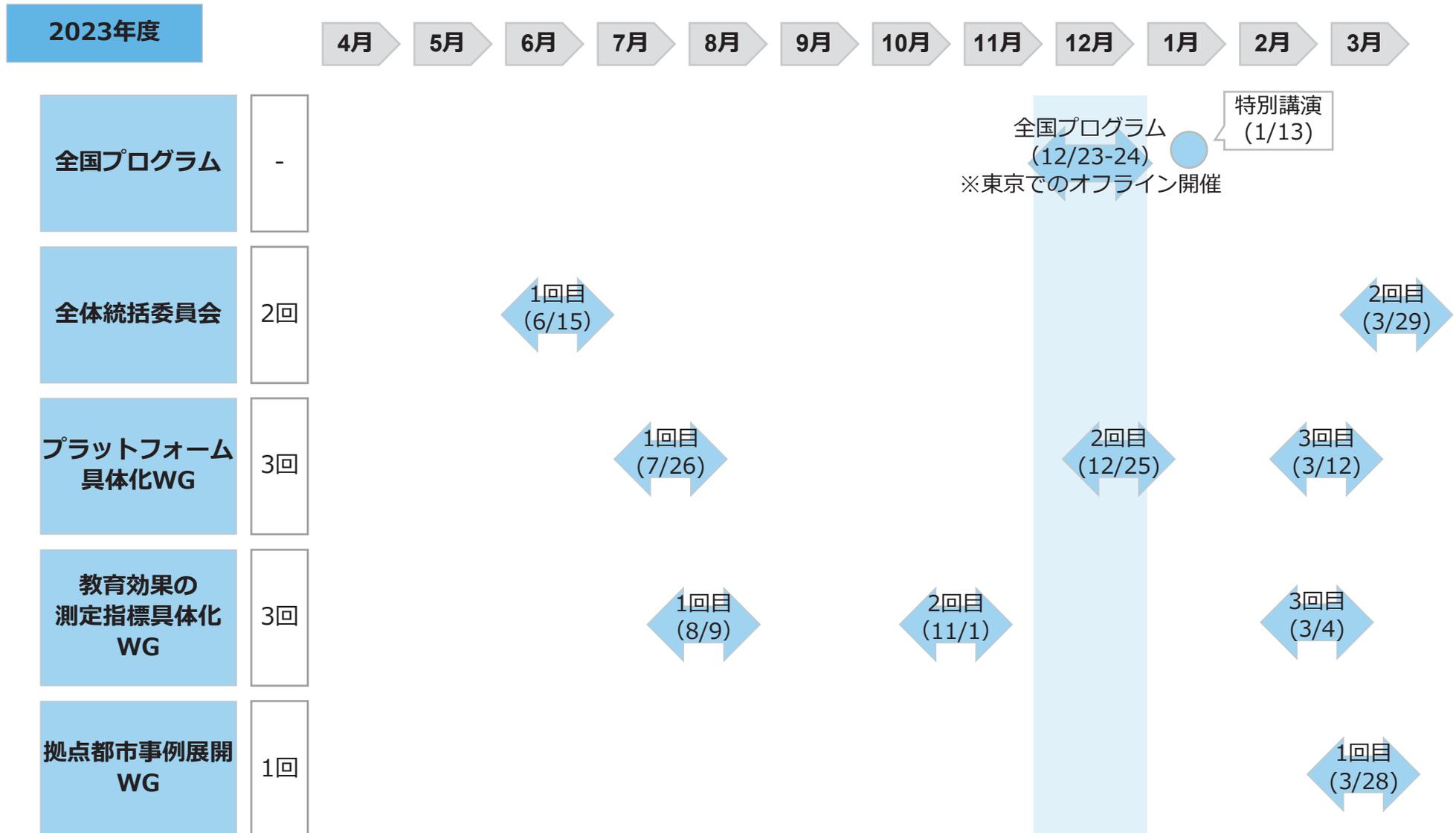
アントレプレナーシップ醸成に係る課題に対するアプローチ・検証方法

- ✓ アントレプレナーシップ醸成に向けて、各論点について委員会WGを設け、全体統括委員会にて進捗を管理・推進を図る



2023年度（2年目）のスケジュール

- ✓ 6月15日開催の全体統括委員会を皮切りに、プラットフォーム具体化WG及び教育効果の測定指標具体化WGにて、各論点について協議をした



本調査報告書の本編の構成

✓ 本調査報告書の本編の全体構成は以下の通りである

| | パート | 調査・分析テーマ | 具体的な調査事項・2023年度の実施事項 |
|-----|--------------------|-------------------------------------|---|
| 第1章 | 全体統括委員会 | 受講機会の創出 教育的価値の向上 ステークホルダー参加促進 | <ul style="list-style-type: none"> 事業全体の推進と進捗管理を行い、全体像の整理や課題の洗い出し等に関する検討した 2022年度の検証結果、各WGでの議論内容を踏まえ、アントレ教育の醸成促進に向けた目指すべき姿から事業計画の策定をした アントレ教育の木の絵の具現化に向けたアントレコンプの必要性について検討を行った |
| | プラットフォーム 具体化WG | 受講機会の創出 教育的価値の向上 ステークホルダー参加促進 | <ul style="list-style-type: none"> プラットフォーム機能の具体化に向けた方策、民間企業等の参加促進に向けた検討した アントレ教育の裾野拡大に向けたプラットフォームの検討論点と調査概要を示し、ターゲットの巻き込み、外部ステークホルダーの巻き込み、出口となる発揮段階への接続に関する検討結果を整理した |
| | 教育効果の測定指標 具体化WG | 受講機会の創出 教育的価値の向上 ステークホルダー参加促進 | <ul style="list-style-type: none"> 現在使用されている指標を調査し、適切な指標を選定・開発・整備について検討した アントレ教育における教育効果測定指標に関する検討論点を踏まえ、全国プログラムを通じた検証結果を整理すると共に、アントレプレナーシップのコアコンピテンシー及び教育ガイド・研究ガイドの整備に向けた検討や研究者の裾野拡大に向けたデータ公開方法と学会連携についての取組結果を整理した |
| | 拠点都市事例展開 WG | 受講機会の創出 教育的価値の向上 ステークホルダー参加促進 | <ul style="list-style-type: none"> アントレ教育に関する内容の事例やノウハウを拠点都市内外に共有した スタートアップ・エコシステム拠点都市関係者に共有した本事業に関する取組内容や今後の事業の方向性に関する内容について整理した |
| 第2章 | 全国プログラム | 受講機会の創出 教育的価値の向上 ステークホルダー参加促進 | <ul style="list-style-type: none"> アントレプレナーシップ醸成を加速させるための広報の方策に関する検討すると共に、全国の学生等を対象とした全国プログラムの開発・実施・運営方法について検討した ①プロモーション、②プログラムの開発・運営、③評価・フォロー、④コミュニティ構築の観点で本年度実施した全国プログラムの振り返りを行い、それぞれの考察を整理した 2022年度実施した全国プログラム（オンライン形式）の結果と比較し、対面形式で実施した2023年度の取組結果及び示唆をまとめた |
| 第3章 | 海外大学調査 | 受講機会の創出 教育的価値の向上 ステークホルダー参加促進 | <ul style="list-style-type: none"> 海外の大学等におけるアントレ教育に関連する先進事例に関する調査した 検討論点と調査概要を示し、海外大学調査の結果を整理した 各WGでの検討内容等も踏まえ、本事業の検討に資する事例を調査し、整理した |

エグゼクティブサマリ

実施に伴い挙げてきた成果・論点

2024年度に向けた検討方針

第1章

全体統括委員会

- 国内外のアントレ教育プログラム、教育によって涵養されるコンピテンシー等を整理し、教育ガイドや研究ガイドを整理することにより、学校現場の教員や研究者だけが実務で活用するだけでなく、アントレ教育の受益者の学生にとっても学習フェーズごとにどのようなプログラムが必要かを把握することができる

- 5年間事業の目指すべき姿や作成したマイルストーンに従い、2024年度以降は委員会間の連携、学内外の関係者との連携を促進させるとともに、それぞれの議論内容についてブラッシュアップさせていく必要がある

プラットフォーム 具体化WG

- 学生の巻き込みに関しては、巻き込み時の課題を整理したうえで実証的に施策を実施。また学生からの声の吸い上げにより、今後のコンテンツ充実化における課題・方向性を整理できた
- 発揮段階の接続については、学生の受講後ニーズの仮説を基に接続先支援メニューの全体像を整理し、民間企業等との連携により、学生の送り出し実績を作ることができた
- 上記に加え、更なる企業等の関与促進のため、連携アイデアを検討するワークショップを開催。2024年度以降の連携の種を作ることができた

- 2023年度の実証的な取組（学生の巻き込み、接続先の開拓・送り出し実践等）の結果を踏まえ、プラットフォーム上のコンテンツ充実化やターゲット学生へのより効果的なアプローチの展開を、実践を通じて図っていく必要がある
- また、プラットフォームへの民間企業等の参画を継続して拡大するとともに、将来的なプラットフォームの運営方針を具体化する必要がある

教育効果の測定指標 具体化WG

- 国内外のアントレ教育の教育効果測定指標について論文・文献等を踏まえ、アントレプレナーシップの特徴的な構成要素（コアコンピテンシー）の整理を行った
- 全国プログラムを用いて教育効果の測定方法の検証を行った
- 教員向けのFDプログラムを通して、全国各地でアントレ教育の実施、教育効果の測定、研究の促進に向けた素地を作った

- アントレコンプの整理に伴い、アントレ教育のコアコンピテンシーの涵養に向けたKSAの整理、プログラムの実践例や教育ガイド、研究ガイドの整備を検討していく必要がある
- 全国の大学で教育効果測定の普及に向けた実証の促進やアントレ教育の分野の研究を促進させるための学会連携等を検討していく必要がある

拠点都市事例展開WG

- 2024年度以降の本事業の推進を図る上で、参加者約200名の拠点都市関係者との連携方法について意見交換を行った

- 会議での議論内容を踏まえて2024年度の計画に反映させ、今後も拠点都市関係者との連携を強化していく必要がある

第2章

全国プログラム

- 各種プロモーションを実施した結果、約500名の学生、約260名の教職員、約90名の民間企業等の応募頂いたプログラムへの出席率、参加者からのアンケート結果、コミュニティ内の活動状況等を踏まえ、裾野拡大とコミュニティの活性化における課題を把握した
- 2022年度のオンライン形式で実施した全国プログラムと対面形式で実施した本年度の実績を比較した

- 2022年度と2023年度の全国プログラムでの実証を踏まえて、2025年度において全国の学生に受講機会を効果的に創出させるための方法について検討が必要である
- 本事業を求めている学生（真のターゲット）を明確にしながら、学生が主体的にアクション出来る機会を検討し、学生コミュニティの活性化や受講後の学びの機会の提供についての実証が必要である

エグゼクティブサマリ

実施に伴い挙げてきた成果・論点

第3章

海外大学調査

- 本事業での検討論点である「受講機会の創出」、「プログラムの教育的価値の向上」、「ステークホルダーの参加促進」の検討に繋がるように、アントレ教育の先事例を有するスタンフォード大学（米国）、コペンハーゲン大学（デンマーク）、スイス連邦工科大学チューリッヒ校（スイス）の3校について調査を行った
- アントレ教育の裾野拡大に向けては、学外の教職員を巻き込んだFDプログラムを通じた教員の育成や、学外のエコシステムとの接続やアントレ教育に関心を有する企業・個人の参画の促進が重要である
- 上記3大学に加え、近年アントレ教育に注力するソウル大学（韓国）における取組についてコラムとして整理を行った

【第1章】

有識者委員会での取組・議論内容

【第1章】有識者委員会での取組・議論内容

■ 全体統括委員会（アントレプレナーシップ醸成促進に係る全体像の整理）

- 1.1 アントレプレナーシップ醸成における課題を踏まえた論点の整理
- 1.2 アントレプレナーシップ醸成促進に向けた目指すべき姿
- 1.3 検証論点の全体像の整理

■ プラットフォーム具体化WG（アントレプレナーシップ人材の裾野拡大に向けたプラットフォーム形成に関する検討）

- 2.1 2023年度の検討課題
- 2.2 学生の巻き込み
- 2.3 実践の場への接続
- 2.4 企業等との連携
- 2.5 今後の検討項目

■ 教育効果の測定指標具体化WG（アントレプレナーシップ教育における教育効果の測定指標の確立に関する検討）

- 3.1 現状の課題・背景に基づく、検討論点と調査概要
- 3.2 教育効果の評価の確立に関する検討
- 3.3 全国アントレプレナーシップ人材育成プログラムを通じた検証に関する結果
- 3.4 整備した指標に基づく改善・研究の推進に関する検討
- 3.5 今後の検討項目

■ 拠点都市事例展開WG（アントレプレナーシップ教育に関する内容の事例やノウハウの共有に関する検討）

- 4.1 実施結果

全体統括委員会の開催概要

- ✓ 2023年度は2回開催し、アントレ教育の木の絵の具現化、各WGの進捗管理及びWGテーマの検討に関して協議を行った

| | | | |
|--------------------|--|---|---|
| 目的 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 全体統括委員会は、事業全体の推進役として、各WGの内容や調査結果を俯瞰的な視点で議論（統括）し、アントレ教育の在り方などについて提言する ■ 全体統括委員会は承認機能を有し、年度頭には年度実施計画の承認を行い、2023年度末には2024年度の実施結果について取りまとめを行う | | |
| 検討論点 | <ul style="list-style-type: none"> ■ アントレ教育の木の絵の具現化を行うためのフレームを確立 ■ 事業全体の進捗状況を確認、承認を行う | | |
| | | WG各回での議論内容 | |
| 項目 | 2023年度のゴール | 1回目（6/15） | 2回目（3/29） |
| アントレ教育の木の絵の具現化 | <ul style="list-style-type: none"> ■ アントレ教育のコアコンピテンシーの検討 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ アントレ教育のコアコンピテンシーの今後の進め方について協議（教育効果WGから座長の出席） | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 教育効果WGと連携し、アントレコンプの初期仮説を提案（教育効果WGから座長の出席） |
| 各WGの進捗管理及びWGテーマの検討 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 各WGの進捗状況の管理 ■ 時勢の変化に応じたWGテーマの検討 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 各WGの進捗状況の確認、2023年度の実施計画の承認 ✓ 時勢及び各WGの進捗状況に応じたWGテーマについて検討 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 各WGの進捗状況の確認、2024年度の実施計画の承認（各WGから座長の出席） ✓ 時勢及び各WGの進捗状況に応じたWGテーマについて検討 |
| 実施方法 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 開催日： ＜第1回目＞2023年6月15日（木）10:00－11:30、＜第2回目＞2024年3月29日（金）17:00－19:00 ■ 開催形式：オンライン開催 ■ 有識者委員：【座長】坂田一郎、島岡未来子、高田仁、高橋修一郎、山川恭弘、山岸広太郎（敬称略、座長以下氏名五十音順） ■ ゲスト：馬田先生（第1回目、第2回目）、辻本先生（第2回目）、富田先生（第2回目） | | |

2023年度のディスカッションテーマごとの議論内容及び得られた示唆

- ✓ 2023年度はディスカッションテーマごとに、会議や調査を重ねたことで、2024年度に繋がる示唆を得ることができた

| テーマ | 議論内容 | 得られた示唆 |
|---|---|---|
| 討議事項① アントレ教育の木の絵の具現化 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 事業全体の目指すべき姿を踏まえた、アントレ教育のコアコンピテンシーの今後の進め方について協議 ✓ 教育効果WGと連携し、アントレコンプの初期仮説を提案 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 5年間事業の目指すべき姿を踏まえ、アントレ教育のコアコンピテンシーの検討の必要性について協議を行い、教育効果WGとの連携を通して、アントレコンプの初期仮説を作成した ✓ 学校現場の教員や研究者が実務で活用できる教育ガイドや研究ガイドを整備することで、アントレ教育の教育体制整備や研究の促進に繋がるように取りまとめることが重要である ✓ また、アントレ教育の受益者の学生にとっても学習フェーズごとにどのようなプログラムを受講する必要があるかが見える化されることは有用である |
| 討議事項② 各WGの進捗管理及びWGテーマの検討 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 各WGにおける議論内容の方向性の検討 ✓ 各WGの進捗状況の確認、2023年度の実施計画の承認 ✓ 時勢及び各WGの進捗状況に応じたWGテーマについて検討 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 今後も設定したマイルストーンの実現を目指して、各委員と認識を共有しながら、推進していく必要がある ✓ また、学内外の関係者との連携を促進させるとともに、それぞれの議論内容についてブラッシュアップさせていく必要がある |

全体統括委員会での意見概要

✓ 討議事項①において、アントレコンプの検討の必要性や検討方針等に関する意見を得られた

討議事項①
アントレ教育の木の絵の具現化

討議事項②
各WGの進捗管理及びWGテーマの検討

| | | |
|----------------|----------|--|
| アントレコンプの検討の必要性 | 背景 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ アントレ教育に関する統一した見解が日本国内でないため、現場の教育者がプログラムの開発や改善のプロセスを回しづらい状況となっている ✓ また、学習者の習熟度レベルに応じた適切なプログラムが明確でないため、アントレプレナーシップ醸成のための有効なラーニングジャーニーの設計に基づく、学習成果の創出がしづらい状況といえる |
| | あるべき姿 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ アントレプレナーシップの特徴的な構成要素（コアコンピテンシー）について、国内で検討しコンセンサスを図る必要がある <ul style="list-style-type: none"> ➢ アントレ教育の概念や目的を明確にし、コアコンピテンシーについて、コンセンサスを得ることで、プログラム受講により得られる知識・能力・態度の観点でアントレ教育のプログラムの整理、開発、評価を教育現場で運用することができるようになる（教育現場の視点） ➢ アントレ教育においてどの時期にどのような能力を育てたいかを明確にすることで、学習者の習熟度レベルに応じた適切なプログラムが整備されると共に、プログラム受講により得られる能力が涵養したか評価できるようになり、学習者個人が納得いく形で最適な学習体験を得ることができるようになる（学習者の視点） |
| 検討方針 | 検討スコープ | <ul style="list-style-type: none"> ✓ EUのアントレコンプは幅広い対象で、小学校から始まるものである。それに対して、日本版アントレコンプは大学以降を対象としてよいか、スコープを定めることが重要と考える。プラットフォームの性質において、広く教育を行う観点から、広義のアントレプレナーシップを意識したアントレコンプを考えていく必要がある ✓ 学会や各大学等でもアントレコンプの日本版についての議論が始まっていて、検討を連動させるのが望ましい。広義でのアプローチが良いと考えが、幅広すぎても使い勝手はよくないため、アントレコンプは先進的で実践力もあるEUコンプを参考しながら作っていくとよい ✓ 汎用的技能、社会人基礎力のような内容だと広すぎるため、新しい業を起こすための、ビジネス起業にとどまらない起業という意味での起業家教育の範囲を意識しながら進めていく |
| | 検討のアプローチ | <ul style="list-style-type: none"> ✓ EUのアントレコンプの中には、教育によって明らかに伸ばせる項目があるが、そもそも学習者が気づかない項目もある。そのため、伸ばせる能力と、認知されるべき能力という指標を区分けして議論できるとよい ✓ 学習指導要領やキャリア教育の中にアントレ教育のコンピテンシーを紐づけていく形で検討する動きも国内である ✓ 既に定着している価値観の中に流し込むとか、既存の授業の中での評価軸に入れていくことが良いと考える |

全体統括委員会での意見概要

✓ 討議事項①において、アントレコンプの作成方針、今後の進め方等に関する意見を得られた

討議事項①
アントレ教育の木の絵の具現化

討議事項②
各WGの進捗管理及びWGテーマの検討

| | | |
|-----------------------------|--------|--|
| アントレ コンプの 初期仮説 の作成 | 作成方針 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 教育ガイドと研究ガイドを合わせて整理することで、アントレ教育の教育者と研究者を繋げていき、それぞれの議論が線上に繋がっていることを示していく ✓ EUのアントレコンプを基にして日本版を作成する際には、日本の教育現場の先生の実践例を踏まえて、検討していくことが重要である |
| | 今後の進め方 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 学校によっては、アントレ教育の専任の先生がいないため、アントレコンプと合わせて、将来的には教材等のシェアがあると良いと考えるが、短期的には実践例や参考図書をリファラルしていきたいと考える ✓ アントレコンプ等の要素を踏まえて、全学やセンターの学修目標に加え、シラバスに反映させることができるように各大学に働きかけることで、学生も探しやすいくなり、教員も学内での仲間探しに繋げることができる ✓ プログラムの開発等の経験のない大学がアントレ教育の環境を整備していくために、モデルとなるプログラムがいくつか整備されると良いと考える |

全体統括委員会での意見概要

✓ 討議事項②において、プラットフォーム具体化WGの検討論点ごとの意見を得られた

討議事項①
アントレ教育の木の絵の具現化

討議事項②
各WGの進捗管理及びWGテーマの検討

| | | |
|-------------------|-----------------------|---|
| プラットフォーム 具体化WG | ターゲット 学生層の 巻き込み | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 本事業では、アントレ教育に関して無関心の学生より、何か実施したいが機会のない学生をターゲットにすべきではないかと考える ✓ 学生のニーズに応えることは重要だが、学生自身がニーズを言語化できているわけではないので、留意する必要があるが、経験上同年代のコミュニティは有用であると考え ✓ 学生は多様な考えを持っているので、多様性に対応できる仕組み（自律分散型のエコシステム）を作っていく必要がある ✓ 学生の意識醸成はもちろん重要だが、保護者の理解も必要不可欠であると考え（ペアレント・エデュケーション） |
| | 実践の場への 接続 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 既存のプラットフォームや取組を活用し、学生にとって刺激になるような活動機会を多く提供すべき ✓ アントレ教育は座学ではなく、実践を提供できるプラットフォームから学べるとよい ✓ プラットフォームは大学に利用されることが重要なので、各大学で理解の浸透を進める必要がある ✓ 海外などでは起業までのステップをプロセスで示しているものがあり、そのようなモデルを学生に提示できると、関心が高まった学生が手持ち無沙汰になることを防ぐことができると考える |
| | プラットフォームのあり方 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 自立化の議論の難易度は高く、民間の巻き込みやリーダーの存在がないことが目下の課題である <ul style="list-style-type: none"> ➢ プラットフォームの自立的運営については難しい面もあると思うが、検討の末文科省が継続していくことも考えられる ✓ 個別のプログラムではスポンサーなどで民間企業を巻き込んでいる事例はあると思うが、エコシステムに対しては難しいと考える。本事業の目的に立ち返り、①地方部の学生にアントレ教育の機会を提供することと、②大学間の横のつながりを作ることを目指し、オンラインとオフラインの融合させながら、最初は採用目的でも地域の企業に関心を持ってもらい入ってもらうことが重要であると考えている <ul style="list-style-type: none"> ➢ 地域の企業の視点に立つと、何を学んだのか、学習のポートフォリオを整理していけると民間も関心を持っていただけると考える ✓ プラットフォームの運営において、コミュニティ維持に関わってくれている学生がいることは理想的だが、ドロップしがちなので、インセンティブの整理をしていく必要があると考える ✓ 学生と民間が対等に連携できるように、民間向けのプログラムも実施すべきだと考える ✓ コンテンツの蓄積は大切なので、各大学や民間企業からも共有可能なコンテンツがあれば連携すべきと考える |

全体統括委員会での意見概要

✓ 討議事項②において、教育効果の測定指標具体化WGの検討論点ごとの意見を得られた

討議事項①
アントレ教育の木の絵の具現化

討議事項②
各WGの進捗管理及びWGテーマの検討

教育効果 の測定指 標具体化 WG

| | |
|---------------------------|---|
| <p>全国プログラムを通した 検証</p> | <ul style="list-style-type: none"> ✓ アントレ教育の教育効果の結果を示すことは、受益者である学生の受講のモチベーションに繋がると考えており、教育を通して起業家性の指標が増加したことが就活等に役に立つというイメージを持たせることが関心醸成にも繋がると考える ✓ 本事業の全国プログラムでの教育効果の測定の検証を通して、授業の効果改善について有用なデータを収集することを目指す、どの能力を伸ばすかというコンセンサスがないと、改善の方向性が定まらない（アントレコンプの確立が必要） ✓ 効果測定について、プログラムのビフォーアフターだけでは氷山の一角しか見えないので、測定タイミングが重要である ✓ ガイドと評価指標を作るときには、対象が「プログラムの改善」、「研究」、「学生（経年）の能力の追跡」によって異なるため、対象を明確にするとよい ✓ 教育効果の測定は学生の評価（学生の能力の評価）と成績（授業上の評価）は連動させず、分けるべきと考える ✓ コンピテンシーが上がりやすい学生はどのような特徴があるか、測定しても良いと考える ✓ 多数の大学での教育効果の調査を実施して、効果を比較できると良いと考える ✓ 本事業での効果測定の結果を海外比較していくと良いと考える |
| <p>教員の育成</p> | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 先生方同士でチームを組み、ピアメンタリングすることが効果的と考えており、コミュニティの中で、教える能力を高めていくことは有用であると考え ✓ 教員に対するFDプログラムは重要であると考え |
| <p>研究の推進</p> | <ul style="list-style-type: none"> ✓ アントレ教育に関する研究者のすそ野拡大を図るうえで、既存の学会と連携し、既存の領域で研究をされている先生にアントレ教育の取組について興味関心を持っていただくことが有効であると考え ✓ 本事業で収集しているデータ公開は推進すると共に、収集されたデータの基になる実施プログラムの内容も開示していく必要があると考え ✓ 分析結果の公表などは、条件の違いなどを明確に示し、結果が独り歩きしないように留意したほうが良い ✓ 研究レベルの向上に向け、最高峰の研究に触れてもらうことは重要なので、評価の高い論文の輪読等を行う研究者のコミュニティがあると良いと考える |

全体統括委員会での意見概要

✓ 討議事項②において、2023年度実施した全国プログラム、FDプログラムに関する意見を得られた

討議事項①
アントレ教育の木の絵の具現化

討議事項②
各WGの進捗管理及びWGテーマの検討

全国プログラム

学生向けプログラム

- ✓ 2023年度の全国プログラムはオフラインでの開催となったが、当日の会場の熱気は高く、**オフラインは総じて良かった**
- ✓ 全国プログラムの満足度だけではなく、**推奨度についても観察していくと良いと考える**
 - ソーシャル・ノームの形成が重要であり、このようなプログラムを他者に勧めることで、自分が所属するコミュニティが変わると思える感覚の醸成が重要である
 - 推奨度を高めていくことはよいことだが、アントレ教育の特徴として、受講前の推奨度は正規分布しているが、受講後の推奨度は反正規分布になるので、一概に推奨度のみで判断は難しい
- ✓ 対面形式のため受講可能人数に上限は存在するが、**可能な限り受講機会は広げるべきだ**と考える
- ✓ アントレ教育のすそ野拡大に向け、**これまでこうしたイベントに参加してこなかった学生を巻き込めるよう**に努めていくべきと考える
- ✓ OB/OGを巻き込み、**メンターとして習ったことをすぐ教える機会**を用意することは重要であると考え
- ✓ 学生は「他大学との交流」を評価したが、**海外の学生との交流**もあるとよいのではないかと考える
- ✓ **受講後にも継続的に活躍できる場**の提供が必要であり、教育後の**簡易なロードマップ**が提示されると良いと考える
- ✓ 事業として間口は広げた方が良いと考えるが、本気で起業したい学生にもメンタリング等の**フォローできる仕組み**を事前に考えておけると良いと考える
- ✓ プログラムを受講した学生がその後実際にアクションを取ったのか、新たな価値創造をしたのか、トップ層の学生が起業したかどうかだけではなく、**受講した学生の底上げ・機運醸成に繋がったか追跡したほうがよい**と考える

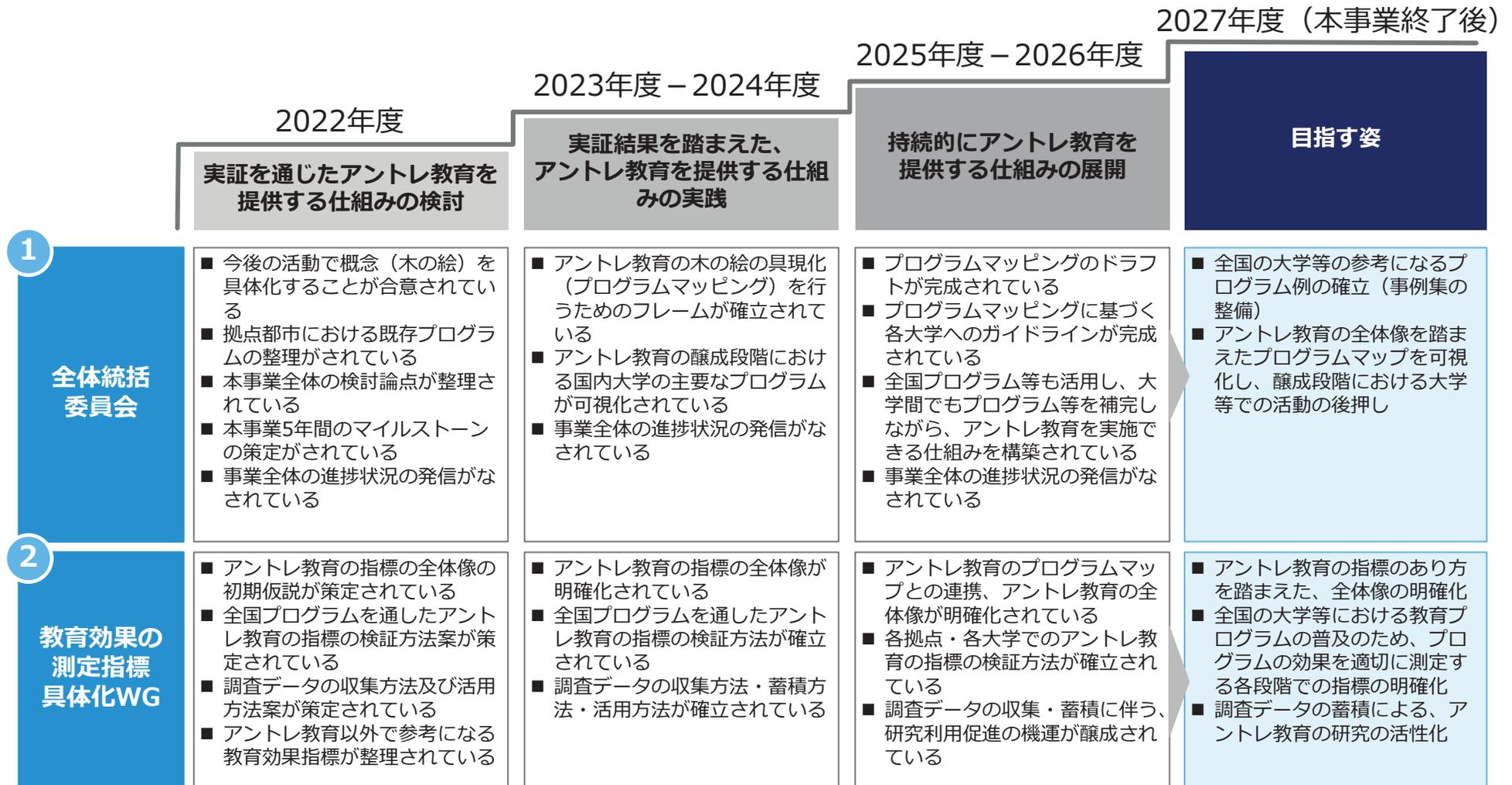
教員向けFDプログラム

- ✓ 2023年度の全国プログラムと合わせて、教員向けの教育研修（FDプログラム：Faculty Development Program）を開催し、**先生方が自大学・自地域でアントレ教育を実践していただくための機会**を用意し、チーム制を取り、継続してピアメンタリングや同窓会の機会を設け、追いかけをしていく必要がある
- ✓ **先生同士の仲間づくりができた**という観点では成果が上がったといえる
- ✓ 学生にプレッシャーを与えた部分はあったかもしれないが、**FDプログラムの効果としては、2022年度のオンライン形式でのFDプログラムと比較して、対面形式でやってよかった**と考えている
- ✓ FDプログラムを受講する先生方のレベル感はそれぞれ異なり、抱える課題感は異なるが、現状の日本のアントレ教育の状況を踏まえると、興味を持っている教員の数が少ないため、経験者と初心者が混ざった状態での研修にならざるを得ないので、**コミュニティの形成が重要**と考える
- ✓ **修士、博士向けのアントレ教育も重要**と考えられ、段階を示していくことが重要であると考え

本事業のマイルストーン*

✓ 本事業の目指すべき姿の実現に向け、5年間の各段階におけるマイルストーンに沿って、引き続き検討を進める必要がある

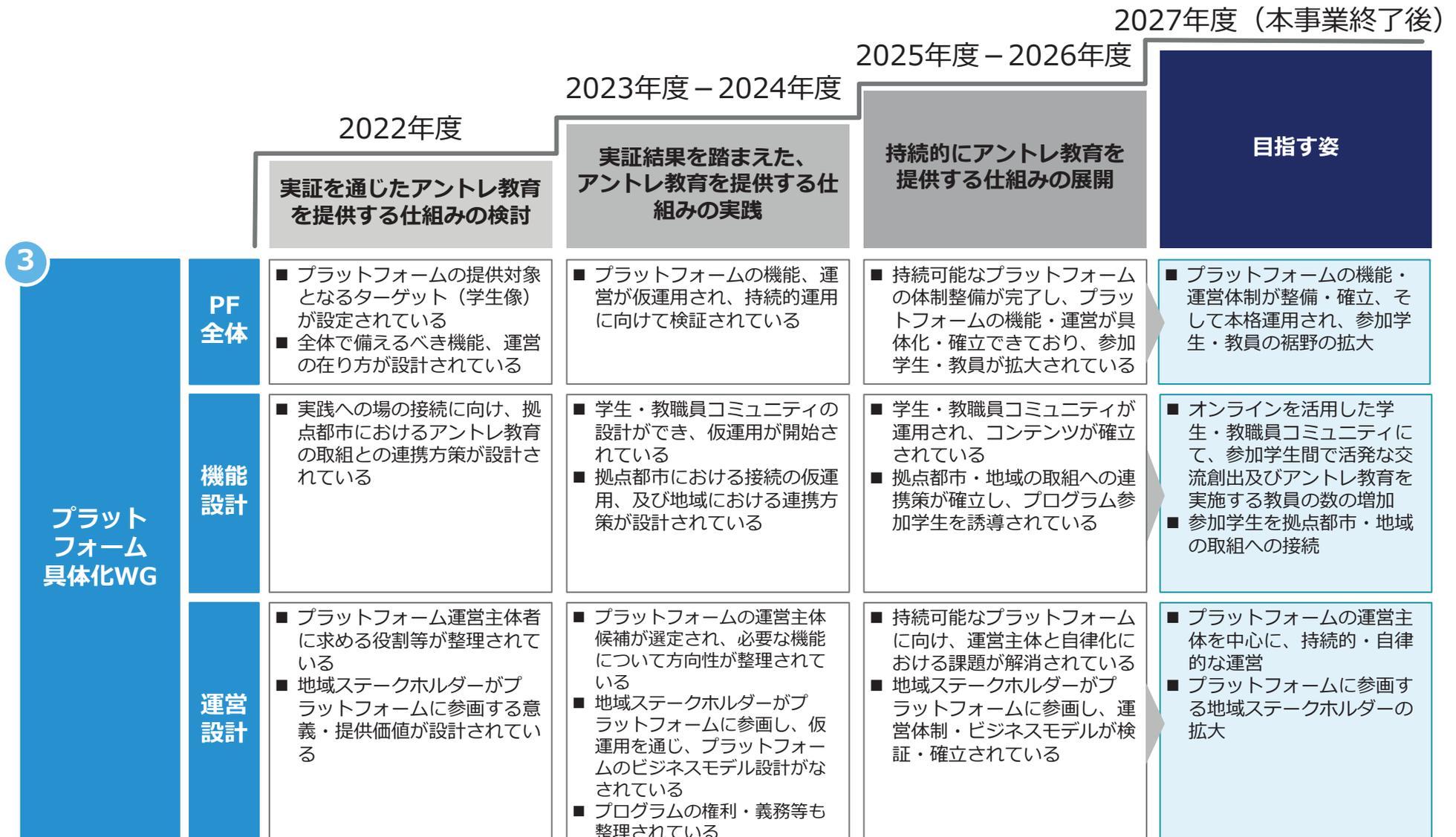
本事業では以下の活動を通し、全国の大学等において希望するすべての学生がアントレ教育を受講できる環境を実現させる。
また、上記実現のため、以下3点の事業KPIを設ける。1) 受講者6万人の実現、2) 実施200大学の実現、3) アントレ教育プログラムの質の確保



*：年度別の委員会の活動内容は22年度現在のものであり、外部環境や本事業の進め方の変化等により修正、更新される可能性あり

本事業のマイルストーン*

✓ 本事業の目指すべき姿の実現に向け、5年間の各段階におけるマイルストーンに沿って、引き続き検討を進める必要がある



*：年度別の委員会の活動内容は22年度現在のものであり、外部環境や本事業の進め方の変化等により修正、更新される可能性あり

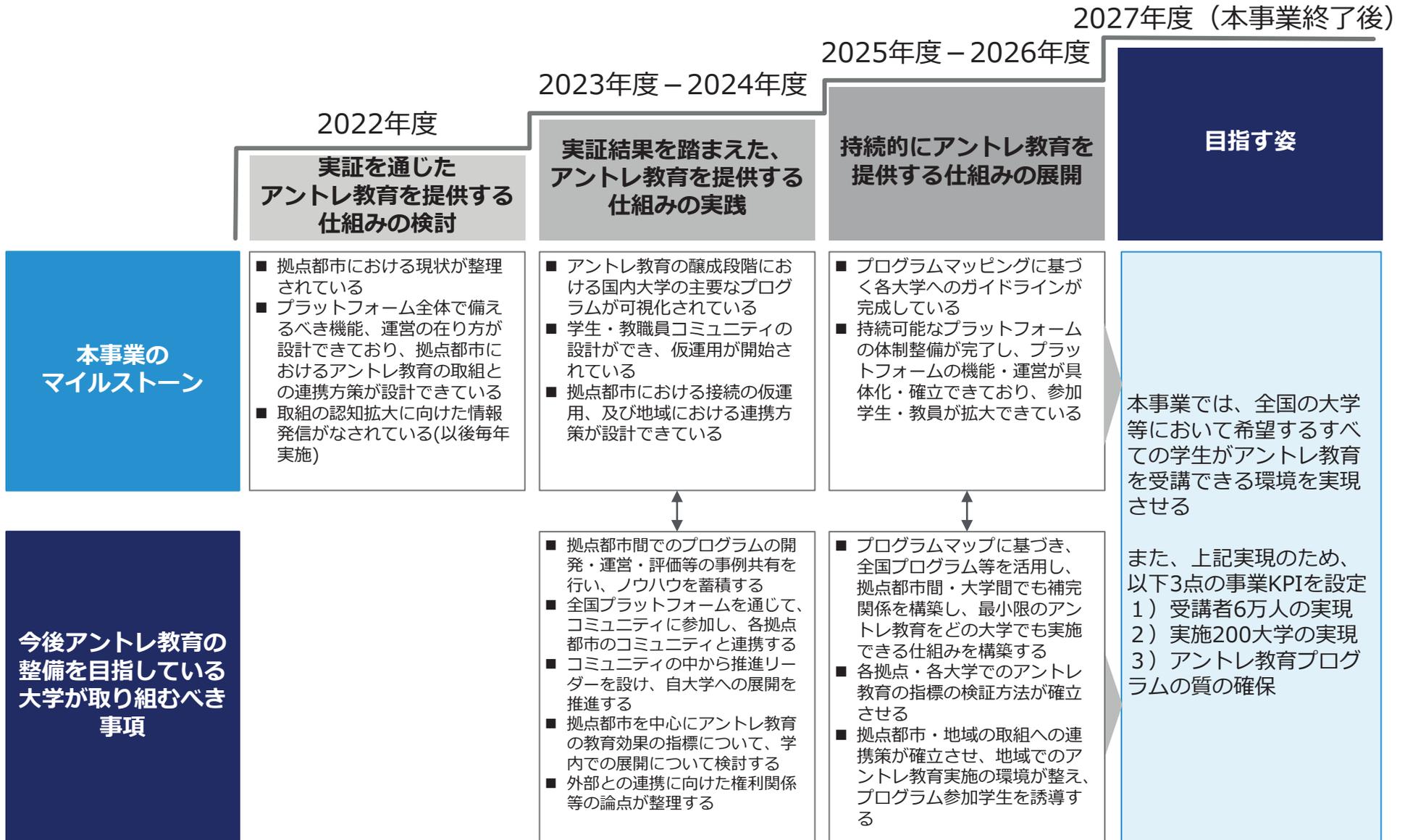
各委員会における検討項目（実施事項）

✓ マイルストーンで示した状態に到達するために、各委員会において検討し実施する事項を整理した

| | 2022年度 検討フェーズ | 2023年度－2024年度 部分実証フェーズ | 2025年度－2026年度 全体試行フェーズ |
|-------------------------|---|---|---|
| 1 全体統括委員会 | <ul style="list-style-type: none"> - 5年間のマイルストーンが策定されている - プログラムマップの検討がされている - 拠点都市における既存プログラムの調査がされている | <ul style="list-style-type: none"> - 国内外調査結果等を踏まえたフレーム枠の検討がされている - マッピングを確立し初期仮設が設定されている - マッピングとアンケート等を通じた検証がされている - 各大学におけるプログラム開発のための情報提供（ガイドライン検討）がされている | <ul style="list-style-type: none"> - マッピング案がブラッシュアップされている - ロールモデルをもとにした受講モデルが設計されている - 各大学におけるプログラム開発のため情報提供（ガイドラインの作成）がされている |
| 2 教育効果の測定 指標具体化WG | <ul style="list-style-type: none"> - 国内外の既存のアントレ教育の指標の調査、整理がされている - アントレ教育の指標の必要性・測定対象・測定方法についての検討がされている - 全国プログラムを通じて、検証すべきアントレ教育の指標の検討がされている - 調査データの収集方法、活用方法についての検討がされている | <ul style="list-style-type: none"> - 日本におけるアントレ教育の指標のあるべき姿について、初期仮説がブラッシュアップされている - アントレ教育の醸成度合いを経年で測定する評価手法のモニタリングによる改善検討が実践されている - 調査データの活用を推進するための、収集方法、蓄積方法の改善が実践されている - アントレ教育測定指標の中間案作成がされている | <ul style="list-style-type: none"> - 全体統括委員会にて検討しているプログラムマップとの合流とともに、アントレ教育の全体像の整理とブラッシュアップがされている - 全国の大学等における教育プログラムの普及のため、アントレ教育の指標について整理・ブラッシュアップがされている - 全国におけるアントレプレナーシップの裾野拡大における政策的な評価の実施がされている |
| 3 プラットフォーム 具体化WG | <ul style="list-style-type: none"> - プラットフォームの全体像が具体化されている - プラットフォームが対象とするターゲット（学生像）の設定がされている - プラットフォーム運営主体の役割設定、及び巻き込むべきステークホルダーの設定、巻き込み方の初期仮説が構築されている | <ul style="list-style-type: none"> - （全国プログラムの実践を通じた）学生・教職員コミュニティの在り方、持続的運営方法の検討がされている - 拠点都市・地域における実践の場への接続方法が具体化されている - プラットフォーム運営主体の検討及び、一部ステークホルダーの巻き込み実践を通じたプラットフォームの全体像及び運営モデルの将来像が設定されている | <ul style="list-style-type: none"> - 学生・教職員コミュニティの拡大方法が検討されている - 全国の地域コミュニティとの連携に向けた課題及び対応策が整理されている - 持続的・自律的なプラットフォームに向けた運営主体の効果的運営手法、及びステークホルダーの巻き込み拡大方法が整理されている |

本事業と各大学への対応関係

✓ 本事業を推進させるとともに、今後アントレ教育の整備を目指している大学が取り組むべき事項も合わせて整理した



2024年度の全体統括委員会の今後の検討論点

✓ 2024年度の達成目的（ゴール）を設定した上で、2024年度の有識者会議の今後の検討論点として下記のように設計している

| <p>実証結果を踏まえた、 アントレ教育を提供する 仕組みの実践 (2023年度 - 2024年度)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ■ アントレ教育の木の絵の具現化（プログラムマッピング）を行うためのフレームが確立している ■ アントレ教育の醸成段階における国内大学の主要なプログラムが可視化されている ■ 事業全体の進捗状況の発信がなされている | |
|--|---|---|
| 項目 | 2024年度のゴール | 今後委員会で検討していくべき事項 |
| <p>アントレ教育の木の絵の 具現化</p> | <ul style="list-style-type: none"> ■ アントレ教育のコアコンピテンシーの初期仮説の作成、発信 ■ プログラムマップの整備及びモデルプログラムの検討 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ アントレ教育のコアコンピテンシーの初期仮説の作成、情報発信の方法について検討 ✓ 各大学のニーズ、課題を踏まえ、プログラム開発のための情報提供に向けたガイドの検討 ✓ 国内大学の主要なプログラムの整理に加え、モデルプログラムの検討 |
| <p>各WGの進捗管理及び WGテーマの検討</p> | <ul style="list-style-type: none"> ■ 各WGの進捗状況の管理 ■ 時勢の変化に応じたWGテーマの検討 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 各WGの進捗状況の確認 ✓ 時勢及び各WGの進捗状況に応じたWGテーマについての検討 |

【第1章】有識者委員会での取組・議論内容

■ 全体統括委員会（アントレプレナーシップ醸成促進に係る全体像の整理）

- 1.1 アントレプレナーシップ醸成における課題を踏まえた論点の整理
- 1.2 アントレプレナーシップ醸成促進に向けた目指すべき姿
- 1.3 検証論点の全体像の整理

■ プラットフォーム具体化WG（アントレプレナーシップ人材の裾野拡大に向けたプラットフォーム形成に関する検討）

- 2.1 2023年度の検討課題
- 2.2 学生の巻き込み
- 2.3 実践の場への接続
- 2.4 企業等との連携
- 2.5 今後の検討項目

■ 教育効果の測定指標具体化WG（アントレプレナーシップ教育における教育効果の測定指標の確立に関する検討）

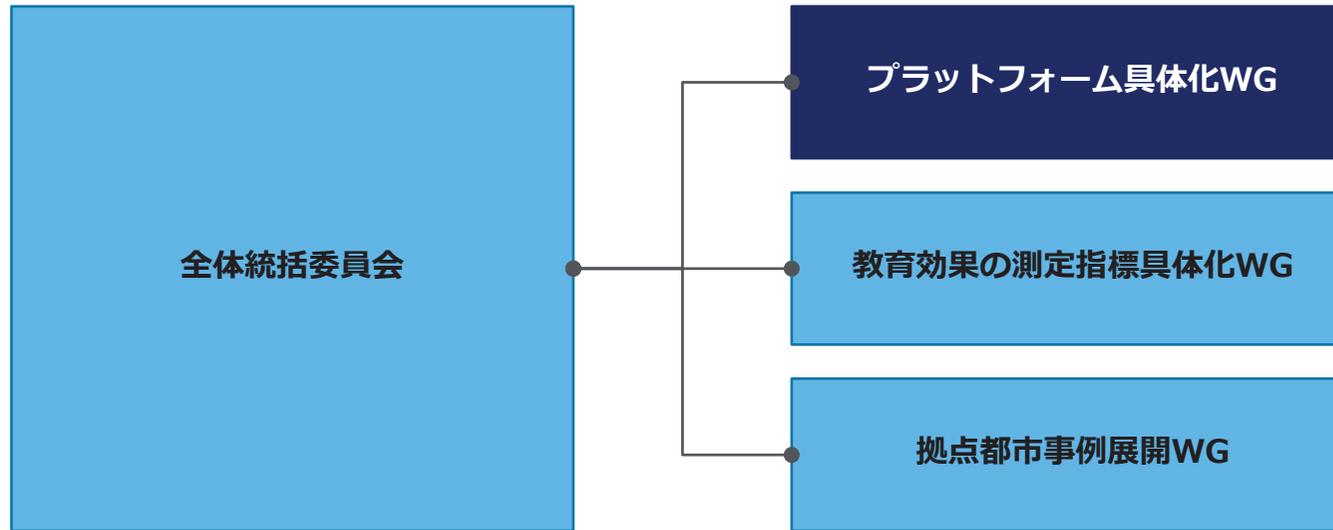
- 3.1 現状の課題・背景に基づく、検討論点と調査概要
- 3.2 教育効果の評価の確立に関する検討
- 3.3 全国アントレプレナーシップ人材育成プログラムを通じた検証に関する結果
- 3.4 整備した指標に基づく改善・研究の推進に関する検討
- 3.5 今後の検討項目

■ 拠点都市事例展開WG（アントレプレナーシップ教育に関する内容の事例やノウハウの共有に関する検討）

- 4.1 実施結果

プラットフォーム具体化WGの意義

- ✓ アントレプレナーシップの醸成に向け、プラットフォーム及びコミュニティの形成・持続的な運営が求められている

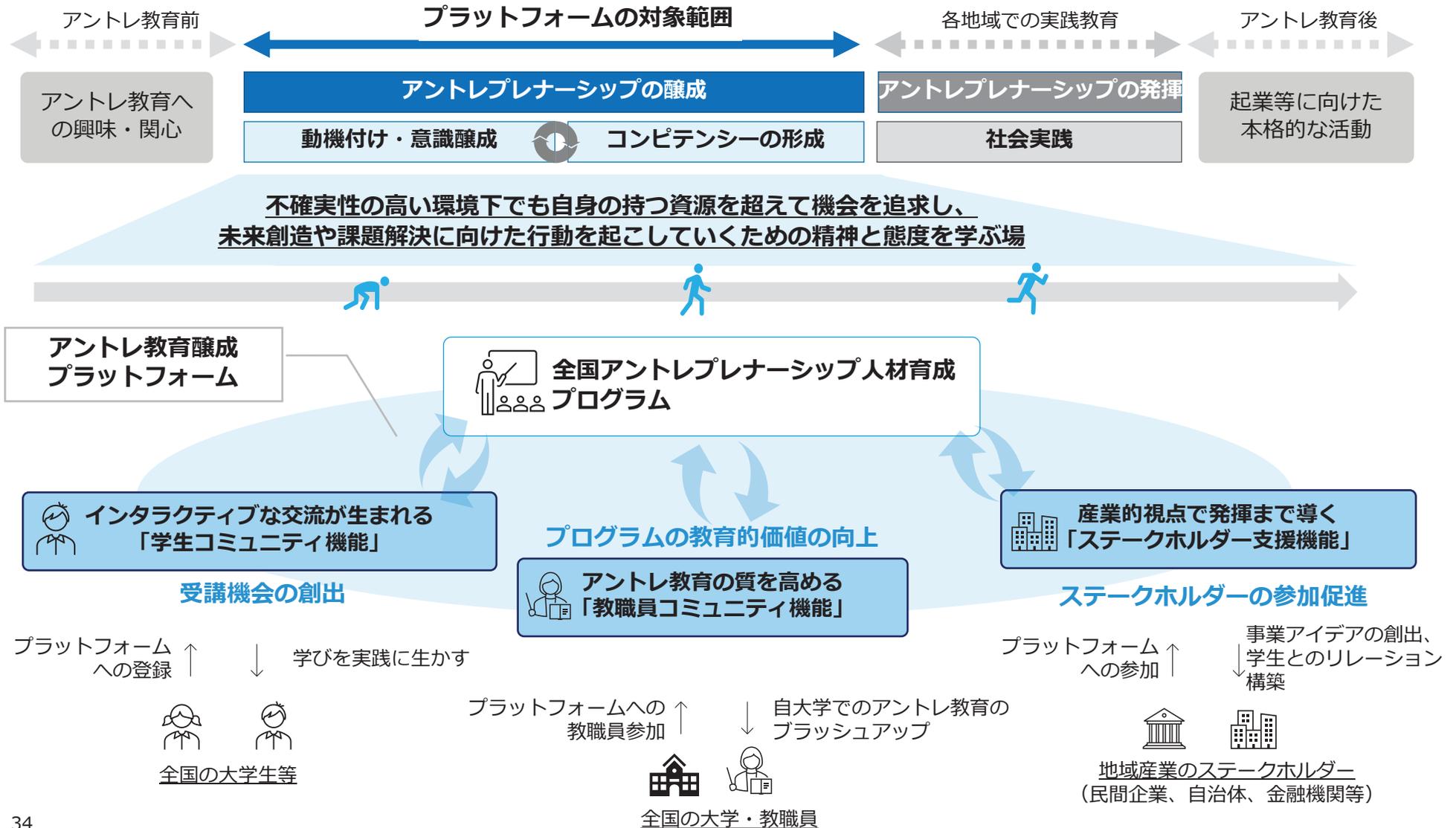


プラットフォーム 具体化WG

- 全国プログラムと連携しつつ、アントレプレナーシップを知らない学生に対して認知・関心を高め、学ぶ環境がない初学者に対し機会を提供する方策を検討
- 全国プログラム受講後に各拠点都市等で実施されているアントレ教育プログラムへ継続的に受講できる機会を提供する方策を検討
- 受講者同士や提供者同士が情報交換や交流、共同してプロジェクトを実施できるようなコミュニティの企画立案
- 民間企業等が資金等のリソース提供を含めて積極的に関与したくなるような仕組みや企画を検討し、プラットフォームの自立的運営のための方策を検討

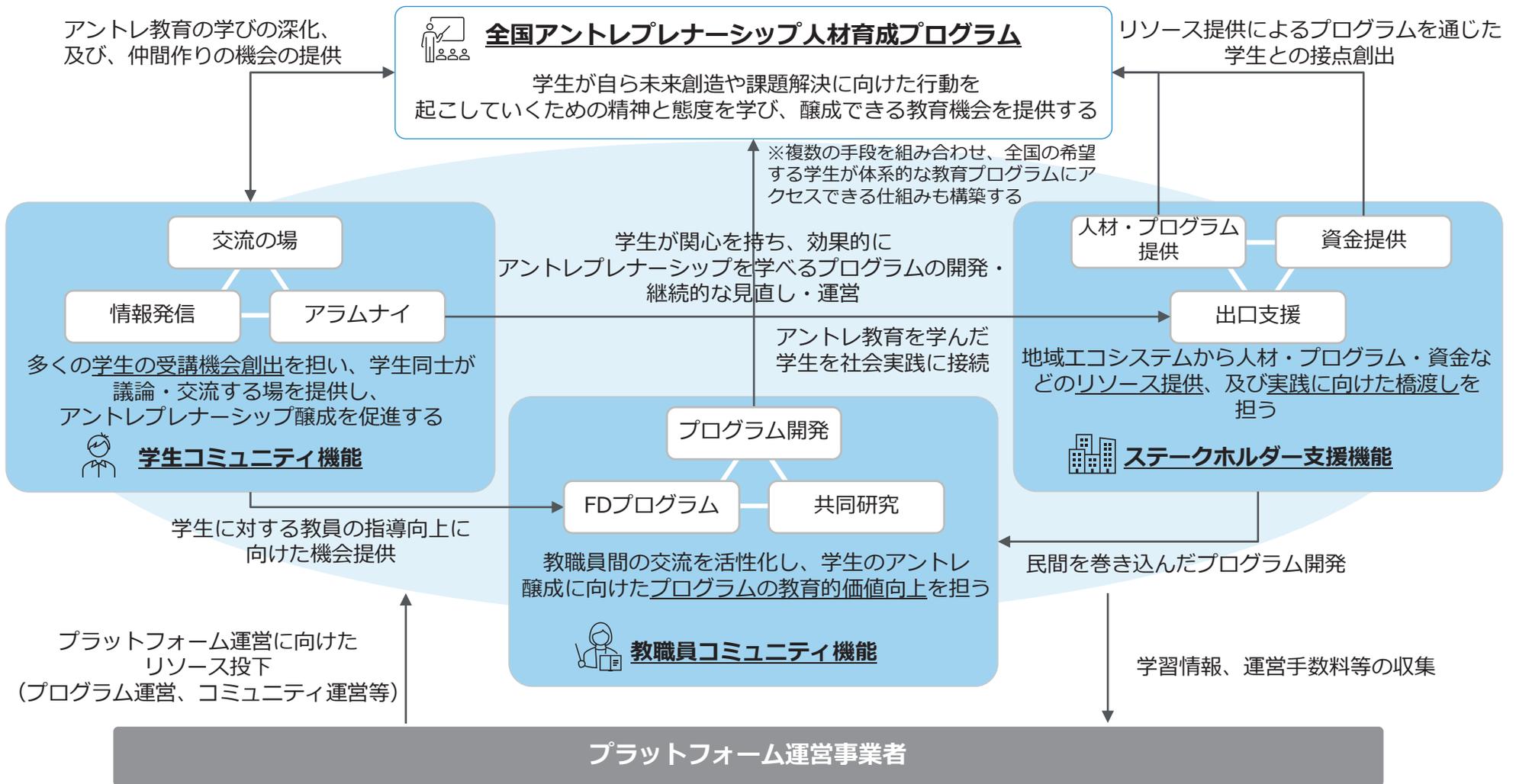
アントレ教育醸成プラットフォームの実現イメージ（初期仮説）

- ✓ 学生のアントレプレナーシップを醸成促進に向け、未来創造や課題解決に向けた行動を起こすための精神と態度を学ぶアントレ教育醸成プラットフォームの創設が必要と考える



アントレ教育醸成プラットフォームを構成する機能（初期仮説）

- ✓ アントレ教育プラットフォームでは、学生コミュニティ・教職員コミュニティ・ステークホルダー支援の各機能を有機的に関連させていく必要がある



プラットフォーム具体化WGの役割

- ✓ プラットフォーム具体化WGは、プラットフォームの全体像及び各機能の在り方と、プラットフォームの運営モデルを具体化する役割を担う

| 役割 | 論点 | 教育プラットフォームの全体像（現時点仮説） |
|-----------------|--|-----------------------|
| プラットフォームの全体像具体化 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ プラットフォームに備えるべき機能は？ ✓ プラットフォームのメインターゲットは？ | |
| 各機能の在り方具体化 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 全国の学生に教育機会を提供するにはどのようなプログラム提供方法をとるべきか？ ✓ 持続的なプログラム運営のためにはどのような体制/仕組みが必要か？ | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 学生・教職員をどう巻き込むか？ ✓ 継続的で活発な交流を生むためにはどのような仕組みとすべきか？ | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 学生を実践の場へ誘導するために連携が必要なステークホルダーとは？またどのような連携をすべきか？ | |
| 実践の場への接続 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 学生を実践の場へ誘導するために連携が必要なステークホルダーとは？またどのような連携をすべきか？ | |
| 運営の在り方具体化 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ プラットフォームの持続的な運営を実現するにはどのような運営体制を構築すべきか？ | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ✓ プラットフォームにはどのようなステークホルダーの巻き込みが必要か？ ✓ 巻き込みに必要なインセンティブは何か？ | |

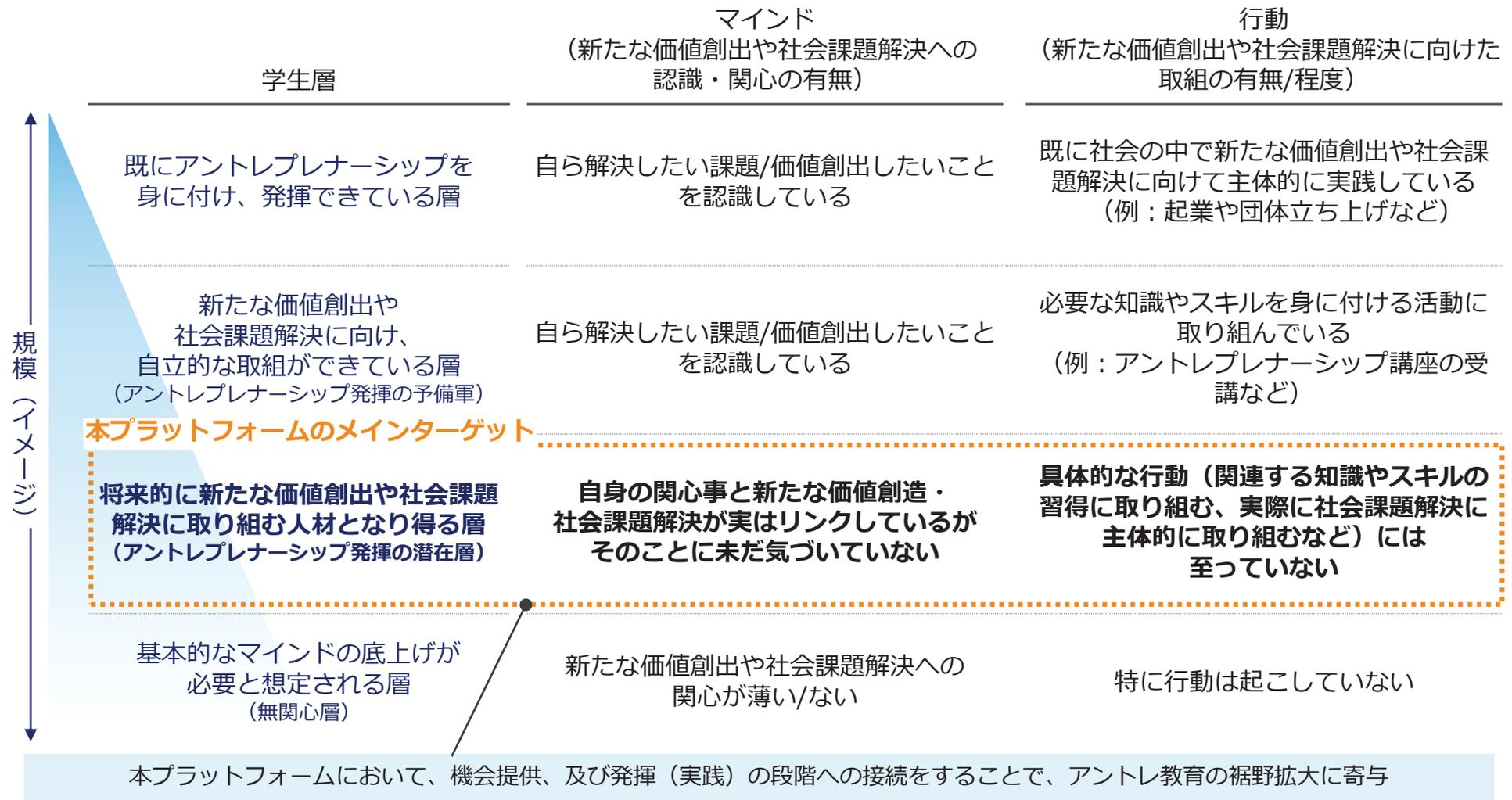
2023年度プラットフォーム具体化WGの開催概要

- ✓ 2023年度は、将来的に整備していく機能やコンテンツ・施策について議論したうえで、実践も交えつつ各機能の具体化を推進した

| | | | | | |
|-------------------------------------|---|-------------------------------------|--|---------------------------------|--|
| <p>目的</p> | <ul style="list-style-type: none"> ■ 全国プログラムと連携しつつ、アントレプレナーシップを知らない学生に対して認知・関心を高め、学ぶ環境がない初学者に対して機会を提供する方策を検討 ■ 全国プログラム受講後に各拠点都市等で実施されているアントレ教育プログラムへ継続的に受講できる機会を提供する方策を検討 ■ 受講者同士や提供者同士が情報交換や交流、共同してプロジェクトを実施できるようなコミュニティの企画立案 ■ 民間企業等が資金等のリソース提供を含めて積極的に関与したくなるような仕組みや企画を検討し、プラットフォームの自立的運営のための方策を検討 | | | | |
| <p>アジェンダ</p> | <table border="1"> <tr> <td data-bbox="331 753 831 906"> <p>討議事項① プラットフォームの機能</p> </td> <td data-bbox="840 753 2065 906"> <ul style="list-style-type: none"> ■ プラットフォームに備える機能や整備していくコンテンツ・施策について議論を行う </td> </tr> <tr> <td data-bbox="331 912 831 1046"> <p>討議事項② 各機能の具体化</p> </td> <td data-bbox="840 912 2065 1046"> <ul style="list-style-type: none"> ■ 上記整理した方向性に基づく各機能の具体化方策を、実践も交えて議論する </td> </tr> </table> | <p>討議事項① プラットフォームの機能</p> | <ul style="list-style-type: none"> ■ プラットフォームに備える機能や整備していくコンテンツ・施策について議論を行う | <p>討議事項② 各機能の具体化</p> | <ul style="list-style-type: none"> ■ 上記整理した方向性に基づく各機能の具体化方策を、実践も交えて議論する |
| <p>討議事項① プラットフォームの機能</p> | <ul style="list-style-type: none"> ■ プラットフォームに備える機能や整備していくコンテンツ・施策について議論を行う | | | | |
| <p>討議事項② 各機能の具体化</p> | <ul style="list-style-type: none"> ■ 上記整理した方向性に基づく各機能の具体化方策を、実践も交えて議論する | | | | |
| <p>実施方法</p> | <ul style="list-style-type: none"> ■ 開催日： <第1回目> 2023年7月26日（水）14:00－16:00、 <第2回目> 2023年12月25日（月）09:00－11:00、 <第3回目> 2024年3月12日（火）16:00－17:00 ■ 開催形式：オンライン開催 ■ 有識者委員：【座長】辻本将晴、今林広樹、鶴田宏樹、松尾豊、山口文洋（敬称略、座長以下氏名五十音順） | | | | |

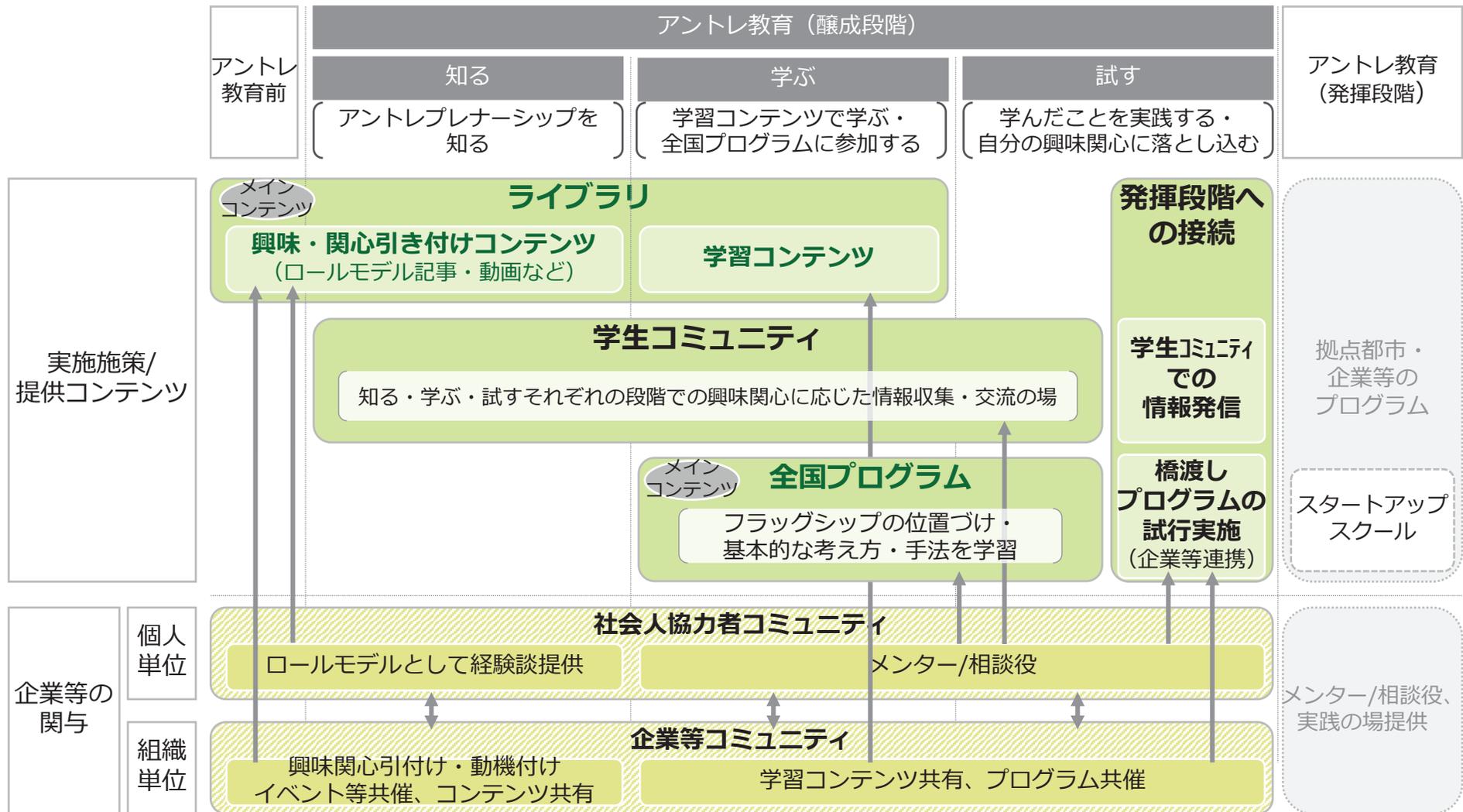
(参考) 本プラットフォームのメインターゲット

- ✓ 本事業は国内におけるアントレ教育の裾野拡大の役割を果たすものであり、アントレプレナーシップ発揮の前段階にいる学生がメインターゲットとなると考える



プラットフォームの機能（施策展開）の方向性

- ✓ ライブラリとプログラムをメインコンテンツとし、それらを繋ぎ興味関心に応じた情報収集や交流を支える機能として学生コミュニティを位置づけていく



機能具体化に向けた今後の推進事項

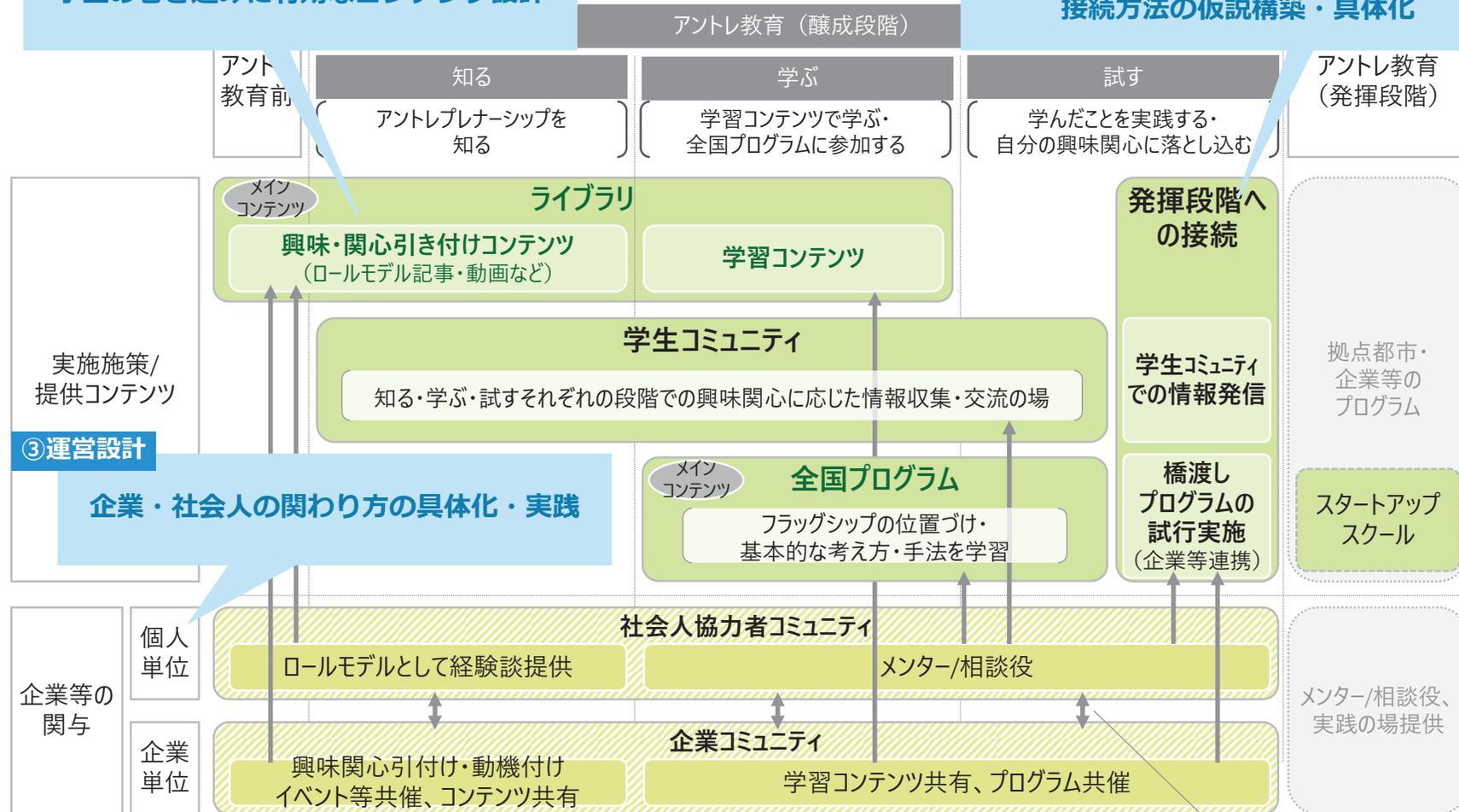
- ✓ 学生の巻き込みに有効なコンテンツ設計、接続の一部実践と地方も含めた接続方法の仮説構築・具体化、企業・社会人の関わり方の具体化・実践が必要と整理した

①PF全体

学生の巻き込みに有効なコンテンツ設計

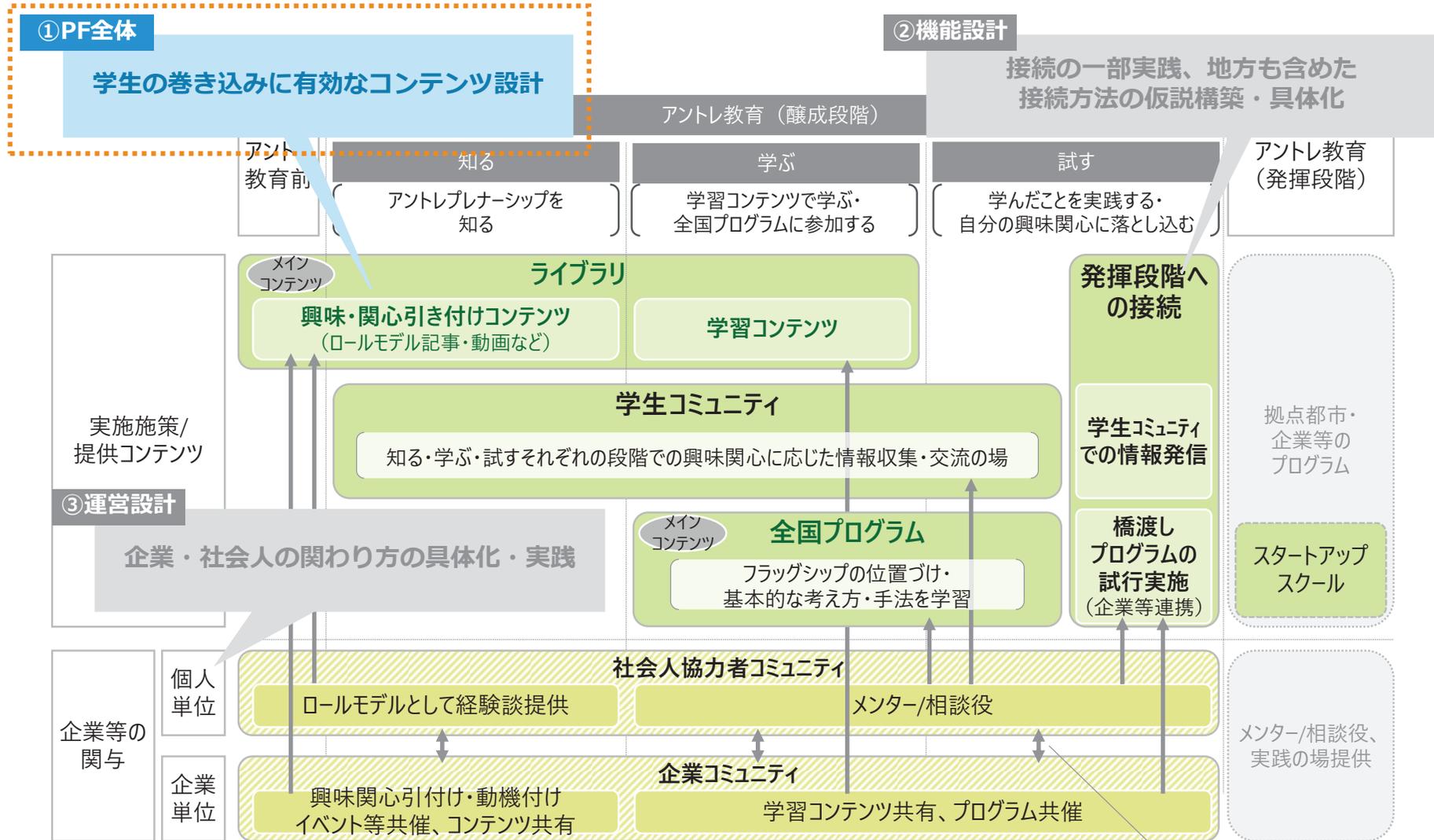
②機能設計

接続の一部実践、地方も含めた接続方法の仮説構築・具体化



企業単位での連携（プログラムやイベントの共催）の中で学生とのタッチポイントを作り、個人単位での交流機会を創出

実践を通じた機能具体化：学生の巻き込み



企業単位での連携（プログラムやイベントの共催）の中で学生とのタッチポイントを作り、個人単位での交流機会を創出

ターゲット学生の巻き込みに際する課題

- ✓ メインターゲットである第3層の学生の巻き込みに際しては、認知・興味・行動の各段階でのギャップ（課題）にアプローチする必要がある

| ターゲット巻き込み時の課題 | | 学生像 | 根拠 |
|---------------------|---|--|---|
| ① 認知の壁 | (知りさえすれば参加可能性があるものの) 知る機会がない | <ul style="list-style-type: none"> ➢ そもそも触れる機会がない、名前すら知らない ➢ 大学媒体等目に入っておらず、紹介される機会もなく、広告接触もできていない | <ul style="list-style-type: none"> ➢ 申込時アンケートにて「知らなかった」等が理由で参加経験のない学生が18%存在 ➢ 受講後アンケートより、プル型広報がプログラムを知った理由になっている割合が少ない |
| ② 興味の壁 | (情報は届いているが) 見たり聞いたりしただけでは 自身の関心とマッチせず 離脱 | <ul style="list-style-type: none"> ➢ アントレプレナーシップという名称や起業等になじみが薄い ➢ 広告はみているがクリックしない、サイトには訪れているが直帰、など「自分には関係ないと判断してしまう | <ul style="list-style-type: none"> ➢ 受講後アンケート内、これまで受講したことがない学生のうち、起業等以外の興味からの参加者が50%程度存在 ➢ 有識者会議でも議論がなされたテーマ |
| ③ 行動の壁 (競争要因) | (知っていて受けてみたい気持ちはあるが) 他の楽しいこと・役立つことに魅力 を感じ時間を創出してもらえない | <ul style="list-style-type: none"> ➢ 自分の成長に必要なだと理解はしていても、アルバイトや部活・サークル、研究などのほうが大切 ➢ 価値は理解しているが自身へのメリットが十分に伝わっておらず納得度が低い | <ul style="list-style-type: none"> ➢ 受講後アンケート内、「受講後取り組みたい活動」等より、受講したことがない学生は受講経験者より活動の幅が広い ➢ 全国プログラムの申込から受講の継続率が50%を切っている |
| ④ 行動の壁 (心理要因) | (知っていて受けてみたい気持ちはあるが) 自分にはハードルが高いと感じ 拒絶 | <ul style="list-style-type: none"> ➢ 価値は理解しているが、自分にできるだろうか、など、別の世界の話だと感じている ➢ 何かやってみたいという気持ちはあるが自信のなさや疎外感から決心が固まらず踏み切れない | <ul style="list-style-type: none"> ➢ 受講後アンケート内、「受講するうえで望ましい情報」にて同年代のロールモデルに関する情報を求める学生が10%程度存在 ➢ 有識者会議でも議論がなされたテーマ |
| ⑤ 行動の壁 (物理要因) | (知っていて受けてみたい気持ちはあるが) 物理的条件が合致せず 参加できない | <ul style="list-style-type: none"> ➢ 具体情報を調べ価値も理解し、ニーズもマッチしているが、日時・場所（費用）などが合わず参加がかなわない | <ul style="list-style-type: none"> ➢ 申込時アンケートにて「日時が合わない」、「申し込んだが当選しなかった」等が理由で参加経験のない学生が4%程度存在 |

施策検討時のポイントまとめ

- ✓ 各課題ごとに異なるニーズを、施策検討時のポイントとして押さえながら中長期で段階的に第3層のアントレ教育への関与度を上げていく

| 巻き込み時の課題 | 施策検討時のポイント | 施策の方向性 |
|---------------------|--|---|
| ① 認知の壁 | アントレ教育に関する情報が、 多くのターゲット層に適切・適量に届くこと | <ul style="list-style-type: none"> ➤ 情報に触れる機会を増やす ➤ 情報発信の質を高める |
| ② 興味の壁 | 情報に触れた際の表現がわかりやすく、 瞬間的に自身との接点・マッチ度を感じさせること | <ul style="list-style-type: none"> ➤ 情報訴求の切り口再検討 ➤ 全国プログラムの再設計 ➤ ロールモデルとなる学生創出 |
| ③ 行動の壁 (競合要因) | 他の活動と比べたアントレ教育の 魅力が明確になっており、自身にとって メリットがあると実感させること | <ul style="list-style-type: none"> ➤ 情報訴求の切り口再設計 ➤ アントレ教育のインセンティブづくり |
| ④ 行動の壁 (心理要因) | 教育を受ける前に気持ちの整理・ 奮起の場があり、不安を安心に変える タイミングがあること | <ul style="list-style-type: none"> ➤ 学生同士で等身大の声を伝える仕組みづくり ➤ 全国プログラム募集前プレイベントの開催 |
| ⑤ 行動の壁 (物理要因) | 要因を正確に特定し、参加の可能性が 高まる条件を設定すること | <ul style="list-style-type: none"> ➤ 全国プログラムを例とした不参加要因の正確な特定 |

(参考) 取組の優先度評価

✓ 前頁の観点で、各課題にアプローチした場合に想定されるインパクトを評価した

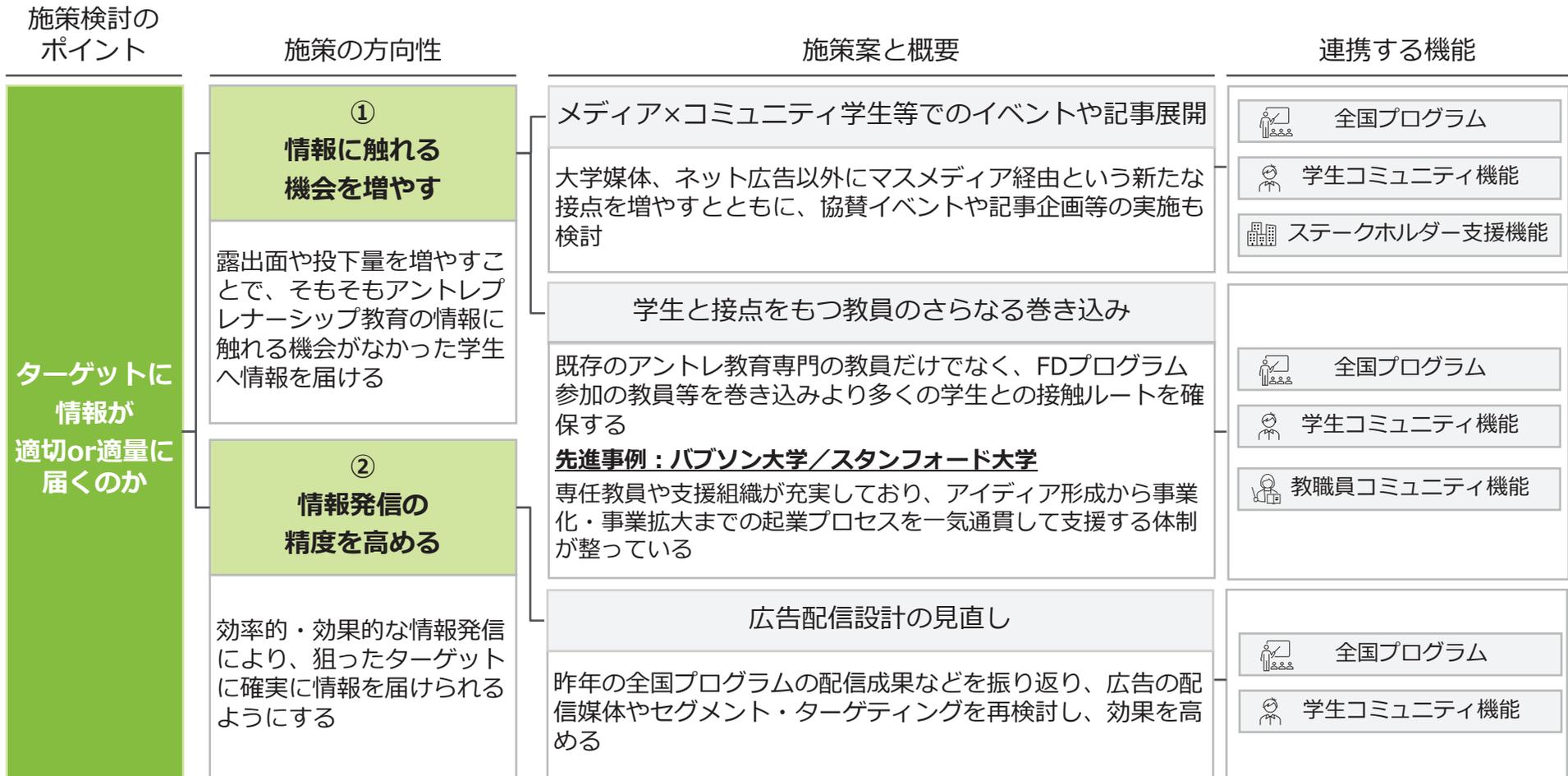
| 課題 | アントレプレナーシップ教育の裾野拡大 | | 発揮（実践）の段階への接続 | |
|---------------------|--------------------|---|---------------|---|
| ① 認知の壁 | 大 | <ul style="list-style-type: none"> ▶ サイト集客の数などから、第3層の推定数（約60万人）のうちの多くはここに位置づくと想定される | 小 | <ul style="list-style-type: none"> ▶ 知った結果、次の壁に阻まれる可能性も大いに考えられ、直接的に成果につながりにくいと想定される |
| ② 興味の壁 | 中 | <ul style="list-style-type: none"> ▶ 全国プログラム受講後アンケートより、これまで受講したことがない学生のうち、起業等以外の興味からの参加が50%程度存在し見込みがあると考えられる | 大 | <ul style="list-style-type: none"> ▶ 関心事と結びつきさえすれば、積極的に取り組むと考えられるため、成果に寄与する可能性が高いと想定される |
| ③ 行動の壁 (競合要因) | 小～中 | <ul style="list-style-type: none"> ▶ 全国プログラムに申し込んだが完了しなかった層だと捉えると規模は数百名だと想定される | 小 | <ul style="list-style-type: none"> ▶ インセンティブ目的での実利を重視した参加になると考えられるため、他に目移りしてしまいう可能性も大きいと想定される |
| ④ 行動の壁 (心理要因) | 小～中 | <ul style="list-style-type: none"> ▶ 全国プログラム受講後アンケートで「同年代のロールモデルに関する情報」を求める学生が10%程度存在し、ある程度含まれると考えられるが、多分に含まれるとは考えにくい | 大 | <ul style="list-style-type: none"> ▶ 気持ちの面をクリアさえすれば、積極的に取り組むと考えられるため、成果に寄与する可能性が高いと想定される |
| ⑤ 行動の壁 (物理要因) | 小 | <ul style="list-style-type: none"> ▶ 全国プログラム申込時アンケート「これまで受講しなかった理由」では日時が合わず参加できなかった学生は全体の4%程度で、規模は大きくないと想定 | 大 | <ul style="list-style-type: none"> ▶ 条件さえ合えば積極的に取り組むと考えられるため、成果に寄与する可能性が高いと想定される |

(参考) 取組の具体案 - ① 認知の壁

✓ 認知の壁の課題解決には、各機能を連関させ、より多くの第3層ターゲットに情報が届きやすくなる環境を作ることが重要

(知りさえすれば参加可能性があるものの) **知る機会がない**

- そもそも触れる機会がない、名前すら知らない
- 大学媒体等目に入っておらず、紹介される機会もなく、広告接触もできていない



(参考) 取組の具体案 - ② 興味の壁

- ✓ 興味の壁の課題解決には、各機能を連関させ、学生自身の興味関心とアントレ教育の特徴や魅力との接点を作り、わかりやすく伝えることが重要

(情報は届いているが) 見たり聞いたりしただけでは**自身の関心とマッチせず**離脱

- アントレプレナーシップという名称や起業になじみが薄い
- 広告はみているがクリックしない、サイトには訪れているが直帰、など「起業」以外のテーマに触れることなく自分には関係ないと判断してしまう

| 施策検討のポイント | 施策の方向性 | 施策案と概要 | 連携する機能 |
|----------------------|---|--|---|
| 学生自身の興味関心との接点を作れているか | <p>① 情報訴求の切り口再検討</p> <p>「アントレプレナーシップ」「起業」という言葉が一番に目に入らない表現に</p> | <p>学生の関心を惹きつけるWEBサイト改修</p> <p>アントレ×●●(環境、健康、教育など)、そもそもアントレ教育とは、といったイメージで具体的なテーマや何のための学びなのかをWEBサイトで紹介、ロールモデルとなる学生の声なども加え魅力的なサイトへ</p> | <p>全国プログラム</p> <p>学生コミュニティ機能</p> |
| | <p>② 全国プログラムの再設計</p> <p>学生の関心が高いコンテンツを再度検討し、広報しやすい内容に</p> | <p>企業や大学と共同しテーマ特化のイベントを企画</p> <p>全国プログラム内で、学生の興味関心の高いテーマに特化した内容で検討し、関連企業や大学を結びつけ開発に取り組む 先進事例：バブソン大学/スタンフォード大学/ミュンヘン工科大学 プログラムの設計時点から、主な対象となる学生が具体的に想定されており、学生属性に即した実践的な内容を組み込んでいる</p> | <p>全国プログラム</p> <p>教職員コミュニティ機能</p> <p>ステークホルダー支援機能</p> |
| | <p>③ ロールモデル学生創出</p> <p>アントレ教育に取り組む学生を具体例に、親近感により興味関心を引き付ける</p> | <p>全国プログラム卒業生の中から推進者となる学生を確立</p> <p>ロールモデルとして多くの学生の見本となり、リードしてくれる学生を増やすために、建学の精神などがマッチしている取り込みやすい大学をターゲットに巻き込みを検討する</p> | <p>全国プログラム</p> <p>教職員コミュニティ機能</p> |

(参考) 取組の具体案 - ④行動の壁 (心理要因)

✓ 行動の壁 (心理要因) の課題解決には、各機能を連関させ、不安な気持ちを払しょくし安心感に変えることができるかが重要

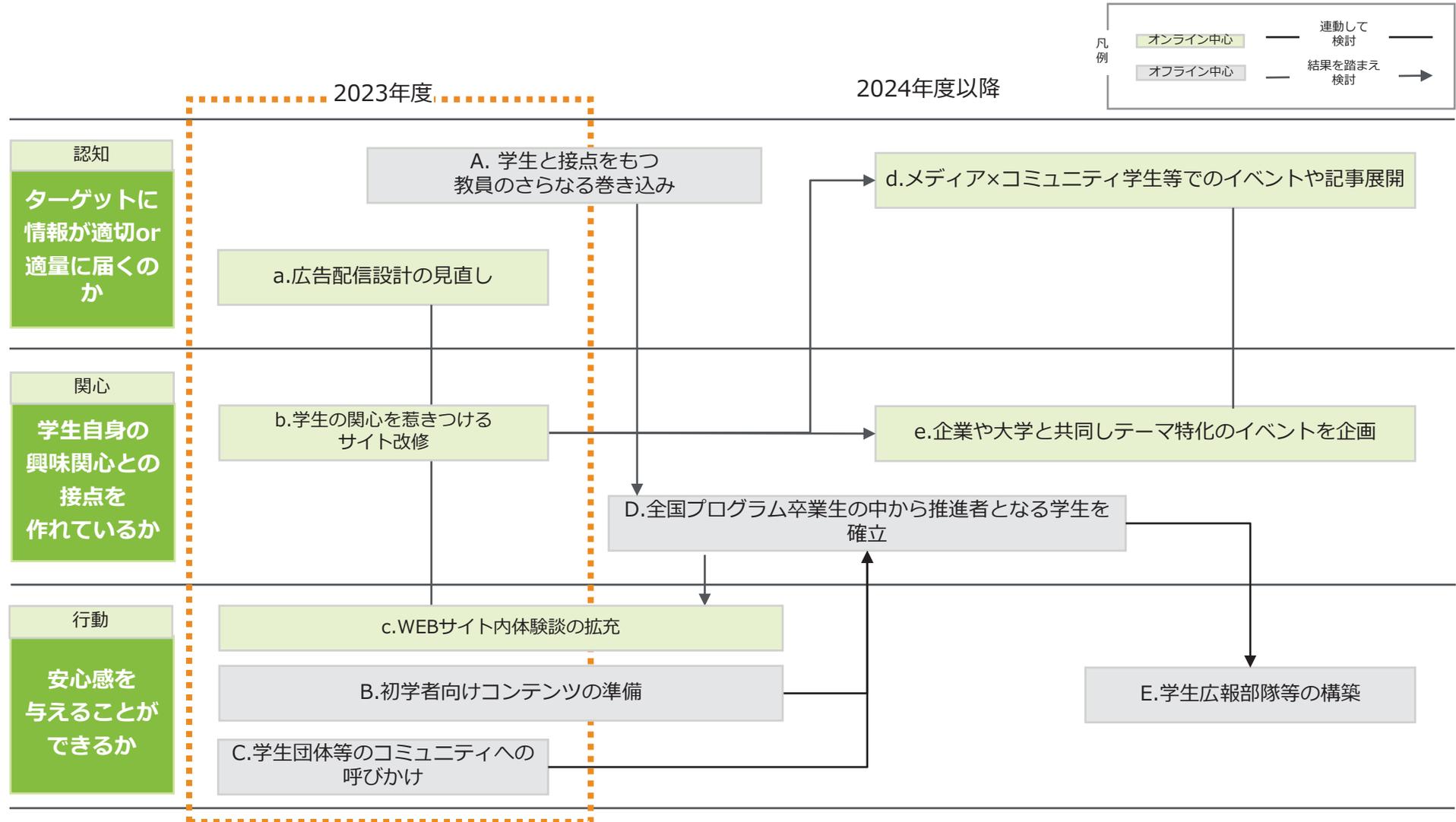
(知っていて受けてみたい気持ちはあるが) **自分にはハードルが高いと感じ拒絶**

- 価値は理解しているが、自分にできるだろうか、など、別の世界の話だと感じている
- 何かやってみたいという気持ちはあるが自信のなさや疎外感から決心が固まらず踏み切れない

| 施策検討のポイント | 施策の方向性 | 施策案と概要 | 連携する機能 |
|----------------|--|---|--|
| 安心感を与えることができるか | ① 学生主体で等身大の声を伝える仕組みづくり 最も親近感を抱きやすく、身近なロールモデルであるコミュニティ在籍の学生からの働きかけによって安心感を与える | 学生広報部隊等の構築 全国プログラムへ参加経験のある学生が主体となって、SNSアカウントの発信・運営など、インフルエンサーとなって活動できる仕組みを設ける | 全国プログラム 学生コミュニティ機能 |
| | | 学生団体等のコミュニティへの呼びかけ 各大学の関連サークル、または大学を横断した学生団体へ、参加経験のある学生とともに事務局がお伺いし、プログラムの紹介を行う | 学生コミュニティ機能 教職員コミュニティ機能 |
| | | WEBサイト内体験談の拡充 学生コミュニティや全国プログラムへの参加を、すでに参加経験のあるコミュニティ在籍学生が主体となって紹介・推薦する仕組みを設ける | 全国プログラム 学生コミュニティ機能 |
| | ② 全国プログラム募集前プレイベントの開催 いきなりプログラム本番ではなく先行して初学者と経験者の交流の場を与えるなどワンクッション設ける | 初学者向けコンテンツの準備 初学者のみが参加できる相談会、コミュニティ学生が主となったトークイベントなど、マインドセットを主目的としたコンテンツを検討 先進事例：i-Club / トビタテ!留学JAPAN / 早大BEYOND 学生がイベント企画などを担当することによって、学生主体の自発的な企画が生まれると同時に、学生同士による広報にも繋がる | 全国プログラム 学生コミュニティ機能 教職員コミュニティ機能 ステークホルダー支援機能 |

今後の展開施策

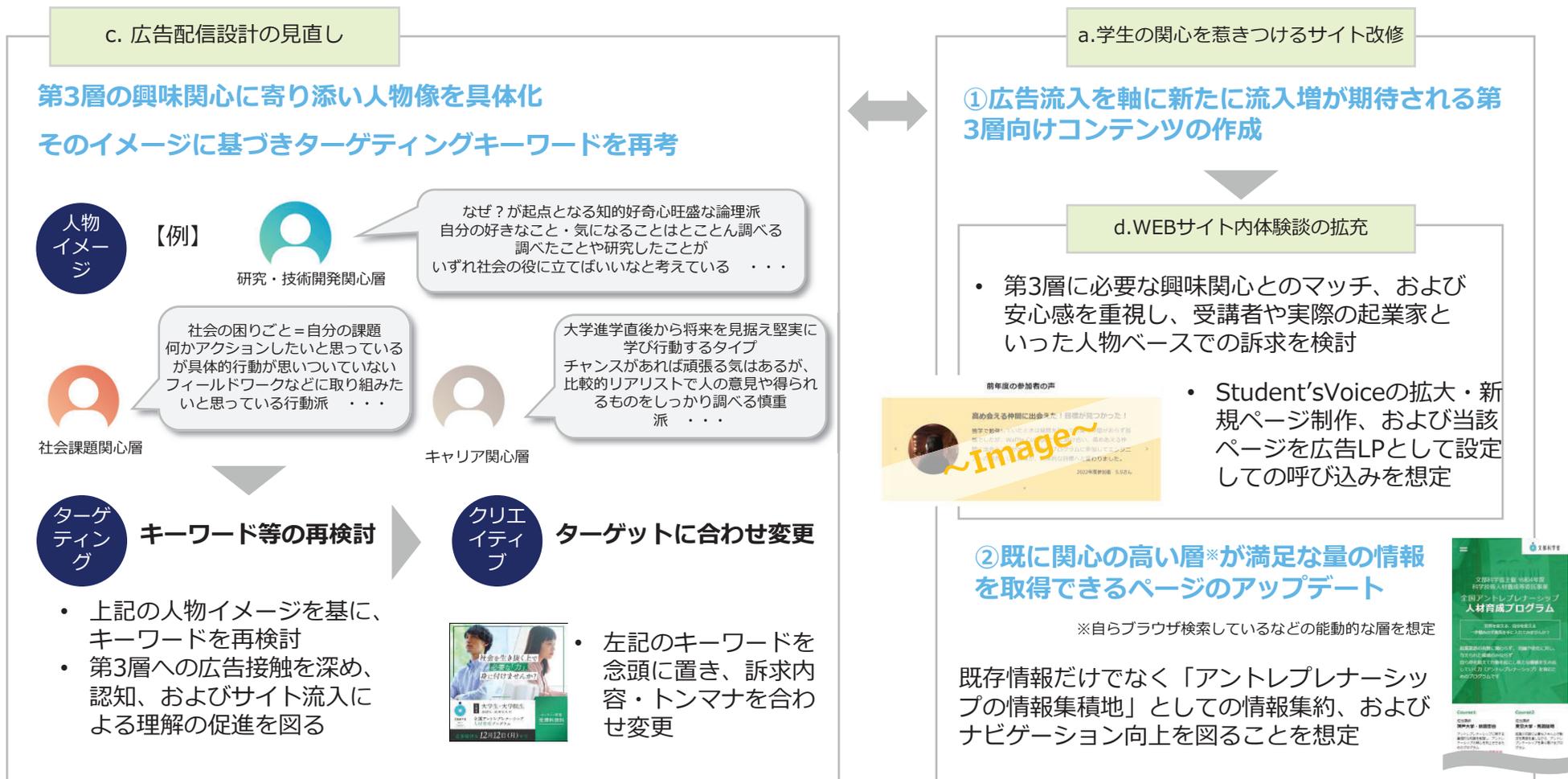
✓ WEB等によるオンラインアプローチと直接の声掛け等によるオフラインアプローチの両面で施策単発の実施にとどまらず、それぞれを連関させながら施策を展開していくこととした



施策実行にあたっては、施策単発の実施にとどまらずそれぞれの連関を意識しながら推進

2023年度実施施策：オンラインを軸としたアプローチ

- ✓ 広告配信のターゲティングの見直しを軸に、興味関心とのマッチ、安心感を与えられるWEBサイトへ改修、広告流入とオーガニックによる流入の両軸で情報接触の環境を整備



2023年度実施施策：オフラインを軸としたアプローチ

- ✓ 身近なコミュニティや先生からの呼びかけ、事前の説明・応援動画によって、気持ちが高まった状態の学生がより多く全国プログラムに参加することを促進

A. 学生と接点をもつ 教員のさらなる巻き込み

FDプログラムを通してできたネットワークを中心に、特にアントレ教育に関心が高まりきっていない教員の巻き込みを図る

【巻き込みの具体方法】



申込時、提出することとなる簡易実施計画にて具体的実施イメージを検討する機会を創出し、終了後の実施状況をモニタリング、サポート

見学とともにFD終了後配布予定のテンプレート教材(仮)で自身が教育を展開するイメージを具体化、より関心度を高めていく

- 2024年度以降で、学会※1での周知の機会を作る、SUに興味のある先生※2への呼びかけを図る等、より教職員との接点を増やしていくことを想定
※高等教育学会など ※GAPファンドを受給している先生など

B. 初学者向けコンテンツの準備

2023年度については作成中の動画にて不安を解消することを想定

- 文部科学省職員、東京大学馬田先生にご登場いただく予定の動画内でプログラムの中身を伝えたり、応援メッセージを盛り込むなどして不安を和らげる
- 2024年度以降、申込前の説明会イベント等、より初学者のハードルを下げるコンテンツ検討を進める

【2022年度参考】



C. 学生団体等のコミュニティへの呼びかけ

事務局より講師と受講経験のある学生を派遣し、PRの場をセッティング

- PRコンテンツとして、学生の体験談やその後の活動についてを想定、同じ大学の学生や卒業生が直接呼びかけることで不安を取り除き事業への関心度を高める

- HPフルオープン後の夏以降での実施を想定

【想定団体】



その他の取組①：記事コンテンツの広告配信

- ✓ 2024年度を見据えた裾野拡大の施策として、第3層の関心ごとに沿った広告カテゴリの検討と記事コンテンツの作成を通し、どういったコンテンツが第3層の関心度が高いのかを検証するための広告配信を実証的に実施

【実施概要】



社会課題関心層 研究・技術開発関心層 キャリア関心層

ターゲットを踏まえた
キーワード・配信チャネル設定※

ターゲットを踏まえた
記事コンテンツ作成

チャネル

Meta (Instagram)



【起業の観点】

- 起業
- 起業家
- 女性起業家
- 社会起業家
- スタートアップ
- ビジネスモデル
- 戦略的経営

【研究・技術の観点】

- 再生可能エネルギー
- 太陽エネルギー
- エネルギー資源
- 新エネルギー
- 医療・医療機関
- 研究
- 自然科学

【社会課題の観点】

- 社会ネットワーク
- ボランティア
- ネットワーク
- 社会科学

【キャリアの観点】

- 求職活動・キャリア
- 中小ビジネス
- マーケティング
- マーケティング戦略
- 人文科学

編集企画記事①

DXや技術革新をテーマに主に理系の研究・開発に興味がある学生を想定した編集記事



編集企画記事②

地方創生や社会課題解決をテーマに主に社会学系統の学生を想定した編集記事



学生座談会記事

自身の成長に意欲的な学生を広く想定し学生の成長を実体験として伝えるレポート記事



ターゲット仮説に基づきターゲットキーワードを設定

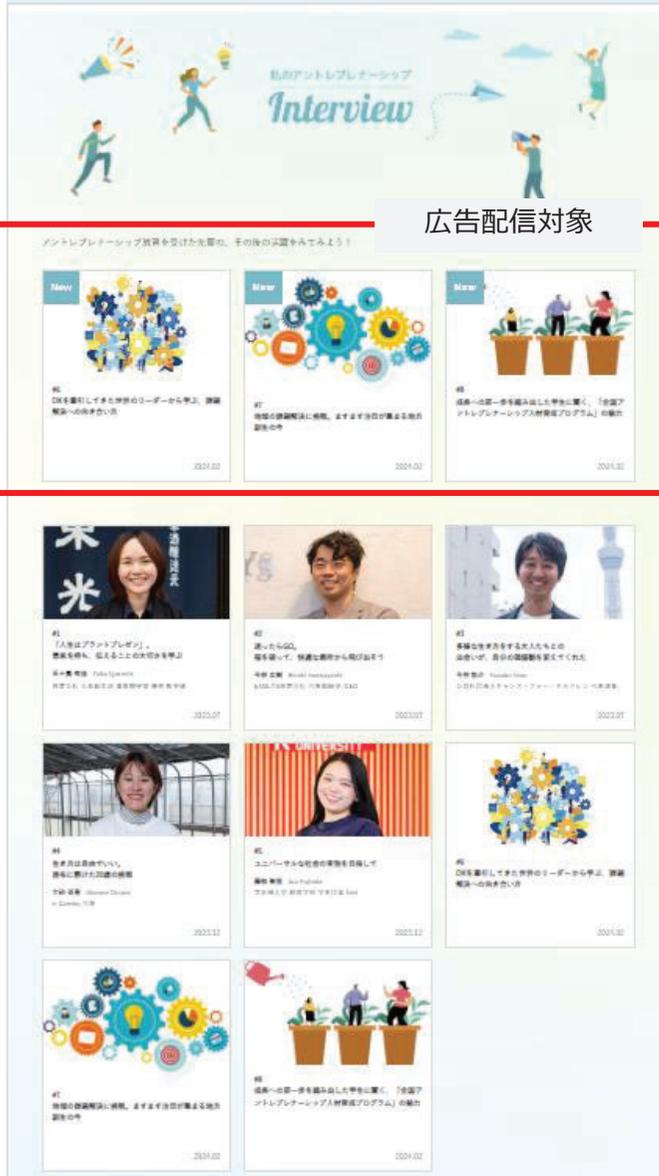
また、広告配信チャネルは昨年の広告配信結果から最も第3層の反応良いと考えられるInstagramを活用

※キーワードはWebマーケティングのターゲティング時に主に参照実際に設定しているキーワードと完全一致ではない

ターゲット仮説に基づきいくつかの記事コンテンツを作成
左記のターゲティング条件を用い、
同条件で広告を配信した時の反応を見比べることで、
「どのような記事が第3層にとって好反応なのか」を検証

その他の取組①：記事コンテンツの広告配信

- ✓ サイトの掲載されている計8件の記事コンテンツのうち新規編集記事3件に対して広告配信での集客を実施
- ✓ 地域課題解決をテーマとしたコンテンツ②、学生インタビューであるコンテンツ③の反応が良好という結果が見えた



広告配信対象

コンテンツ①
DXを牽引してきた
世界のリーダーから学ぶ
課題解決への向き合い方



コンテンツ②
地域の課題解決に挑戦
ますます注目が集まる
地方創生の今



コンテンツ③
成長の第一歩を
踏み出した学生に聞く
全国プログラムの魅力



※画像は配信時のバナーイメージ

広告配信結果概要

- ▶ 全国のターゲット層に広告ターゲットを設定し、3コンテンツ総計で**約17万人に対し表示させ約1,400件のクリック**を獲得
- ▶ コンテンツ②、コンテンツ③の反応（クリック率）が好調であったことから、「**地域・社会課題解決**」といったテーマや「**学生インタビュー**」といった切り口のコンテンツに関心を寄せる学生が比較的多く存在することが分かった
- ▶ 特に、コンテンツ③においては配信開始当初より比較的順調にクリック数を獲得できているため、今後類似のコンテンツの作成・配信によってより多くのユーザーを獲得できる余地があると考えられる
- ▶ また、コンテンツ②は他のコンテンツと比べ、ほかのページへ回遊する質の高いユーザーが比較的多く獲得できていることがサイトデータより読み取れた

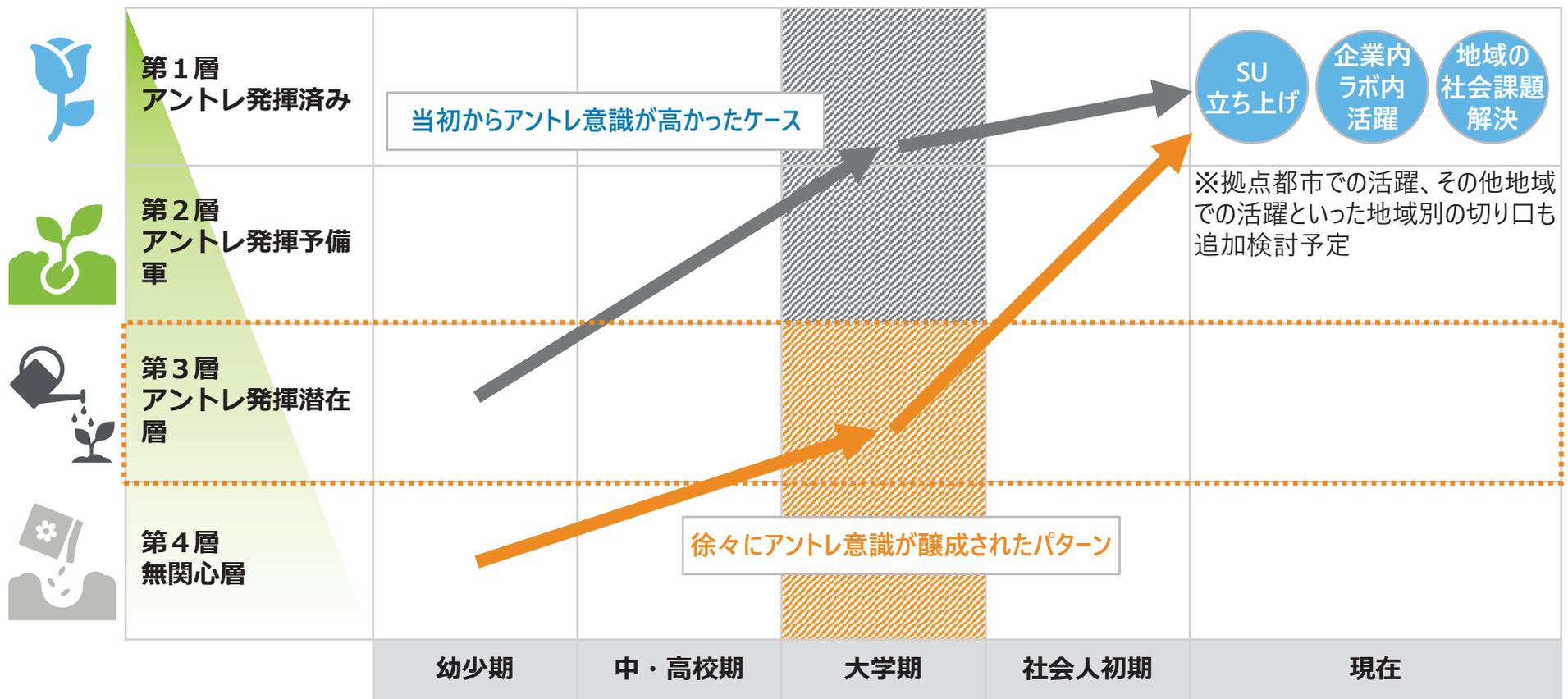
<https://entrepreneurship-education.mext.go.jp/my-entrepreneur/>

その他の取組②：ロールモデル取材

- ✓ アントレ教育を経て、現在様々なステージで活躍する先輩をロールモデルとして取材を行った
- ✓ 今後も取材は継続し、様々なロールモデルを紹介していく予定

POINT

- 第3層の学生が自分と重ね合わせられるように「徐々にアントレ意識が醸成された」ライフジャーニーを持つロールモデルを優先的に選定
- アントレプレナーシップの出口として①SU立ち上げ②企業内・ラボ内活躍③地域の社会課題解決でそれぞれ選出



その他の取組②：ロールモデル取材

- ✓ 随時、本事業のwebサイトに取材した記事・動画を公開



#1
「人生はプラントプレゼン」。
意思を持ち、伝えることの大切さを学ぶ

五十嵐 有佳 Yuka Igarashi
株式会社 小島総本店 事業開発室 兼務 販売課

2023.07



#2
迷ったらGO。
殻を破って、快適な場所から飛び出そう

今林 広樹 Hiroki Imabayashi
EAGLYS株式会社 代表取締役/CEO

2023.07



#5
ユニバーサルな社会の実現を目指して

藤枝 樹亜 Jua Fujieda
立命館大学 経営学部 学生団体 feel

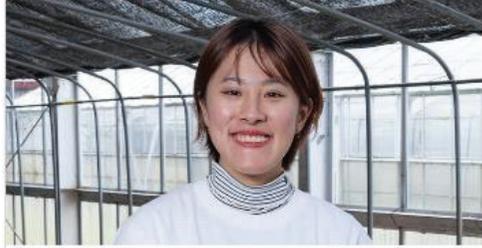
2023.12



#3
多様な生き方をする大人たちとの
出会いが、自分の価値観を変えてくれた

今井 悠介 Yusuke Imai
公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン 代表理事

2023.07



#4
生き方は自由でいい。
昆布に懸けた20歳の挑戦

大砂 百恵 Momoe Osuna
e-Combu 代表

2023.12

取材のアウトプットはHPより確認頂けます
<https://entrepreneurship-education.mext.go.jp/my-entrepreneur/>

その他の取組③：学生座談会

- ✓ 全国プログラムや特別講演を受講した学生から参加を募り、複数回の座談会を開催しニーズの吸い上げを実施

目的

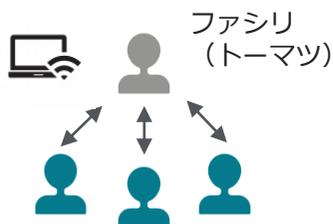
- 主目的：ライブラリ上のコンテンツ検討における学生ニーズ収集
- 副目的：全国プログラムへの流入経路やきっかけ（入口）の把握、接続先プログラムに関するニーズ収集（出口）

実施概要

- **対象**
2023年度全国プログラム受講生、山川先生特別講演参加者
- **日程**
①2024年2月28日 ②2024年3月4日 ③2024年3月7日
各回1時間
- **形式** オンライン（Zoom）

【実施イメージ】

プログラム参加学生2～4名を1グループとして実施



参加者属性

| 実施回 | # | 属性 |
|-------------|---|---------------|
| ①2024年2月28日 | 1 | 経営学部2年/関東在住 |
| | 2 | 国際系学部4年/中四国在住 |
| | 3 | 経済学部4年/関東在住 |
| | 4 | 工学系学部1年/関東在住 |
| ②2024年3月4日 | 5 | 薬学部2年/関東在住 |
| | 6 | 高校1年/関東在住 |
| ③2024年3月7日 | 7 | 国際系学部1年/関東在住 |
| | 8 | 法学部1年/東北在住 |

学生座談会：学生からのコメント

- ✓ 学生座談会では、関連するプログラムや学習コンテンツ等の情報が集約されている情報源を求める声が聞かれた
- ✓ 興味関心の引き付けという点では、分野・テーマ別やレベル別でのカテゴライズや、ロールモデル記事等の具体的なイメージの提供が有効であるとのコメントが複数あり

コメント抜粋

ライブラリ自体へのニーズ

- 全国プログラム参加後、**ほかにどのようなプログラムがあるかを積極的に調べるようになった**。また、同じ大学で同じ志を持っている人を探して、起業について話したり、イベントの情報交換をするようになった（工学系学部1年/関東在住）
 - ー 情報を集めるのは一苦労なので、**まとめサイトのようなものがあれば有用**だと感じる
- 情報がまとまっていると興味のあるイベントにアクセスしやすいので使うと思う（薬学部2年/関東在住）
- やりたいことは一定あるが、**どのようにして学びを深めていけばいいか**、情報があまりなく悩んでいる。自分で情報収集しに行くのは大変。1つに集約されているとうれしい（経営学部2年/関東在住）

構成・内容等への意見

- 自分と同じように初心者的人は何から取り組めばいいのかわからない。このくらいのレベルの人はこのプログラムがおすすめ、といったように、**成長段階ごとに情報が掲載**されているといい（工学系学部1年/関東在住）
- 貧困問題とか国際交流というワードに興味があるので、そういったワードがあるとやはり目を引く。フェーズごと、スキルごとの整理もよいが、**分野などのキーワードが並んでいる方が興味を抱きやすい**。（国際系学部1年/関東在住）
- **分野やテーマでカテゴライズされていると興味を持ちやすい**のではないかと（高校1年/関東在住）
- **分野・テーマごと**の方が興味を持ちやすい（経済学部4年/関東在住）
- 自分の興味から周辺に広がりを持ちたいとも考えているので、**自分の興味を軸にしながらほかの新しい分野に踏み出すきっかけ**がサイト内で持てるとよい（薬学部2年/関東在住）
- **「私のアントレプレナーシップ」の今林さんの記事**がすごくためになった。AI、情報系に興味があるが実際起業するときにどんなことをやるのか、どのような人なのかというのを自分と重ねながら読んだ。**人となりを知れたのが良いポイント**で、文章量はもっと長くてもいいくらいだと感じた（工学系学部1年/関東在住）

具体的な興味関心テーマ

- 自身は**海外、教育、まちづくり**といったキーワードに関心があり、そのような分野ごとのカテゴライズがあると興味を持ちやすい、調べやすいのではないかと感じた（経営学部2年/関東在住）
- 自分は**政治**などに興味があるためそういったワードがあると興味を持ちやすい。周りの友達も社会問題や**ソーシャルグッド**に関心のある人は多い（高校1年/関東在住）
- 普段情報収集する際はGoogleで**「医療×○○」「学生×○○」**などのキーワードを入れて検索している（薬学部2年/関東在住）

実践を通じた機能具体化：実践の場への接続

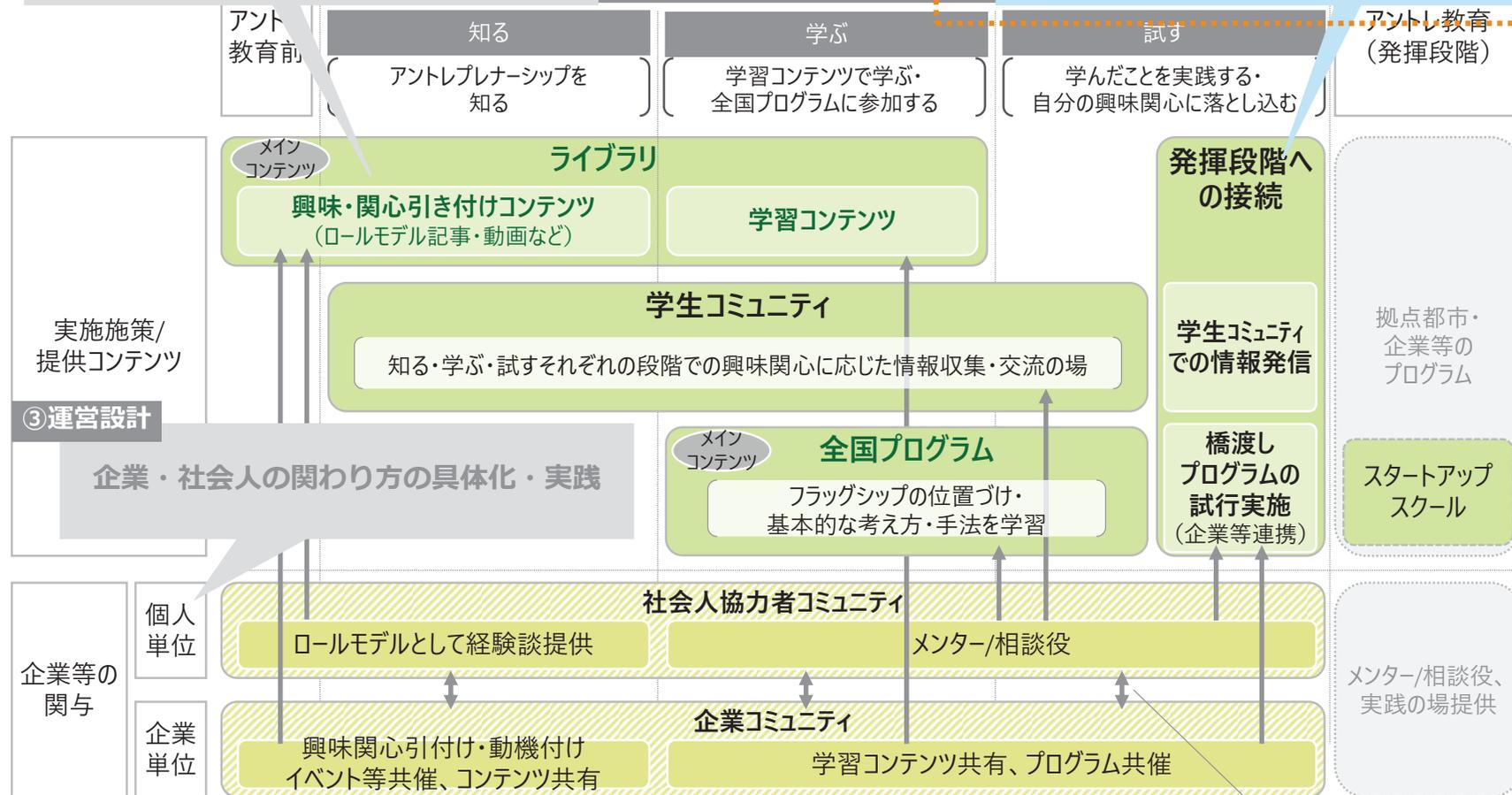
① PF全体

学生の巻き込みに有効なコンテンツ設計

アントレ教育（醸成段階）

② 機能設計

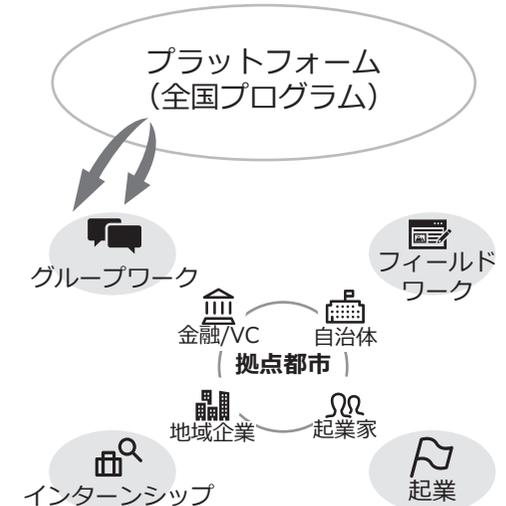
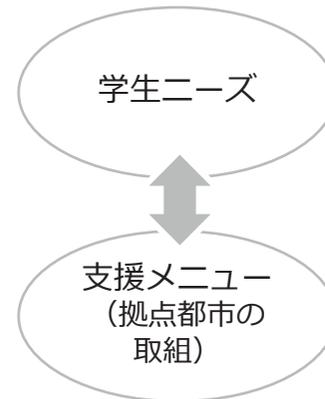
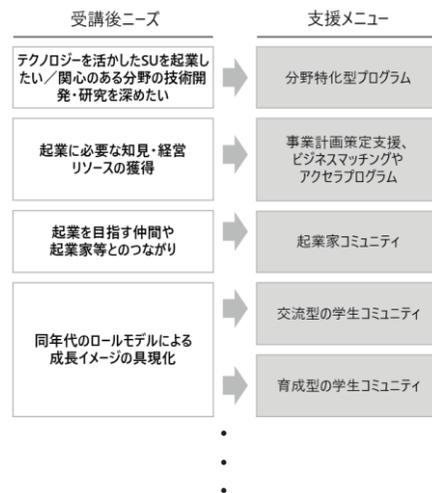
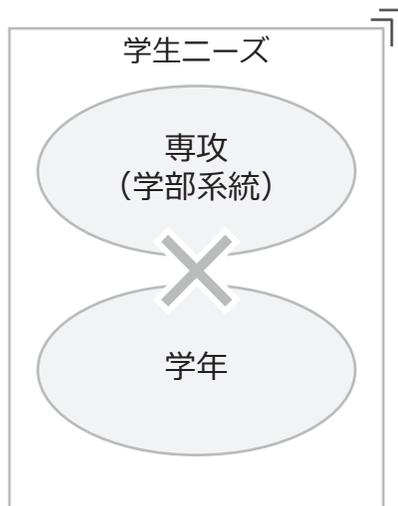
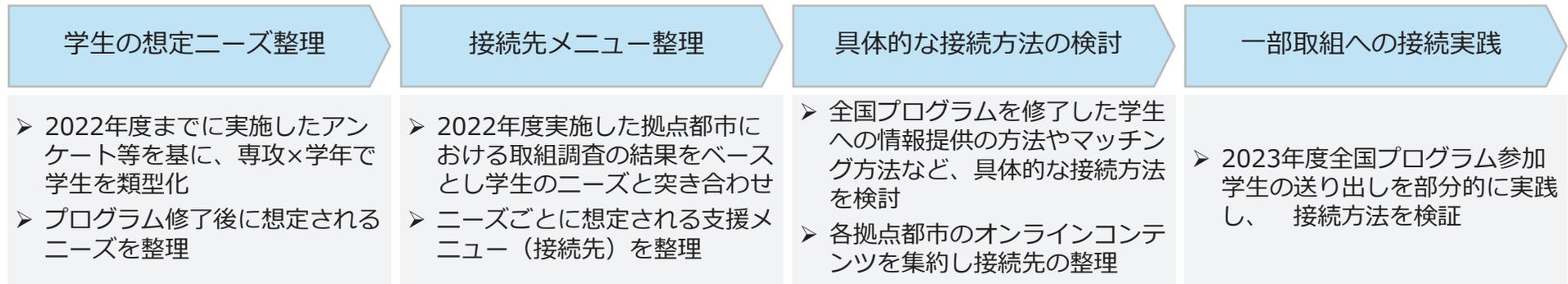
接続の一部実践、地方も含めた
接続方法の仮説構築・具体化



企業単位での連携（プログラムやイベントの共催）の中で学生とのタッチポイントを作り、個人単位での交流機会を創出

2023年度検討の進め方

✓ プログラム修了後の学生のニーズを起点に、接続先候補となるプログラムの整理や具体的な接続方法の検討を進めた



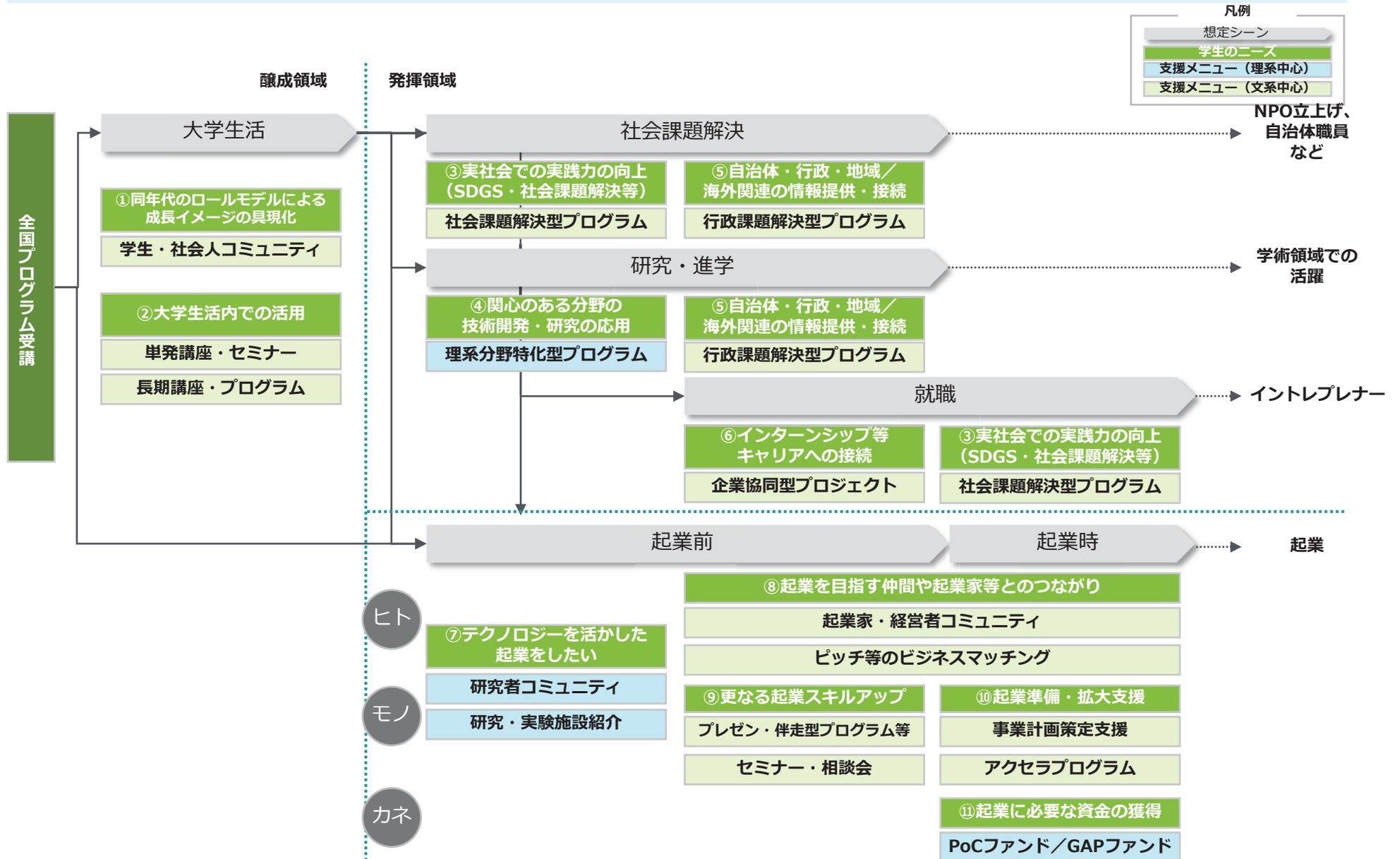
プログラム終了後の想定ニーズ（類型・学年別／サマリ）

- ✓ 学問分野、学年によりニーズ傾向をまとめたところ、自然科学および社会科学において起業ニーズが高く、学年が上がるるとキャリアや専門領域に関するニーズが高くなる傾向がある

| 学生の類型 | | 分野間で見られた傾向 | | 学年間で見られた傾向 |
|-------|---------------------|---|---|---|
| 理系 | a.自然科学 (理・工・農…) | 他系統と比べ社会課題への関心が高く、 アントレプレナーシップや起業に対する興味・向上心が比較的高い 傾向がある | × | 学部1,2年生では 漠然と社会課題への興味 を持っており、大学院生等学びが深まると、 技術開発や研究につながることや、テック系起業等のニーズ が高まると想定される |
| | b.自然科学 (医・歯・薬…) | 起業関連ニーズが著しく高い学生がいる一方で、具体的に成長イメージや活動イメージを描けていない学生もおり、 同系統内でも二極化している 傾向がある | × | 起業関連ニーズが高い学生においては 年次が上がるにつれてより起業を具体的に見据えた支援 が求められている イメージが描けていない学生は学年を問わずロールモデルや活用の相談先を求めることが想定される |
| 文系 | c.人文科学 (文・歴・哲学…) | キャリアに経験を活かしていきたいニーズ 、また、 専門領域に経験を活かしていきたいニーズ が他系統と比べ高い傾向にある | × | 学部1,2年生では キャリアニーズ が強いものの、大学院生になり専門性が高まると 地域や海外など専門領域との接続ニーズ が高まると想定される |
| | d.社会科学 (法・経・商…) | 他系統と比べ 初めから起業に関心のある学生も多く 、さらにスキルを高めていきたいニーズがあるほか、社会課題への興味も強い傾向がある | × | 学部1,2年生では 漠然と社会課題への興味 を持っており、学部3,4年では キャリアへの関心が高まる が、院生以上になると 具体的に起業を見据えた支援を求められる と想定される |
| 学際領域 | e. 生活科学・ 教育・芸術等 | 他系統と比べ 同年代のロールモデルによる成長イメージを強く求める 傾向があり、社会課題への関心が最も高い | × | 学年での傾向はあまり見られず 、全体的に経験の活かし方を具体化させるためのロールモデルを求めていると想定される |

受講後ニーズごとの支援メニュー想定

✓ 社会実践に至るまでの学生の動きを念頭に、適切にステップを進めていけるよう支援メニューを展開していくことが必要



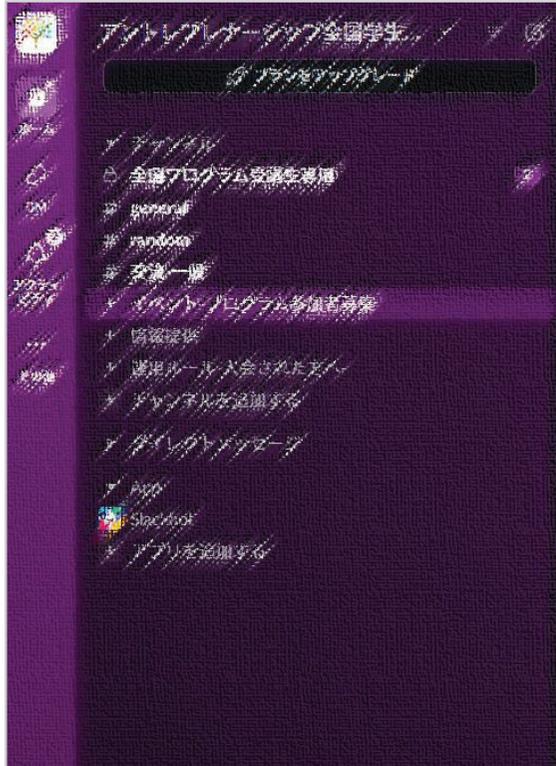
接続先候補：連携に向けたヒアリング実施先一覧

✓ 以下の企業・団体との連携協議を行った

| | 企業・団体属性 | 提供プログラム概要 |
|----|-----------------------------|--|
| 1 | 情報通信業A (エンタメ・テクノロジーサービス) | 当社が持つ事業・技術を事例に、ソリューション発案、UXプロトタイプ作成、ピッチを実施していく少人数制インターンを提供 |
| 2 | 情報通信業B (金融サービス) | FinTechの領域において、高い技術を身につけるだけでなく、様々な分野の現状を知り、未来に向けて新しい仕組みやシステムを考えていくためのプログラムを提供 |
| 3 | 情報通信業C (ソフトウェア開発) | 理系学生を中心に、開発経験があり一定のスキルをすでに持っている学生を対象として、2日間でデモを作成し発表を行うハッカソンイベントを提供 |
| 4 | 金融業 | 事業管轄エリアにおいて、地域経済を活性化させるためのアイデアを募集するコンテストを実施 書類選考を通ったアイデアは担当の銀行職員とブラッシュアップをしプレゼンテーションを行う伴走支援も提供 |
| 5 | 不動産業 | 社会に感じる疑問、そして良くするための事業アイデアを分野を問わず募集するコンテスト形式のイベントを実施 審査を通過した事業案はプレゼンテーションも行い、選定アイデアには事業化までのサポートも提供 |
| 6 | 起業家支援団体A | 拠点の所在地や領域を問わず、地域の課題解決に繋がる事業を募集するプログラムを提供 採択された事業アイデアには、伴走支援を提供するとともに実行までをサポートする |
| 7 | 起業家支援団体B | 年齢や国籍を問わず起業家や起業を志す人、投資家、研究者等が集い交流できるコミュニティを運営 様々な分野で定期的なイベントを開催しており、それらを通してスキルアップとともに交流の機会を提供している |
| 8 | 高等教育機関 | ヘルスケア分野でテクノロジーを活用した新規事業を起こしたい人、事業拡大をめざしたい方を対象としたビジネス創出プログラムを提供 |
| 9 | 中小企業支援機関 | 自分が進めたい事業を整理・検討するプログラムを提供するほか、仲間と会話する機会を作ることで創業への興味関心を高めるためのコミュニティを運営 |
| 10 | 国際関連機関 | 高校生～35歳までを対象としたビジコン形式のイベントを実施 最終ピッチで選ばれた受賞者には本部イベントへの招待や、メンターなどの特典を提供 |
| 11 | 行政A | 大学や研究機関が集積する土地の強みを活かし、テクノロジー系のスタートアップ支援を核とした多様な起業ステージに対応したインキュベーション施設を運営 |
| 12 | 行政B | 大学生を含む広いレンジの学生に向けて、起業に限らない新たなチャレンジへの機運醸成を目的とした各種プログラムを年間を通して展開 |
| 13 | 行政C | 起業啓蒙を目的とした登壇型イベントを月に一度開催 実績を持った社会起業家から、これから事業を大きくしていく段階の方まで、毎回様々なゲストを迎え実施 |
| 14 | 行政D | 企業の新規事業創出等に係るニーズに対して、人と人をつなぐことを目的として大学・大学発ベンチャーを中心に多様なパートナーとのマッチングイベント等を通じた連携支援を展開 |

学生コミュニティでの情報発信

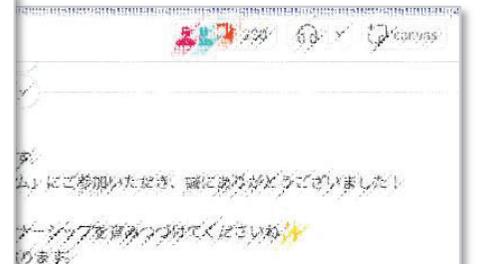
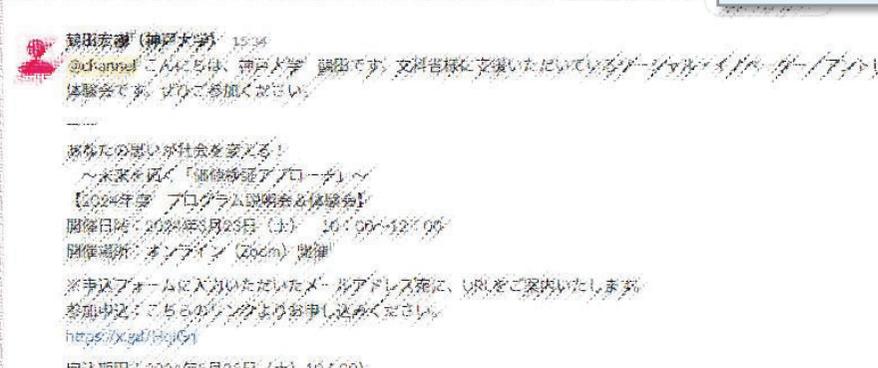
- ✓ 連携協議を行った企業・団体が提供するプログラムやイベントについて、学生コミュニティでの情報発信を行った



事務局主催の座談会・交流会イベントのほか、協議を行った企業の独自イベントの情報発信を行った結果、複数において学生の申込があり、継続した学びに繋がっていることが見受けられる

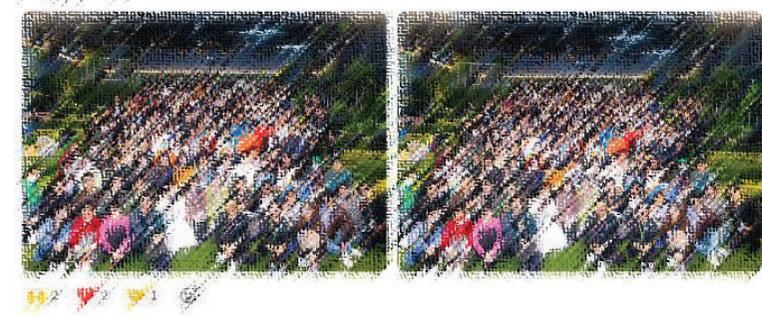
(例：Venture Café Tokyo、(株)CroMen等)

また、企業のみならず連携する大学有識者等からも情報発信があり、交流が展開されている



これからこのブロックではアンテナ/アラートに関する各種イベント情報などを配信していきますので、引き続きよろしくお願いいたします。

2画のイラスト



橋渡しプログラム：2023年度の実践内容

- ✓ 実践の場への接続の試行的取組として、キャリア形成支援、スキル・考え方のインプット、スキル・考え方の習得支援の3つの方向性で、企業等と連携した橋渡しプログラム実施に向けた動きを推進

| | | | |
|-----------------------------|--|--|---|
| <p>連携目的</p> | <p>キャリア形成支援</p> <p>学生の興味関心やキャリアイメージ、ネクストアクション具体化の機会を提供し、実践の場へ送り出すための意識醸成を図る</p> | <p>スキル・考え方のインプット</p> <p>発揮段階で必要となる基本的なスキルや手法をインプットする機会を提供し、実践の場への送り出しを加速化させる</p> | <p>スキル・考え方の習得支援</p> <p>実際の起業課題や地域課題をテーマとして全国プログラムでの学びを活かしながら実践する機会を提供する</p> |
| <p>連携先 (候補含)</p> | <p>CroMen</p> <p>大学生を対象に、「自己内省ワーク」と「社会人によるメンタリング」による「Cross Mentorship」プログラムを提供</p> | <p>ベンチャー・カフェ東京</p> <p>起業家や起業を志す人、投資家、研究者等が集うコミュニティ。週に1度の「Thursday Gathering」を中心にイベントを展開</p> | <p>港区立産業振興センター (株)キャンパスクリエイト</p> <p>企業の新規事業創出等に係るニーズに対して、大学・大学発ベンチャーを中心に多様なパートナーとのマッチングイベント等を通じた連携支援を展開</p> |
| <p>連携・協議状況</p> | <ul style="list-style-type: none"> 3/6（水）にプログラム実施 | <ul style="list-style-type: none"> 連携に向けた協議実施 2023年度についてもこれから実施のイベントがあり、連携を進める方向で検討 | <ul style="list-style-type: none"> 連携に向けた協議実施 2023年度のイベントは全て終了しており、2024年度連携していく方向性で検討 |
| <p>プログラムイメージ</p> | <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="376 1121 622 1289">  <p>自己内省プログラム 「自己内省」「対話」「発表」で自分の「挑戦したい事」を再認識</p> </div> <div data-bbox="667 1121 913 1289">  <p>コミュニティ 異なる専門性へタグ〜を持った人と刺激しあえる場</p> </div> </div> | <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="936 1069 1310 1260">  <p>「食と農」×イノベーションの種をまく - 持続可能なビジョンの共創 -</p> </div> <div data-bbox="1153 1204 1505 1396">  <p>GIFU STARTUP NIGHT 先駆起業家から学ぶ！ インパクトスタートアップのつくり方</p> </div> </div> | <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="1534 1069 1780 1396">  <p>OPEN INNOVATION FAIR 2023 港区で起業しよう！ Port of Innovation</p> </div> <div data-bbox="1792 1069 2038 1396">  <p>アントレプレナーシッププログラム 2023開催 港区で起業しよう！</p> </div> </div> |

橋渡しプログラム：実施概要

- ✓ 企業の醸成段階への巻き込み（キャリア形成支援）の一環として、CroMenとの合同企画を実施

目的

キャリア形成支援の観点でさらに学生の意識醸成のきっかけ提供し、実践の場への送り出しを加速化させる

Cross Mentorshipの内省メソッドによって「情熱の言語化」を体験し、特にキャリア接続の観点で、アントレプレナーシップ醸成の機会を提供。継続的な学びの機会を与えるとともに、実践の場への送り出しに繋げる。

概要

- **対象**
2023年度全国プログラム受講生、
全国プログラム特別講演（講師 バ
ブソン大学 山川恭弘）参加者
- **申込者数**
25名
- **形式**
オンライン（Zoom）
- **日時**
2024年3月6日（水）19:00-21:00
- **告知方法**
当事業Slack、メーリングリスト
CroMenホームページ、各種SNS

| |
|----------------|
| コンテンツ |
| オープニング |
| 会社概要/プログラム概要説明 |
| 個人ワーク |
| 1on1説明 |
| 学生同士の1on1 ① |
| 学生同士の1on1 ② |
| クロージング/アンケート |

3/6(水) 19~21時開催



その挑戦を 加速する

アントレプレナーシップ醸成プログラム
1Day Cross Mentorship

起業やプロジェクトを起こす時に「自分が情熱を傾けられているアイデアか」が重要であることを知っていますか？
Cross Mentorshipではフレームワークを用いて整理し、既に様々な分野で活躍している同世代や社会人との対話からフィードバックを受けて言語化をサポートするプログラムを提供しています。
「誰が何を言おうと関係ない！自分はこれをやらなきゃ自分じゃなくなる」
そんな自分らしく情熱を傾けられる事業を創る第一歩として
内省を体験してみませんか？

内省



自身のビジョンを言語化し、相手に伝える準備をする

1on1



「なぜこの事業をやりたいのか」を相手に伝えてフィードバックをもらい、多角的な視点を得る

仲間



様々な分野で挑戦する学生同士で1on1をし、切磋琢磨し合う仲間と出会う

 **応募フォームはこちらから** → 

橋渡しプログラム：申込者の興味関心

✓ 起業に限らず様々な社会課題、技術等に関心を持った学生が参加

社会課題への関心

交通問題 社会 学校教育 福祉
 外国人支援 社会課題 虐待問題
 ひきこもり セクシュアルマイノリティ
 育児 教育 国際政治

地域への関心

多世代ごちゃまぜ
 ボランティア 地域
 家族・親子 日常
 地方創生 NPO
 居場所づくり 支援

起業への関心

組織開発 起業 人材育成
 事業開発 ウェルビーイング経営 開発コンサル
 人的資本経営 ソーシャルビジネス プレゼンテーション
 コミュニティ事業 ビジネスコンテスト
 レジリエンス

仲間づくりへの関心

長期インターン
 コースイベント イベント運営
 自分を高められる環境 縁
 出逢い 仲間が欲しい
 自分探し

技術への関心

サイバーセキュリティ
 環境工学 フェムテック プログラミング
 衛星製作 データサイエンス web3
 航空宇宙工学 AI IoT 宇宙開発 nft
 統計 建築

東南アジア 外国人材紹介
 中国 海外研修
 韓国 オセアニア 外国人材
 来日型日本語研修 コンサルティング
 英語 異文化適応

海外への関心

個々の興味関心

健康格差解消
 医学 バイオインフォマティクス
 保健政策 医療用 作業療法
 公衆衛生 シミュレーター 未病
 介護人材 保健師 創薬

循環 大学広報 ヘアメイク 写真
 ライトノベル 自習 ファッション 美容 料理 靴磨き
 経済 SNS 物書き 一人旅 剣道 テーマパーク 温泉
 自然 F1 マスコミ 珈琲 アニメ チア 読書 音楽
 ハンドメイド 旅 芸術 俳句 個人書店 アロマ
 テディベア 映画 百人一首
 飛行機好き

医療・健康への関心

橋渡しプログラム：参加者アンケートサマリ

- ✓ プログラムを通して自身の考えに納得度が高まり、具体的な行動をしてみようと思ったという声が多くみられた
- ✓ 今後参加してみたいプログラムとして、実際に活躍している起業家や先輩と話ができるイベントという声が多くみられた

| 分類 | コメント概要 |
|----------------------------|---|
| <p>プログラムを通して起きた変化について</p> | <ul style="list-style-type: none"> ➤ アイデアの需要はありそうなことを確認できたので、事業として具体化するために少しずつ行動しようと思った ➤ 1on1での会話を通して人脈を広げる大切さを知り、より行動したい気持ちが高まった ➤ もっと積極的に行動しようと思った ➤ 今まで漠然と進めていたが、会話を通してネクストアクションが明確になった。なぜこのアイデアを実現したいのかをもっと深めて考えてみようと思った ➤ 自分の考えているネクストアクションを人にも話すことで、より納得感が持てた ➤ プロジェクトを進めていくなかで自分以外の要素にベクトルが向きがちだったが、自分の経験や意志に基づいてプロジェクトを進めていく重要性を改めて思い出すことができた |
| <p>今後参加してみたいイベント・プログラム</p> | <ul style="list-style-type: none"> ➤ 社会起業家と会って話す機会 ➤ 国際協力に関連するプロジェクト経験のある方の講演 ➤ 自己内省のプログラムの機会がもっとあると嬉しい ➤ 世界経済、経済システムなどの知見を深く持った人との交流 ➤ 実際に起業した方の経験談を聞く機会や交流会などあったら参加したい ➤ 自分と似たプロジェクトテーマの人と関われる機会があれば参加したい ➤ 先に起業して成功している方、特に同じジャンルに取り組んでいる方とお話する機会がほしい ➤ 自己推進力のある人になるためのスキルアップセミナー |

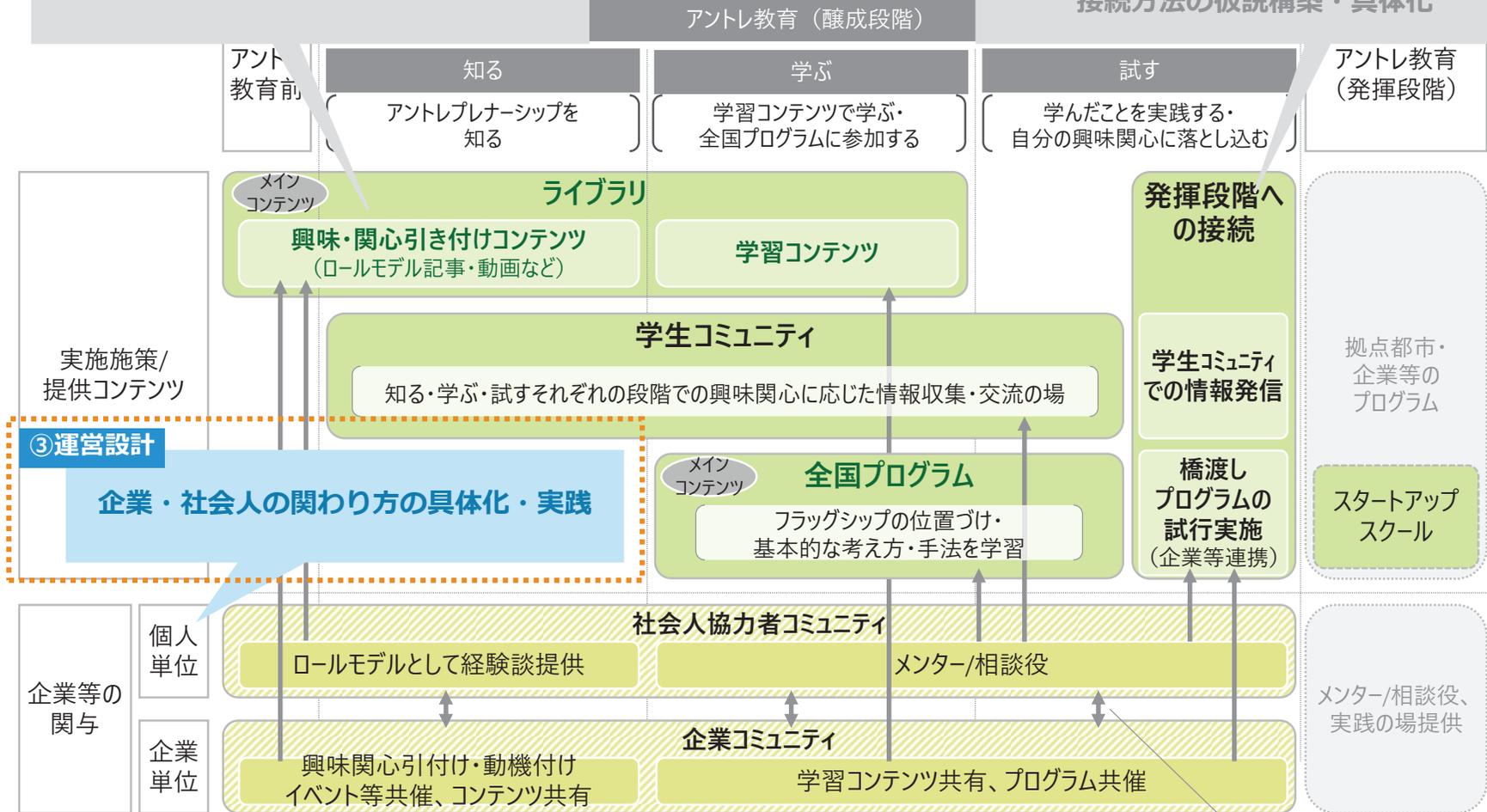
実践を通じた機能具体化：企業等の巻き込み

①PF全体

学生の巻き込みに有効なコンテンツ設計

②機能設計

接続の一部実践、地方も含めた
接続方法の仮説構築・具体化



企業単位での連携（プログラムやイベントの共催）の中で学生とのタッチポイントを作り、個人単位での交流機会を創出

民間企業等との連携方針

✓ 醸成段階への巻き込みについては、「動機付け・意識醸成」「コンピテンシー形成」の両面でプラットフォーム上での取組を充実化させていけるよう関与を引き出していくことを検討

| | 関与類型 | 概要 | 具体的な役割 | 想定される企業等の属性 | |
|----------------|-------------------|--|--|--|--|
| 意識醸成 動機付け・ | 興味引き付け・ 動機付け支援 | <ul style="list-style-type: none"> ➢ ロールモデルとして企業等で活躍する社会人に経験談等を共有いただく | <ul style="list-style-type: none"> ➢ 登壇講師 ➢ ロールモデル記事のインタビュー | <ul style="list-style-type: none"> ※当該類型は個人にフォーカス ➢ 先輩起業家、イントレプレナーなど | |
| | キャリア形成 支援 | <ul style="list-style-type: none"> ➢ 学生の学びのきっかけや継続に繋げるための、興味関心やキャリアイメージを具体的にするためのメンタリング機会等へ協力いただく | <ul style="list-style-type: none"> ➢ メンター | <ul style="list-style-type: none"> ➢ 教育的な事業や取組を行っている企業・団体 | |
| コンピテンシーの 形成 | スキル・考え方の インプット | <ul style="list-style-type: none"> ➢ 発揮段階で必要となる基本的なスキルや手法を自身の経験に基づきインプットいただく (テーマ例：大企業での新規事業開発手法、スタートアップでのリーダーシップ論、等) | <ul style="list-style-type: none"> ➢ 登壇講師 | <ul style="list-style-type: none"> ➢ スタートアップ支援や新規事業創出支援に取り組む企業/団体など | |
| | スキル・考え方の 習得支援 | 課題提供 | <ul style="list-style-type: none"> ➢ 産業課題や地域課題（グループワークのテーマ）の提供いただく | <ul style="list-style-type: none"> ➢ 登壇講師（課題の説明・インプット） | <ul style="list-style-type: none"> ➢ 産業界や地域/社会の課題を俯瞰的に捉えている団体 ➢ 地域価値の向上に取り組んでいる企業/団体 |
| | | 仮説（アイデア）構築 | <ul style="list-style-type: none"> ➢ 学生の仮説構築への助言、アイデアへのフィードバックをいただく | <ul style="list-style-type: none"> ➢ メンター | <ul style="list-style-type: none"> ➢ スタートアップ、新規事業開発に取り組む企業、スタートアップ支援に取り組む企業/団体など |
| | | 仮説検証・MVP開発 | <ul style="list-style-type: none"> ➢ 学生からのインタビューへ協力いただく ➢ MVP作成に対するアドバイス、MVPへのフィードバックをしていただく | <ul style="list-style-type: none"> ➢ メンター | <ul style="list-style-type: none"> ➢ スタートアップ、新規事業開発に取り組む企業、スタートアップ支援に取り組む企業/団体など |

民間ワークショップの実施

- ✓ 本事業との連携に関心を示していただいた企業・団体を対象に、アントレプレナーシップ醸成の現状及び企業連携の好事例インプット、有効な連携方法の在り方について議論の場を設定した

目的

- 企業を巻き込んだワークショップを開催し巻き込み方法を具体化、候補企業等との連携を実践すること

実施概要

- **参加者**
民間企業：6社（9名）
NPO法人：1社（1名）
大学教員：2名 計12名
- **日程**
2024年3月19日（火）17:00-18:30
- **形式**
対面（デロイトトーマツ東京オフィス）

| TIME | 想定内容 |
|-------|---|
| 17:00 | オープニング、開会のご挨拶（本WGの趣旨、ゴールの共有） |
| 17:05 | <p>【第1部】アントレプレナーシップ醸成領域の取組現状と課題</p> <p>①文部科学省「アントレプレナーシップ醸成促進事業」の現状と課題（事務局：10分程度）</p> <p>②民間企業の取組事例（2社×5分程度）</p> <p>└ 既に取組を進めている企業より取組事例と課題の発表</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>本事業での現状や課題の共有と合わせ、実際に取組を進める企業からの発表も踏まえ現状や課題となる点をインプット</p> </div> |
| 17:25 | ワークショップの進め方についてご説明 |
| 17:30 | <p>【第2部】今後の連携の在り方についてディスカッション</p> <p>①自社の関心テーマ、アイデアと提供できるリソースの検討</p> <p>②他社とのグループワーク取り組めそうなアイデアディスカッション</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>第1部でインプットした情報も参考に、個人ワークにてアイデアブレストを行います グループ内で共有・FBをもらいながら個人ワークでのアイデアを具体化していきます ※ディスカッションには大学で関連プログラムに携わる方々にもサポーターとして参加いただきアドバイスをいただきます</p> </div> |
| 18:10 | 発表 |
| 18:20 | クロージング・アンケート 等 |

実施報告

- 事務局、及び企業事例の発表を通してアントレプレナーシップ教育の現状と今後の展望について理解を深めた
- 13名（2グループ）でのグループワークを通してアイデア検討を実施。本ワークショップの検討内容を起点として、今後さらに企業連携を深めていく想定

▼ グループワーク時の様子



▲ 企業事例発表の様子

グループワークでの主な議論内容

- 企業×学生による起業家育成プログラムを実施する際の大学との連携の在り方
- 学校教育の中に企業と連携したプロジェクト型学習プログラムを組み込む際の双方のメリット、及びハードルについて
- 学外の活動として企業が実施するプログラムに参加するからこそ生まれる学生への提供価値、地域への波及効果について
等

参加者コメント（一部抜粋）

- 近いことに取り組む企業同士、話してみると似た悩みを抱えていることが分かり、そのような状況を共有することが重要だと感じた
- 連携に向けたリソースの相互交換ができそうな企業もあり、非常に充実した時間だった
- 普段、複数企業の方と意見交換をする機会がなかなかないため有意義な時間になった
- ワークでの話を起点に、後日、具体的な連携の相談をすることが決定したため今後の展開に期待できる
- ワークの時間だけでは議論しつくせなかったため、このようなとにもアイデアを出していける場を継続して設けていただければ積極的に参加したい

本WGにおける2024年度以降の検討ロードマップ

- ✓ プラットフォーム具体化WGでは、2023年度・2024年度で全国プログラムやコミュニティ運営等の実践を通じて備えるべきコンテンツや機能のベースを作り、2025～2026年度にかけて、それらコンテンツや機能の充実化を図りながら、運営体制や運営スキームの構築など、自律的な運営に向けた基盤の整備を行う

2027年度（本事業終了後）



本WGでの2024年度の検討予定

- ✓ 2024年度は、現在進行中の実証的取組（全国プログラムやコミュニティ運営、接続先の開拓等）と連動しながらプラットフォームの仮運用をしつつ、将来的な運営の在り方等の検討を推進する

| テーマ | 検討アプローチ | | PF-WGでの主な検討事項 | |
|-------------------|---|--|--|---|
| PF 全体 | 全体像設計 | 下記全体の検討・検証結果を踏まえたPF全体像の再整理 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 醸成PFの全体像 ■ 運営規模案 | |
| | | 将来的な運営規模やあり方の検討 | | |
| 機能 設計 | ターゲット 学生巻き込み | 2022年度実証を受けた改善/拡充施策実証 (コンテンツやアプローチ方法) | 実証結果を踏まえた 2024年度以降の展開施策検討 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 2024年度以降の展開施策 |
| | 教育 プログラム 提供 | 企業等との連携による プログラム・イベント等の実証 | 学生や連携先からのフィードバックを受 けた2024年度以降の実施方針策定 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 醸成PF全体として提供し ていくプログラム |
| | | 醸成PF全体として提供していくべきプログラムの整理 (上記プログラム/イベント等と全国プログラムの位置づけ整理等) | | |
| | 学生・教職員 コミュニティ | コミュニティ活性化施策の実証 (テーマ別の交流チャンネル設定等) | 実践結果を受けた 2024年度以降の運営方針検討 | <ul style="list-style-type: none"> ■ コミュニティ活性化策や 継続的な運営方針 |
| 実践の場への 接続 | 接続先の拡充（特に地方との連携を拡大） | | <ul style="list-style-type: none"> ■ 接続先の拡充方針 ■ 効果的な送り出し施策 | |
| | より効果的な送り出し方法の検証 (地域/テーマ単位での情報提供や マッチングイベントの実施等) | 実践結果を受けた 2024年度以降の施策検討 | | |
| 運営設計 (体制・スキーム) | 2022年度検討案の検証 (連携先候補等関係者へのヒアリング) | | <ul style="list-style-type: none"> ■ 検討案の検証方法、 ブラッシュアップ案 | |

本WGにおける2023年度・2024年度の検討内容

✓ 2022年度検討を踏まえ、2023年度以降は、実践・検証を通じてプラットフォームの機能や運営の仕組みをより具体化する

| | | 2022年度 | 2023年度 | 2024年度 | 目指す状態 |
|------|---------------------------|--|--|--|---|
| 機能設計 | プラットフォーム (PF) 全体 | <ul style="list-style-type: none"> ■ ターゲット学生像の仮説設計 ■ PF全体で備えるべき機能、運営の在り方の仮説設計 | <ul style="list-style-type: none"> ■ PFの仮運用を通じた、ターゲット学生へのアプローチ方法等の設計とPF全体で備える機能の検証 | <ul style="list-style-type: none"> ■ ターゲット学生へのアプローチ方法の実践・検証と母集団形成の方法設計 | <ul style="list-style-type: none"> ■ PFのターゲット学生像を軸として、PF全体に必要な機能が設計できている ■ 参加学生拡大に向け母集団形成方法が設計できている |
| | 教育プログラム提供 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 2,000名の学生が受講できるエントリーモデル（プロトタイプ）の開発 ■ プログラム効果指標の検討 | <ul style="list-style-type: none"> ■ プログラムのコンセプト案（対象・内容）具体化 ■ 開発チーム体制の検討 ■ プログラム効果指標の検証 | <ul style="list-style-type: none"> ■ プログラム開発スケジュールの設計・運用 ■ 開発チームの組成 ■ プログラム効果指標の継続検証・ブラッシュアップ | <ul style="list-style-type: none"> ■ プログラムの開発チームと評価・改善の仕組みが整い、質の高いプログラム提供体制が構築されている |
| | 学生・教職員コミュニティ | <ul style="list-style-type: none"> ■ オンライン上でのコミュニティ作り ■ 事務局による有益な情報共有によるコミュニティ活性化の動機付け | <ul style="list-style-type: none"> ■ 座談会・アンケート結果、他事例のユースケース等を踏まえたコミュニティを活性化する要素の特定 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 特定した要素をもとにしたコミュニティ活性化機能・コンテンツの拡充 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 有益な情報共有やネットワーキング等、コミュニティが自立している ■ コミュニティを軸にアントレの裾野が広がっている |
| | 実践の場への接続 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 拠点都市における実践の場調査、接続方法の仮説構築 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 拠点都市との接続（学生に対し、実践の場に関する情報発信を実施） ■ 地方における実践の場調査、接続方法の仮説構築 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 拠点都市の接続先の継続アップデート/拡充 ■ 地方との接続（学生に対し、実践の場に関する情報発信を実施） | <ul style="list-style-type: none"> ■ 全国プログラムを受講した学生が、実践の場に関する情報を獲得できる |
| | 運営体制の在り方 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 推進リーダー像（人材要件）の仮説構築 ■ あるべき組織体制の方向性検討 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 推進リーダー候補の探索・就任の可能性タッピング ■ あるべき組織体制の具体化検討 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 推進リーダーの決定（正式打診） ■ 推進リーダーを巻き込んだ組織体の立ち上げ準備 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 推進リーダーが決まり、2025年度以降の組織体立ち上げに向けた準備が進められている |
| 運営設計 | ステークホルダーの巻き込み方（ビジネスモデル設計） | <ul style="list-style-type: none"> ■ ステークホルダーの巻き込みモデル、インセンティブ設計の仮説構築 | <ul style="list-style-type: none"> ■ ステークホルダー候補へのヒアリングを通じたモデルの仮説検証（複数ある巻き込み案の絞り込み・ブラッシュアップ） | <ul style="list-style-type: none"> ■ ステークホルダーの一部巻き込みによる、関与方法とインセンティブの詳細設計（ヒアリングを通じて参画の課題を洗い出し対応策を検討） | <ul style="list-style-type: none"> ■ 持続的な運営を実現するためのビジネスモデルが設計できている |

【第1章】有識者委員会での取組・議論内容

■ 全体統括委員会（アントレプレナーシップ醸成促進に係る全体像の整理）

- 1.1 アントレプレナーシップ醸成における課題を踏まえた論点の整理
- 1.2 アントレプレナーシップ醸成促進に向けた目指すべき姿
- 1.3 検証論点の全体像の整理

■ プラットフォーム具体化WG（アントレプレナーシップ人材の裾野拡大に向けたプラットフォーム形成に関する検討）

- 2.1 2023年度の検討課題
- 2.2 学生の巻き込み
- 2.3 実践の場への接続
- 2.4 企業等との連携
- 2.5 今後の検討項目

■ 教育効果の測定指標具体化WG（アントレプレナーシップ教育における教育効果の測定指標の確立に関する検討）

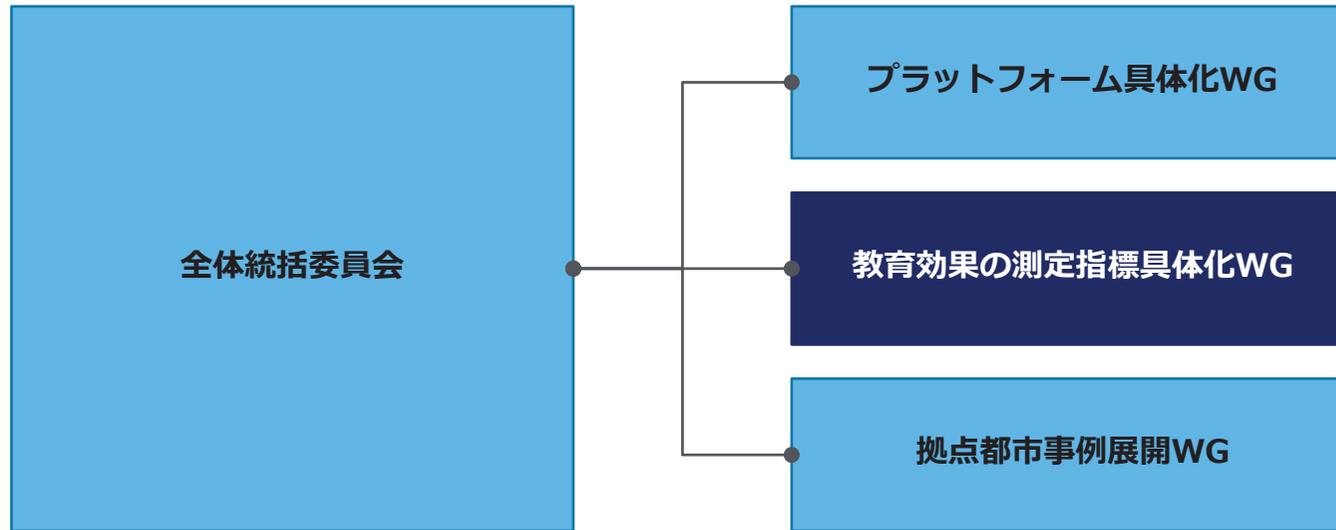
- 3.1 現状の課題・背景に基づく、検討論点と調査概要
- 3.2 教育効果の評価の確立に関する検討
- 3.3 全国アントレプレナーシップ人材育成プログラムを通じた検証に関する結果
- 3.4 整備した指標に基づく改善・研究の推進に関する検討
- 3.5 今後の検討項目

■ 拠点都市事例展開WG（アントレプレナーシップ教育に関する内容の事例やノウハウの共有に関する検討）

- 4.1 実施結果

教育効果の測定指標具体化WGの意義

- ✓ アントレプレナーシップの醸成に向け、アントレ教育の教育効果の測定指標の選定・開発・整備が求められている



教育効果の 測定指標具体化WG

- 現在使用されている指標（海外の先例含む）を調査し、「全国プログラム」を活用して検証しながら、適切な指標を選定・開発・整備する

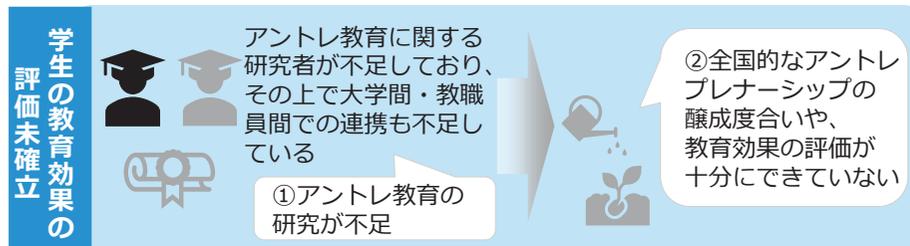
アントレプレナーシップ教育の効果検証の現状と目指す姿

- ✓ 日本では、アントレ教育の効果について評価指標が確立されておらず、研究も不足している状況を踏まえ、評価指標を整備し、教育価値の向上を実現する必要がある

- 社会環境が大きく変化しつつある中で、様々な困難や変化に対し、与えられた環境のみならず、自ら枠を超えて行動を起こし、新たな価値を生み出していく精神（アントレプレナーシップ）と態度を育む教育が必要

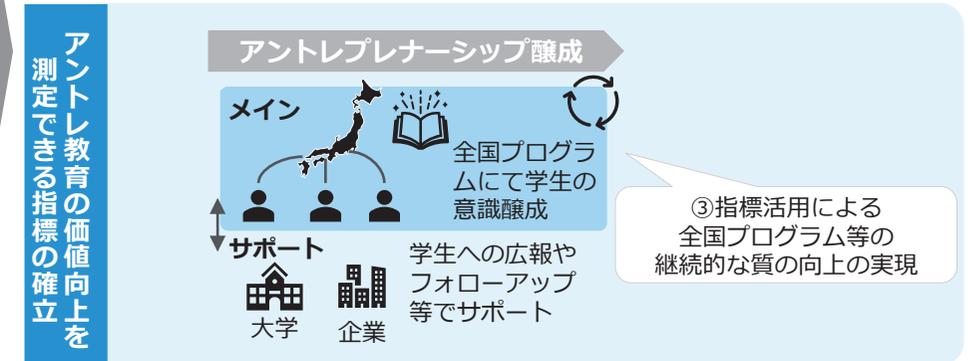
効果検証観点での現状認識

- アントレ教育の量的拡大や質的拡充が求められているが、質的拡充の観点では、アントレ教育の研究が不足していることなどから、アントレ教育の効果測定が十分にできておらず、教育プログラム改善に向けた検討も不足している状況



効果検証観点での目指す姿

- アントレ教育の効果検証指標や手法の整備を行うとともに、整備した指標の改善やモニタリング、指標を活用して収集した調査結果を踏まえたアントレ教育プログラムの改善を通して、アントレ教育の質的拡充を図る



教育効果の測定指標具体化WGの開催概要

- ✓ 2022年度の議論内容を踏まえ、教育効果の評価の確立、全国プログラムを通じた検証、研究の促進に関して継続的な議論となる設計をした

| テーマ | 主な論点 | 2022年度議論 | 2023年度以降の議論 |
|--------------------|--|---|--|
| 教育効果の評価の確立 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 指標の全体像の整理を行い、指標の必要性、測定すべき対象、測定方法について検討を行う ✓ アントレ教育におけるあるべき指標の選定を行い、必要に応じて指標の開発を行う | <ul style="list-style-type: none"> ■ アントレ教育の指標の調査に基づく、選定と開発 <ul style="list-style-type: none"> - アントレ教育の指標の調査結果を踏まえ、初期仮説を構築 | <ul style="list-style-type: none"> ■ アントレ教育の全体像のブラッシュアップ <ul style="list-style-type: none"> - 2022年度実施の検証結果を踏まえ、初期仮説をブラッシュアップ |
| 全国プログラムを通じた検証 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 上記のテーマにて、アントレ教育の指標を選定・開発した上で、全国プログラムを通して、実際にアントレ教育の教育効果を測定・検証を行う | <ul style="list-style-type: none"> ■ 全国プログラムを通して、指標の検証 <ul style="list-style-type: none"> - 全国プログラムを通して、実際に指標を用いて検証 | <ul style="list-style-type: none"> ■ アントレ教育の醸成度合いを経年で測定する評価手法のモニタリングによる改善検討の実践 <ul style="list-style-type: none"> - 継続的なアントレ教育の指標の検証 |
| 整備した指標に基づく改善・研究の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 上記に挙げた全国プログラムを通じた指標の検証に伴うデータの収集方法、データの活用方法について、検討を行う ✓ データを用いたプログラムの改善及びアントレ教育の研究の促進を図る | <ul style="list-style-type: none"> ■ 収集したデータの活用方法の検討 <ul style="list-style-type: none"> - 全国プログラムを通して、収集したデータの活用方法の検討 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 収集したデータの活用の推進についての検討・検証 <ul style="list-style-type: none"> - 全国プログラムを通して、収集したデータの活用の推進について検討・検証 |

| テーマ | 1回目 | 2回目 | 3回目 |
|--------------------|---|---|--|
| 教育効果の評価の確立 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 指標の調査結果に基づき、全体像についてディスカッション | <ul style="list-style-type: none"> ■ 指標のあるべき姿について、検討 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 全国プログラムで収集したデータに基づき、全体像のブラッシュアップ |
| 全国プログラムを通じた検証 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 全国プログラムでの指標を検討 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 全国プログラムでの指標の測定方法について、ディスカッション | <ul style="list-style-type: none"> ■ 収集したデータに基づき、プログラムの改善について協議 |
| 整備した指標に基づく改善・研究の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 1回目では協議なし | <ul style="list-style-type: none"> ■ 活用方法についてディスカッション | <ul style="list-style-type: none"> ■ 実際に収集したデータに基づき、活用方法についてディスカッション |

教育効果WGのアジェンダ

✓ 2023年度の教育効果WGは下記のアジェンダについて、年3回協議を進めた

実証結果を踏まえた、アントレ教育を提供する仕組みの実践
(2023年度 - 2024年度)

- アントレ教育の**指標の全体像が明確化**されている
- 全国プログラムを通じたアントレ教育の**指標の検証方法が確立**されている
- 調査データの**収集方法・蓄積方法・活用方法が確立**されている

有識者会議アジェンダ

| テーマ | 2023年度のゴール | 1回目 (8/9) | 2回目 (11/1) | 3回目 (3/4) |
|-------------------------|---|--|--|--|
| ① 教育効果の評価の 確立 | <ul style="list-style-type: none"> ■ アントレ教育の指標の全体像の整理に基づくガイドの作成 ■ 民間企業のニーズを調査し、反映させる | <ul style="list-style-type: none"> ■ 日本版アントレコンプについて、プレスト ■ アントレコンプを踏まえた、指標の全体像のガイド作成方針協議 | <ul style="list-style-type: none"> ■ ブラッシュアップされたアントレコンプを踏まえた、各大学での教育効果測定方法（ガイド）の初期案を作成 | <ul style="list-style-type: none"> ■ タスクフォースによって、前回議論した内容を踏まえたブラッシュアップの検討 ■ 全体統括委員会との連携を検討 |
| ② 全国プログラムを通じた検証 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 全国プログラムを通じた指標の検証 ■ 全国プログラムで検証した指標を用いた各大学での実証 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 2022年度の結果振り返り ■ 2023年度の全国プログラムでの指標を検討 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 2022年度の追跡調査の結果も踏まえた振り返り ■ 2023年度の効果測定の実施内容について承認 ■ 大学への導入に向けた取組整理 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 2023年度の振り返り（プログラム改善に関する検討） ■ 各大学での導入に向けた事例作りの検討 |
| ③ 整備した指標に基づく改善・研究の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 全国プログラムを通して、収集したデータを活用するタスクフォースの組成し、研究の推進 ■ 各分野の研究者を集い、コミュニティ形成を図る | <ul style="list-style-type: none"> ■ 馬田タスクフォースの今後の計画の共有 ■ 研究者を巻き込むためのインセンティブ整理（FDプログラム整理、コミュニティ運営検討） | <ul style="list-style-type: none"> ■ 研究タスクフォースの組成と活動の検討 ■ 各分野の研究者の交流を促すコミュニティの設計（学会連携等）に関する検討 | <ul style="list-style-type: none"> ■ タスクフォースによる2024年度の研究活動方針の検討 ■ 研究者の巻き込みに係る学会連携の検討 |

2023年度のディスカッションテーマごとの議論内容及び2024年度取り組むべき課題

- ✓ 2023年度はディスカッションテーマごとに、会議や調査を重ねたことで、2024年度に取り組むべき課題を整理することができた

| テーマ | 論点 | 議論内容 | 2024年度取り組むべき事項 |
|-----------------------------|--|--|---|
| ① 教育効果の 評価の確立 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ アントレ教育におけるコアコンピテンシーのコンセンサスの確立の重要性について整理 ✓ アントレ教育の指標の全体像を整理するためのフレームの検討 ✓ 学校現場で教員や研究者が使用するためのガイドの作成方針について検討 | <ul style="list-style-type: none"> • 国内外のアントレ教育の教育効果測定指標について論文・文献等を踏まえ、アントレプレナーシップの特徴的な構成要素（コアコンピテンシー）の整理を行う ✓ 学校現場でプログラムの開発（教育ガイド）、改善（プログラム改善ガイド）、研究（研究ガイド）に繋がるような実践的なガイドの検討が必要であり、国内の実践例を踏まえた日本に適した整理を行う | <ul style="list-style-type: none"> ✓ アントレ教育のコアコンピテンシーの涵養に向けたKSAの整理や国内のプログラムの実践例を踏まえたガイドの整備が必要である ✓ 国内の大学等の教員や研究者にて、ガイドの実用性を評価していただき、学校現場に適用できるようにブラッシュアップが必要である |
| ② 全国プログラムを通した 検証 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 全国プログラムで検証すべき指標の選定と開発 ✓ アンケート調査の設計 ✓ FDプログラムを通した、教員の育成方法の検討 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 2021年度、2022年度にて測定した指標をベースに経年測定を行う必要があるが、環境要因の項目を追加した調査を行う ✓ 全国の大学でアントレ教育プログラムに対する教育効果測定の普及に向けて、FDプログラムを通して、各地域の教員の育成を行い、アンケート調査の実施方法や実施結果を踏まえて各大学で実証してもらうよう働きかける | <ul style="list-style-type: none"> ✓ これまで本事業の全国プログラムで収集したデータを踏まえた全国プログラムの評価、プログラムを通した教育効果の測定方法の確立に向けた継続的な検証が必要 ✓ FDプログラム受講教員を含む各大学でのアントレ教育のプログラムの実施、教育効果測定の追いかけをする必要がある |
| ③ 整備した指標に基づく 改善・研究の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 収集データの研究利用の促進の検討 ✓ 研究者のすそ野拡大に向けたデータ公開及び学会連携の方針について検討 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 全国プログラムを通じて得られたデータや結果の研究利活用に向けて、研究者を巻き込んでいくためにデータの公開、既存の学会等との連携が必要である ✓ 本事業の調査に協力していただく研究者を中心に、タスクフォースを組成し、研究成果を出す仕組み作りが必要である | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 研究者の巻き込みに向けて、本取組の周知について、具体的な方法の検討が必要である ✓ 研究成果を出すために組成されたタスクフォースにて、本事業で収集されたデータに基づく研究計画を策定し推進していく必要がある |

教育効果の測定指標具体化WGの開催概要

- ✓ 2023年度は4名の有識者やゲストを含む形で3回開催し、3つのアジェンダに関して協議を行った

| | | | |
|--------------|--|-------------------------------------|--|
| 目的 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 現在使用されている指標（海外の先例含む）を調査し、「全国プログラム」を活用して検証しながら、適切な指標を選定・開発・整備する ■ 「全国プログラム」での検証を通して、アントレ教育の研究促進のためのデータを蓄積し、研究活性化を促進する ■ 測定指標モデルを確立し、自発的なプログラム開発・改善のPDCAを検討する | | |
| アジェンダ | 討議事項① 教育効果の評価の確立 | アントレ教育に関する評価指標の全体像を整理 | <ul style="list-style-type: none"> ■ アントレプレナーシップ教育のコアコンピテンシーを定め、統一のコンセンサスを醸成させる ■ 日本におけるアントレプレナーシップ教育の教育効果を測る適切な指標の検討 ■ 各大学の教育現場にて活用することのできるアントレプレナーシップ教育の教育効果想定ガイドの作成を図る |
| | 討議事項② 全国プログラムを通じた検証 | 全国プログラムで検証した効果測定方法を各大学に展開・実証 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 全国プログラムにおいて検討した指標を用いて教育効果測定を行うとともに、指標の評価・改善 ■ 2023年度の全国プログラム（FDプログラム含む）に関する振り返りを行い、データ収集の観点などについて、協議を行う ■ 各大学での導入に向けた事例作りを促すための方法について検討する |
| | 討議事項③ 整備した指標に基づく改善・研究の推進 | 各分野の研究者等を巻き込んだコミュニティ形成 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 全国プログラムを通して収集したデータの活用として、有識者委員を中心とした研究タスクフォースの組成と共に、研究の実施計画を検討 ■ 各分野の研究者等を巻き込んだコミュニティ形成に向けた、学会連携等について検討 |
| 実施方法 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 開催日： <第1回目> 2023年8月9日（水）17:00–19:00、<第2回目> 2023年11月1日（水）15:00–17:00、 <第3回目> 2024年3月4日（月）10:00–12:00 ■ 開催形式：オンライン開催 ■ 有識者委員：【座長】馬田隆明、萩原丈博、牧野恵美、山田剛史（敬称略、座長以下氏名五十音順） ■ ゲスト：富田佳奈 | | |

委員会でのディスカッションポイント及び議論内容まとめ

✓ 討議事項①教育効果の評価の確立について、3回のWGを通して、協議を行った



| | 1回目 | 2回目 | 3回目 |
|--------------|---|--|--|
| ディスカッションポイント | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 日本版アントレコンプの作成方針の検討にあたり、アントレ教育の目指すべき方向性を示し、教育現場の教員が教育改善のために使用してもらうためのアントレコンプの全体フレームについてすり合わせを行う | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 前回のWGでのディスカッション内容を踏まえたアントレコンプの全体フレームの初期案のブラッシュアップを行い、今後の検証ステップ等についてすり合わせを行う | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 前回のWGでのディスカッション内容を踏まえ、アントレコンプをどのように整理し、全体統括委員会から今後の進め方等についてどのように承認をいただくかすり合わせを行う |
| 議論内容 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ EUのアントレコンプの3領域は残しても良いと考える ✓ 経営学的な表現ではなく、アントレ教育らしい表現を検討した方が受け入れやすいと考える ✓ 汎用的すぎるコンピテンシーを設定してしまうと、アントレ教育の特有性を表現することが難しいと考える ✓ 研究的な立場に立脚するのであれば項目は細分化した方が良いが、教育的な立場に立脚すると細分化しすぎると理解が困難で使用されないということになってしまうので、バランスは常に考えながら進めていきたい ✓ アントレ教育を受ける大学生もアントレコンプを見て、理解できる内容にすることも重要であると考え | <ul style="list-style-type: none"> ✓ EUのアントレコンプに基づいて、エリア、コンピテンス、スレッドを整理し、今後の対応方針を協議した ✓ アントレプレナーシップ教育の定義は教育目的に応じて定められることが海外の論文にも記載があることから、教育の目的や概念定義を整理していくことも重要であると考え ✓ EUのアントレコンプをベースにしていくが、学生や教員向けにコアな要素に絞った短縮版にし、日本の文脈に沿って強弱をつけ、発達段階等に依りて順番・段階があるように整理していくことが良いと考える ✓ 3エリア、2~3コンピテンスで最大10個に絞る形で整理をしていく | <ul style="list-style-type: none"> ✓ アントレコンプのコアとなる概念を3つ選定し、KSAでどう整理していくかは今後協議していく必要がある ✓ また、それぞれを涵養させるための教育活動は、実際のクラスを持つ先生方と議論して、実践事例集として充実化させていきたい ✓ アントレコンプを作成する上では、教育者や実務家の実体験等を踏まえ、整理していく必要があると考える ✓ 現状の日本のアントレ教育の状況を踏まえ、黎明期においては複数存在しても問題ないと協議した <ul style="list-style-type: none"> ▶ 本事業で検討しているアントレコンプの議論のスタート地点は、「グローバルで調査研究が比較できるような指標の確立」である |

アントレプレナーシップ教育の効果測定における現状の課題認識について

- ✓ アントレ教育の教育効果の評価の確立が求められる背景には、教育・研究面双方の課題が存在していることが挙げられた

概要とスコープ

討議事項①
教育効果の評価の確立

討議事項②
全国プログラムを通じた検証

討議事項③
整備した指標に基づく改善・研究の推進



現状の課題認識

現在の日本のアントレ教育では、教育と研究の両方で課題があると考えている



- アントレ教育に関する統一的な見解がない
そのため、何を目的にしているのかが明確ではない授業や、効果が低い授業が行われることもある
- 授業の改善プロセスが走っておらず、改善の試みも経験によるものが多くなっている
- 担い手も教育機関から民間研修業者にわたり、アントレ教育が指し示すものが担い手によって多種多様になっている
- アントレ教育が他の科目と違う点などを理論的に示せていないため、正課の科目の中で行うのも難しい状況である
- アントレ教育について、日本から海外の学会等に提出される論文が少なく、研究環境として孤立している
 - 研究が行われている場合も、信頼性や妥当性のない指標を用いて行われていることがあるため、諸外国の研究者と会話がしづらい状況にある

アントレ教育におけるコアコンピテンシーの検討にかかる背景

- ✓ 現在国内にはアントレ教育に関する統一した見解がないため、教育現場での運用及び学習者にとっての学習体験の観点からアントレ教育のコアコンピテンシーの検討が必要がある

討議事項①
教育効果の評価の確立

討議事項②
全国プログラムを通した検証

討議事項③
整備した指標に基づく改善・研究の推進

現状の課題

- アントレ教育に関する統一した見解が日本国内でないため、現場の教育者がプログラムの開発や改善のプロセスを回しづらい状況となっている
- また、学習者の習熟度レベルに応じた適切なプログラムが明確でないため、アントレプレナーシップ醸成のための有効なラーニングジャーニーの設計に基づく、学習成果の創出がしづらい状況といえる

あるべき姿

【教育現場（教育者）】

- アントレ教育の概念や目的を明確にし、アントレプレナーシップの特徴的な構成要素（コアコンピテンシー）について、コンセンサスを得ることで、プログラム受講により得られる知識・能力・態度の観点でアントレ教育のプログラムの整理、開発、評価を教育現場で運用することができるようになる

【学習品質（学習者）】

- アントレ教育においてどの時期にどのような能力を育てたいかを明確にすることで、学習者の習熟度レベルに応じた適切なプログラムが整備されると共に、プログラム受講により得られる能力が涵養したか評価できるようになり、学習者個々が納得いく形で最適な学習体験を得ることができるようになる

アントレプレナーシップの特徴的な構成要素（コアコンピテンシー）について、国内で検討しコンセンサスを図る必要がある

高等教育におけるアントレコンプ検討の方向性と検討ステップ

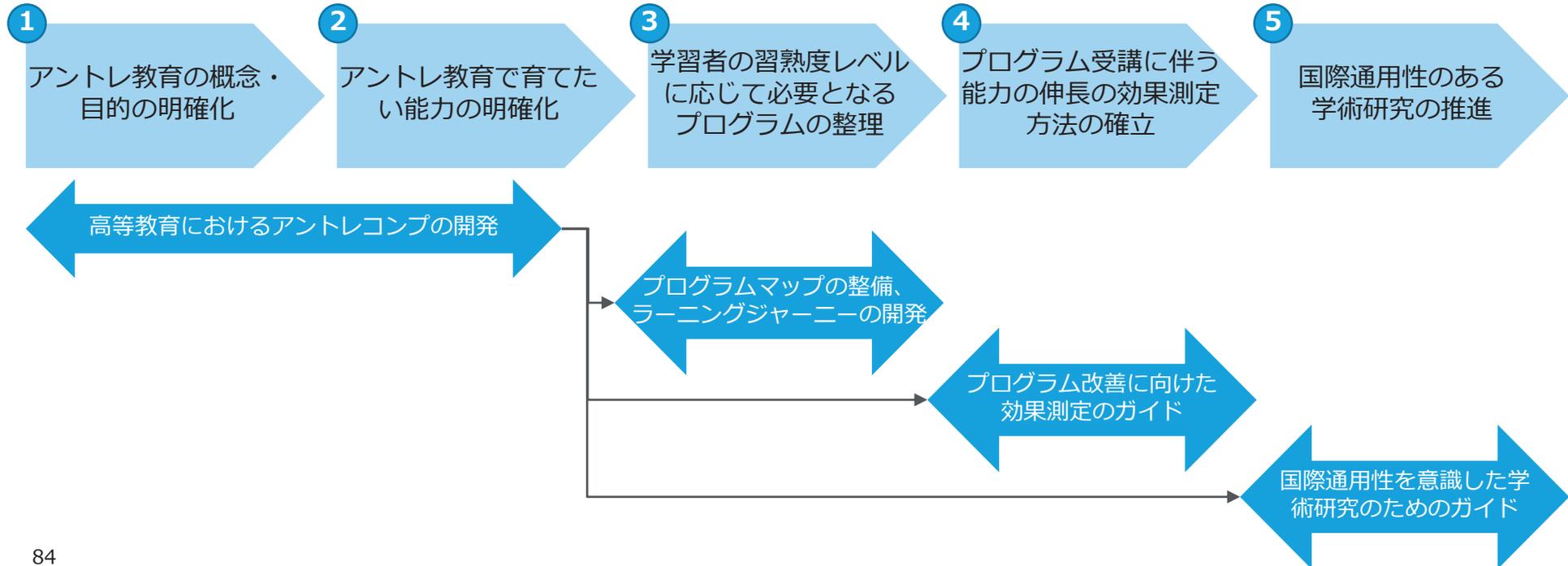
- ✓ アントレ教育のプログラムの整備や教育効果の評価の確立を有効に進める上ではアントレ教育の統一した見解が必要であり、そのために高等教育におけるアントレコンプの検討の必要性について全体統括委員会で協議された
- ✓ 検討ステップについて協議され、プログラムの整備や教育効果の評価の確立、研究の推進に資する形で推進していく



検討の方向性

- アントレ教育に関する統一した見解が日本国内でないことによる課題を解消するために、**アントレプレナーシップの特徴的な構成要素（コアコンピテンシー）**について、**国内で検討しコンセンサスを図る必要がある**
- アントレ教育とはそもそも何かを定義し、育成したいコアコンピテンシーを明確にすることで、プログラムの整備や開発や評価をより有効に検討することができるようになる（アントレ教育のプログラムの整備、教育効果の評価の確立にはアントレ教育に関する統一した見解が必要である）

検討ステップ（中長期的）



アントレコンプ検討における目的、スコープ、メリット/デメリット

✓ アントレコンプを検討するうえで、目的・スコープ・メリット/デメリットを整理したうえで検討を進めた

討議事項①
教育効果の評価の確立

討議事項②
全国プログラムを通じた検証

討議事項③
整備した指標に基づく改善・研究の推進

| | | |
|-----------------|----|---|
| 目的 | 教育 | <ul style="list-style-type: none"> 教育活動（正課内・外）の最低限の質の担保 教育活動の改善の指針 |
| | 研究 | <ul style="list-style-type: none"> アントレプレナーシップ教育研究者の増加 教育研究のための土台作り 国際的な比較ができる |
| ▼ | | |
| スコープ内 | | <ul style="list-style-type: none"> 内容：コンピテンシー（知識、スキル、態度） 対象：大学以降、ビジネス企業、社会起業、その他〇〇起業 制約：2年後を目途に改定を検討 |
| スコープ外 | | <ul style="list-style-type: none"> 内容：受講者の動機付け、マインドセット、起業意思、キャリア教育 対象：小中高は含まない |
| ▼ | | |
| アントレコンプ作成のメリット | | <ul style="list-style-type: none"> 教育：教育内容の偏りを防げる 研究：その先に研究があることを示せる、土台が作れる |
| アントレコンプ作成のデメリット | | <ul style="list-style-type: none"> 教育：教育内容の幅を狭める可能性がある 研究：モデルの制約を受ける可能性がある、概念が現状経営学寄りなので、教育系の研究者から違和感が生じる可能性がある |

アントレコンプのスコープ（詳細）

✓ アントレコンプのスコープは、コンピテンシーの形成（能力開発）として整理をしており、EUのアントレコンプのフレームワークを活用して、本事業で検討を行った



| | | アントレプレナーシップの醸成 | | アントレプレナーシップの発揮 |
|---------|--|--|---|--|
| | | 動機付け・意識醸成 | コンピテンシーの形成 | 社会実践 |
| 評価項目 | | <ul style="list-style-type: none"> • Entrepreneurial Intention (起業家的な意図・意思) • Entrepreneurial Passion (起業家的な情熱) • エフェクチュエーション (起業家的な意思決定) | <ul style="list-style-type: none"> • Entrepreneurship Competence (起業家的なコンピテンシー) <ul style="list-style-type: none"> • 機会の発見と創造 • 資源の活用と獲得 • 行動 <p>EUのアントレコンプのフレームワークを活用</p> | |
| スコープ | | スコープ外 | スコープ内 | スコープ外 |
| 本事業での取扱 | | <ul style="list-style-type: none"> • 2021年度や2022年度の本事業の中で質問票に入っており、全国プログラムを通じて検証を行った | <ul style="list-style-type: none"> • EUのフレームワークを参考にしながら、2023年度教育効果WGを中心に検討を行った | <ul style="list-style-type: none"> • 起業後のパフォーマンスの評価等になるが、本事業においてはスコープ外として整理 |

アントレコンプの検討状況（暫定版）

- ✓ 本事業において、2023年度のアントレコンプは下記のように整理を行い、2024年度継続的な協議を行い、ブラッシュアップを図り、各大学の教育現場や研究現場で使用してもらうことを想定している



| | EntreComp | KSA | 教育ガイド | 改善ガイド | 研究ガイド |
|--------|--|---|--|--|--|
| | EntreComp エリア コンピテンス スレッド | コンピテンシー (KSA) 知識 (知っていること) スキル (知っていることを使うか) 態度 (Attitude/Value/Character) | 教育手法 学習のために使われる学生の活動 学習のために使われる教員の活動 実践例 | 教育改善手法 教育方法改善のための方法 教育方法改善のための指標 | 研究手法 近い概念 (経営学) 研究のための指標 (経営学) 近い概念 (教育学) 研究のための指標 (教育学) |
| 設計上の狙い | アントレ教育をするうえでの過不足を把握する | なにを教えれば良いのかがわかる (What) | どのように教えれば良いのかがわかる (How) | どのように改善すれば良いのかがわかる (Check) | 研究するときの参照先がわかる |
| 実施事項 | アントレ教育内容の概念整理をEUのアントレコンプを参照しながら、整理を行う | 各項目のKSA (知識、スキル、態度) を整理する | 各項目を涵養させるために、どのような教育手法を用いるべきかを調査し、整理する ※実際のクラスを持つ先生方と議論し、実践事例集として充実化させていく | 教育手法をどのように改善すべきかを調査し、整理する | 各項目の教育効果を測定し、研究するための方法を調査し、整理する |

【参考】EUのEntrepreneurship Competence (Entre Comp)

✓ EUでは、主要な政策目標の1つを起業家能力の開発と位置づけ、「The Entrepreneurship Competence Framework」において、起業家の能力を定義されている

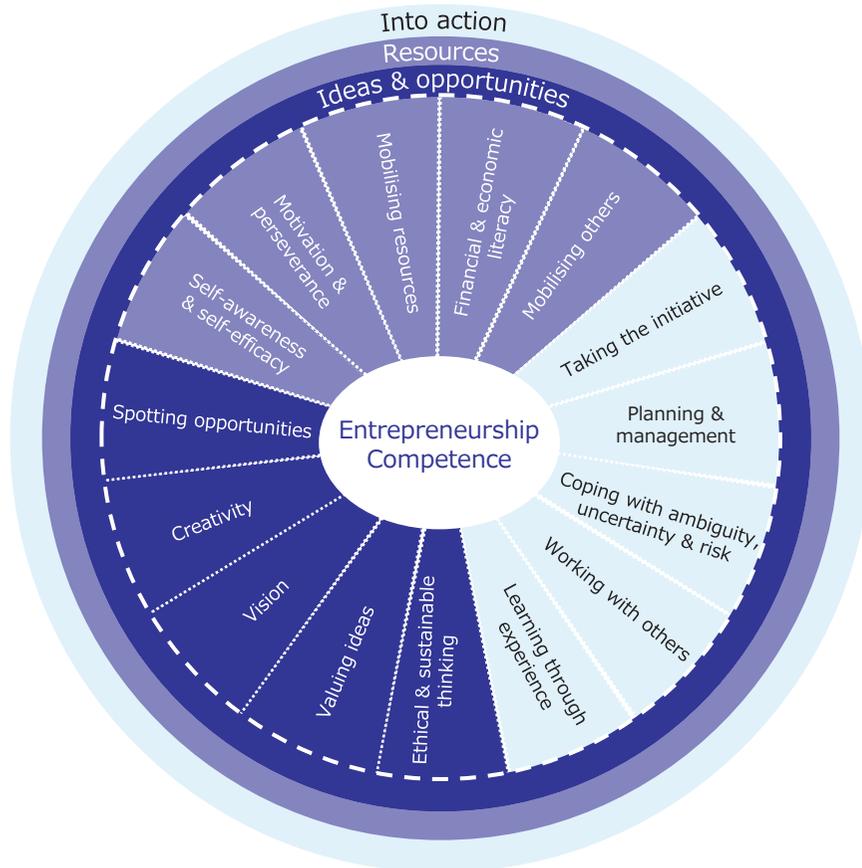


Figure 2: Areas and competences of the EnterComp conceptual model

| Table 1: EnterComp conceptual model | | | |
|-------------------------------------|--|--|---|
| Areas | Competences | Hints | Descriptors |
| 1. Ideas and opportunities | 1.1 Spotting opportunities | Use your ⁵ imagination and abilities to identify opportunities for creating value | <ul style="list-style-type: none"> Identify and seize opportunities to create value by exploring the social, cultural and economic landscape Identify needs and challenges that need to be met Establish new connections and bring together scattered elements of the landscape to create opportunities to create value |
| | 1.2 Creativity | Develop creative and purposeful ideas | <ul style="list-style-type: none"> Develop several ideas and opportunities to create value, including better solutions to existing and new challenges Explore and experiment with innovative approaches Combine knowledge and resources to achieve valuable effects |
| | 1.3 Vision | Work towards your vision of the future | <ul style="list-style-type: none"> Imagine the future Develop a vision to turn ideas into action Visualise future scenarios to help guide effort and action |
| | 1.4 Valuing ideas | Make the most of ideas and opportunities | <ul style="list-style-type: none"> Judge what value is in social, cultural and economic terms Recognise the potential an idea has for creating value and identify suitable ways of making the most out of it |
| | 1.5 Ethical and sustainable thinking | Assess the consequences and impact of ideas, opportunities and actions | <ul style="list-style-type: none"> Assess the consequences of ideas that bring value and the effect of entrepreneurial action on the target community, the market, society and the environment Reflect on how sustainable long-term social, cultural and economic goals are, and the course of action chosen Act responsibly |
| 2. Resources | 2.1 Self-awareness and self-efficacy | Believe in yourself and keep developing | <ul style="list-style-type: none"> Reflect on your needs, aspirations and wants in the short, medium and long term Identify and assess your individual and group strengths and weaknesses Believe in your ability to influence the course of events, despite uncertainty, setbacks and temporary failures |
| | 2.2 Motivation and perseverance | Stay focused and don't give up | <ul style="list-style-type: none"> Be determined to turn ideas into action and satisfy your need to achieve Be prepared to be patient and keep trying to achieve your long-term individual or group aims Be resilient under pressure, adversity, and temporary failure |
| | 2.3 Mobilizing resources | Gather and manage the resources you need | <ul style="list-style-type: none"> Get and manage the material, non-material and digital resources needed to turn ideas into action Make the most of limited resources Get and manage the competences needed at any stage, including technical, legal, tax and digital competences |
| | 2.4 Financial and economic literacy | Develop financial and economic know how | <ul style="list-style-type: none"> Estimate the cost of turning an idea into a value-creating activity Plan, put in place and evaluate financial decisions over time Manage financing to make sure my value-creating activity can last over the long term |
| | 2.5 Mobilizing others | Inspire, enthuse and get others on board | <ul style="list-style-type: none"> Inspire and enthuse relevant stakeholders Get the support needed to achieve valuable outcomes Demonstrate effective communication, persuasion, negotiation and leadership |
| 3. Into action | 3.1 Taking the initiative | Go for it | <ul style="list-style-type: none"> Initiate processes that create value Take up challenges Act and work independently to achieve goals, stick to intentions and carry out planned tasks |
| | 3.2 Planning and management | Prioritize, organize and follow-up | <ul style="list-style-type: none"> Set long-, medium- and short-term goals Define priorities and action plans Adapt to unforeseen changes |
| | 3.3 Coping with uncertainty, ambiguity, and risk | Make decisions dealing with uncertainty, ambiguity and risk | <ul style="list-style-type: none"> Make decisions when the result of that decision is uncertain, when the information available is partial or ambiguous, or when there is a risk of unintended outcomes Within the value-creating process, include structured ways of testing ideas and prototypes from the early stages, to reduce risks of failing Handle fast-moving situations promptly and flexibly |
| | 3.4 Working with others | Team up, collaborate and network | <ul style="list-style-type: none"> Work together and co-operate with others to develop ideas and turn them into action Network Solve conflicts and face up to competition positively when necessary |
| | 3.5 Learning through experience | Learn by doing | <ul style="list-style-type: none"> Use any initiative for value creation as a learning opportunity Learn with others, including peers and mentors Reflect and learn from both success and failure (your own and other people's) |

【参考】Entre Comp - 15個のコンピテンシーと8つのレベル

✓ 3分類に対して、それぞれ5個ずつのコンピテンシーを分類し、計15個のコンピテンシーを定義し、基礎・中級・発展・専門という学習の段階のレベルを定義されている



アイデアとチャンス

1. 機会の発見
2. 創造性 (creativity)
3. ビジョン
4. アイデアの評価
5. 倫理的で持続可能な思考

リソース

6. 自己意識
7. モチベーション
8. リソースの動員
9. 財務的経済的能力
10. 他のステークホルダーの動員

行動

11. イニシアチブを取る
12. 計画し運営する
13. 不確実性やリスクに対処する
14. チームで行動する
15. 経験から学ぶ

| 基礎 (他人からの支援に依存) | | 中級 (独立性を育む) | | 発展 (責任を負う) | | 専門 (変革や成長を駆動する) | |
|---|---|--|---|---|--|--|---|
| 直接の監督下にあること。(例えば、教師、指導者など) | 他者からの支援は少なく、ある程度の自主性を持って、仲間と一緒に行動する。 | 自分一人で、そして仲間と一緒に。 | いくつかの責任を負い、分かち合うこと。 | いくつかの指導を受けながら、他の人たちと一緒に。 | 責任をもって決断し、他者と協働すること。 | 特定分野の複合的な発展に貢献する責任を負っていること。 | 特定の分野の発展に大きく寄与していること。 |
| 1.発見 | 2.探索 | 3.実験 | 4.挑戦 | 5.改善 | 6.強化 | 7.拡張 | 8.変革 |
| レベル1は、主に自分の資質、可能性、興味、希望を発見することに重点を置いています。また、創造的に解決できるさまざまなタイプの問題やニーズを認識し、個人のスキルや態度を伸ばすことに重点を置いています。 | レベル2は、問題に対するさまざまなアプローチを探求し、多様性に集中し、社会的スキルと態度を身につけることに重点を置いています。 | レベル3は、クリティカルシンキングと、例えば企業の実践的な経験を通じて、価値を創造する実験に重点を置いています。 | レベル4は、アイデアを「実生活」で行動に移し、その責任を取ることに重点を置いています。 | レベル5では、アイデアを行動に移し、価値創造にますます責任を持ち、起業家精神に関する知識を深めることに重点を置いています。 | レベル6は、他者と協働すること、自分が持っている知識を利用して価値を生み出すこと、複雑化する課題に対処することに重点を置いています。 | レベル7は、不確実性が高く、常に変化する環境に対応し、複雑な課題に取り組みするために必要な能力に焦点を当てています。 | レベル8は、研究開発およびイノベーション能力を通じて新しい知識を開発し、卓越性を達成し、物事のやり方を変革することで、新たな課題に焦点を当てます。 |

【参考】アントレ教育の定義に関する論文

✓ アントレプレナーシップの定義に関して3つの論文がWGの中で取り上げられた

| タイトル | 著者・プロフィール | 出版年 | リンク | 言及された定義 |
|---|---|------|---|--|
| The definition of entrepreneurship: is it less complex than we think? | Prince, Chapman and Cassey ----- プロフィール 特定できず | 2021 | https://www.erauld.com/insight/content/doi/10.1108/ijeb-11-2019-0634/full/html | アントレプレナーシップとは、 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 新しいビジネスの立ち上げること ➢ 不確実性の高い環境下で行動すること ➢ イノベーションを起こすこと ➢ 機会を追求し、作ること ➢ 新しい価値を創造すること |
| What is Entrepreneurship? | Steven Gedeon ----- ・ Toronto Metropolitan University ・ アントレプレナーシップと戦略 部門 | 2010 | (PDF) What is Entrepreneurship Steven Gedeon - Academia.edu | 1980年代以降の定義を抜粋： <ul style="list-style-type: none"> ➢ 起業家は、雇用されていないベンチャー事業の主要所有者および経営者 ➢ 起業家は、チャンスを察知し、それを追求するための組織を作る ➢ 起業家精神は、新しい組織が誕生するプロセス ➢ 起業家精神は、イノベーションを通じて価値を創造する機会を発見して開発し、リソース（人的および資本）や起業家の所在地（新規または既存の会社）に関係なく、その機会をつかむプロセス |
| Entrepreneurship in Education What, Why, When, How | Martin Lackeus ----- ・ Chalmers University of Technology ・ アントレプレナーシップと戦略 部門 | 2015 | BGP Entrepreneurs hip-in-Education.pdf (oecd.org) | <ul style="list-style-type: none"> ➢ 起業家精神の狭い定義によると、機会の特定、ビジネスに関するもの。開発、自営業、ベンチャーの創設と成長。例えば、起業家になること ➢ 起業家精神の広義の定義によると、個人の成長、創造性、自立、率先して行動するなど、行動志向に関するもの。例えば、起業家的になること |

委員会でのディスカッションポイント及び議論内容まとめ

✓ 討議事項②全国プログラムを通じた検証にて、全国プログラムについて3回のWGを通して、協議を行った



| | | 1回目 | 2回目 | 3回目 |
|---------|--------------|--|--|--|
| 全国プログラム | ディスカッションポイント | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 2022年度の全国プログラムの結果を振り返り、2023年度の全国プログラムを通じた検証の方針について検討する ✓ 2023年度オンライン開催することになった全国プログラムにおいて、2022年度のオンライン開催との比較をする上でどのような点について考慮し、教育効果を検証していくか検討する | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 各大学/各地域の教育現場でアントレ教育の教育効果の測定に使用してもらえるパッケージを策定するために、2023年度の全国プログラムを用いてどのような評価を行うべきか検討する ✓ 教育効果を測定するために、具体的にどのような質問票とするか、また質問票の回収率向上に向けた取組等を検討する | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 2023年度の全国プログラムの結果を振り返り、2024年度に向けてどのように繋げていくか検討する ✓ 2023年度の教育効果の測定結果をどのようにしてとらえるか、2022年度との比較やクロスユニバーシティ（大学間比較）分析等の方法について検討する ✓ 半年後の経過調査の質問票の回収率をいかに向上させるかを検討する |
| | 協議内容 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 効果測定の調査を行う上で、調査のPDCAを回すために今年1回で終わらせるのではなく、最低2回以上続けて調査を行う必要がある ✓ 学生のエンゲージメント、環境要因等の要素を質問票に加え、より構造的な効果検証をする必要がある ✓ プログラムの評価・指導の双方にとって価値のあるアントレ教育に関するコモンルーブリックは2023年度世界的にもまだ存在しておらず、から検討を始めたアントレコンプと紐づけてルーブリックを将来的に考えていくと良いと考える | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 2023年度の質問票は2022年度の取組と極力平仄を合わせ研究で比較できるように設計する ✓ プログラムの改善を目的としたプログラムの中身・要素に対する調査は今回は劣後とし、次回以降検討する ✓ 質問票の回収率を高めるために、インセンティブ付与と一定の強制感を検討する必要がある（授業中のアンケート回収や事後振り返りイベントの開催など） ✓ パフォーマンス評価については、アントレコンプが定まった上で、改めて検討を行う | <ul style="list-style-type: none"> ✓ プログラムの実施形態として、オンライン視聴と現地参加の組み合わせを検討してもよいと考える ✓ プログラムの基本設計が同じであり、設計が考え抜かれているため、2022年度と比較しても教育効果測定の結果に差はあまりないように考える ✓ 実施の前提条件が異なるため教育効果の数値が独り歩きしてしまわないように留意が必要 ✓ 半年後のアンケート回収について、系統的に補完できる点やイベントの開催等を検討し、負担なく、楽しみながら回答を促せると良い |

委員会でのディスカッションポイント及び議論内容まとめ

✓ 討議事項②全国プログラムを通じた検証にて、FDプログラムについて3回のWGを通して、協議を行った

討議事項①
教育効果の評価の確立

討議事項②
全国プログラムを通じた検証

討議事項③
整備した指標に基づく改善・研究の推進

| | | 1回目 | 2回目 | 3回目 |
|---------|--------------|---|--|---|
| FDプログラム | ディスカッションポイント | <ul style="list-style-type: none"> ✓ アントレ教育の環境を整備し、各地での受講機会を拡大するために、各大学/民間企業等で全国プログラムでの検証結果の活用をどのように促進していくか検討する ✓ アントレ教育を教えることのできる教員を増やすために、教員の育成プログラム (FDプログラム)をどのように行い、各地域での実効性を高めていくか検討する | <ul style="list-style-type: none"> ✓ FDプログラムを受講される教職員に対して、どのようなコミュニケーションを行い、各大学/各地域でのプログラムの実施及び教育効果測定の実効性を高めていくか検討する ✓ 教員のコミュニティをどのように活性化させていくか検討する | <ul style="list-style-type: none"> ✓ FDプログラム受講後の教育展開に向けて、どのようなフォローが必要か検討する ✓ 2023年度の実施結果を振り返り、2024年度にどのように広げていくかについて検討する |
| | 協議内容 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 2023年度は教員へのFDに注力する方針に基づき、教育現場の教員が自大学/自地域でカスタマイズできるような教育パッケージを提供していく ✓ FDプログラムのターゲットを明確化し、ターゲットが抱える課題を解消する支援ツールを用意できると良い ✓ FDプログラムを受講する教員にアントレ教育を実際に体験させ、関心を醸成させるとともに、学生フォローやメンタリングの拠所を掴めるよう設計し教員に学ぶきっかけを与える ✓ 教員のコミュニティを形成し、教員同士の繋がりを作る必要がある | <ul style="list-style-type: none"> ✓ ピアメンタリングプログラムのように参加者でグループを組ませ、構造化されたプログラムを設計し、参加者には強制的なタスクを設けさせると共に、教育実施後のフォローアップを実施するとコミュニティとして継続するのではない ✓ 学生と同じ空間で同じ体験をさせることで、プログラムの狙いを暗示的に理解してもらうように設計する ✓ FDプログラム受講教員に研究や教育効果測定のための協力を促すために、本取組が自校のプログラムを評価するベンチマークになることを発信する | <ul style="list-style-type: none"> ✓ FD受講教員の同窓会等のフォローアップを企画し、実践した結果や各教員の抱える課題を共有し、参加者間で解決策について協議してもらうよう設計する ✓ FDプログラムでは、教授法だけでなく、教育に対するマインドセットのパラダイムシフトも伝えていく必要がある ✓ アントレ教育実施における障壁を解消するガイドブックを将来的に作れると良いと考える(組織、効果等) ✓ FD受講教員の活動内容を取り上げ、学内を動かす取組を検討しても良い |

全国プログラムの概要

- ✓ 全国プログラムを開催し、教育効果測定の検証を実施した（プログラムの詳細は2章を参照）

討議事項①
教育効果の評価の確立

討議事項②
全国プログラムを通じた検証

討議事項③
整備した指標に基づく改善・研究の推進

| | |
|---------|---|
| 名称 | 全国アントレプレナーシップ人材育成プログラム |
| 事業背景・目的 | 今、社会は急激なスピードで変化しています。文部科学省では、社会課題を自分事として捉え、失敗を恐れず、新たな価値やビジョンを創造できる学生が全国に広がるよう、アントレプレナーシップ教育を推進しています。アントレプレナーシップは、起業意思の有無に関わらず、自ら枠を超えて行動を起こし新たな価値を生み出していく力であり、すべての人が身につけるべき資質であると考えています。 |
| 募集対象 | 全国の大学生・大学院生・高等専門学校生（高校生も数十名程度参加可能） 定員180名程度 |
| 開催形式 | 東京会場でのオフライン開催 (Deloitte Tohmatsu Innovation Park 東京都千代田区丸の内三丁目3番1号新東京ビル8F) |
| 受講料金 | 無料（交通費・宿泊費等は自己負担） |
| その他 | 全日程を参加した受講者に受講修了証発行 |
| 公式HP | https://entrepreneurship-education.mext.go.jp/ |

プログラム概要

ビジネスでの起業テーマコース

2023年
12月23-24日

1日目10:00-19:00、
2日目9:30-18:00

ビジネスでの起業についての学習と実践を通して、新しい物事を始めるときに役立つスキルや態度である「アントレプレナーシップ」を学ぶ
今後のキャリアの中で新規事業や起業に携わりたい人、ビジネスに限らず新しい何かを始めて社会の役に立ちたい人を対象とした授業

講師：東京大学 馬田隆明先生

公式ウェブサイト

Program 全国プログラム/学生向け

2023年度 プログラム概要

ビジネスでの起業をテーマに、特に起業初期において必要なスキルと行動法を実践しながら、アントレプレナーシップを身に付けるプログラム
グループワークを中心に、事業化アイデアをチームで検討・決定し、それを売り込むまでの計画とその間の具体的な行動について学習します

主な内容

- ・事業化アイデアの決定
- ・行動計画の策定
- ・顧客インタビューを通じた検証
- ・MVP (Minimum Viable Product) の開発
- ・セールスの準備及び実施
- ・ピッチ準備及びピッチ
- ・チームでの振り返り
- など

プログラムの期待効果

何か新しいことを始めるときに役立つ基礎的な手法（仮説検証、顧客インタビュー、プロトタイプ開発、セールスなど）を一連の流れに沿って経験します

FDプログラムも同日、同会場で開催した（詳細は第2章参照）

2023年度の全国プログラムのアンケート調査結果：2022年度との比較

✓ 2022年度と2023年度のプログラム内容・収集データ数等の比較結果は、下記の通り

討議事項①
教育効果の評価の確立

討議事項②
全国プログラムを通じた検証

討議事項③
整備した指標に基づく改善・研究の推進

| | 2022年度 | 2023年度 |
|-----------------|---|--|
| 開催形式 | オンライン（Zoom、Teams併用） | オフライン（東京会場） |
| 開催日数・ 総時間数 | 3日間 2022/12/26-28開催 （計15時間） | 2日間 2023/12/23-24開催 （計16.5時間） |
| 主なコンテンツ・ 時間数 | 1日目：アイデア、仮説、顧客インタ ビュー など （5時間） | 1日目：アイデア、仮説、顧客インタ ビュー、GO/NOGO、MVP、 セールス準備 など （約8.5時間） |
| | 2日目：GO/NO GO判断、MVP、ピッチ開発、 セールス など （5時間） | |
| | 3日目：ピッチ準備・実施、振り返り （5時間） | 2日目：ピッチ実践・代表ピッチ、振り返り、 アイデア・セールス・MVP・ピッチ の改良 （約8時間） |
| 参加者数・定員数 | 253名（定員500名） | 145名（定員180名） |
| 修了者数 | 175名 | 130名 |
| アンケート 回収件数 | T1：217件 T2：123件 | T1：135件 T2：121件 |
| アンケート 有効回答件数 | T1：126件 T2：87件 | T1：126件 T2：89件 |

効果測定アンケート調査実施結果

✓ プログラム受講者及び非受講者に対して、アンケート（質問票）を配布して、教育効果の測定を実施した

討議事項①
教育効果の評価の確立

討議事項②
全国プログラムを通じた検証

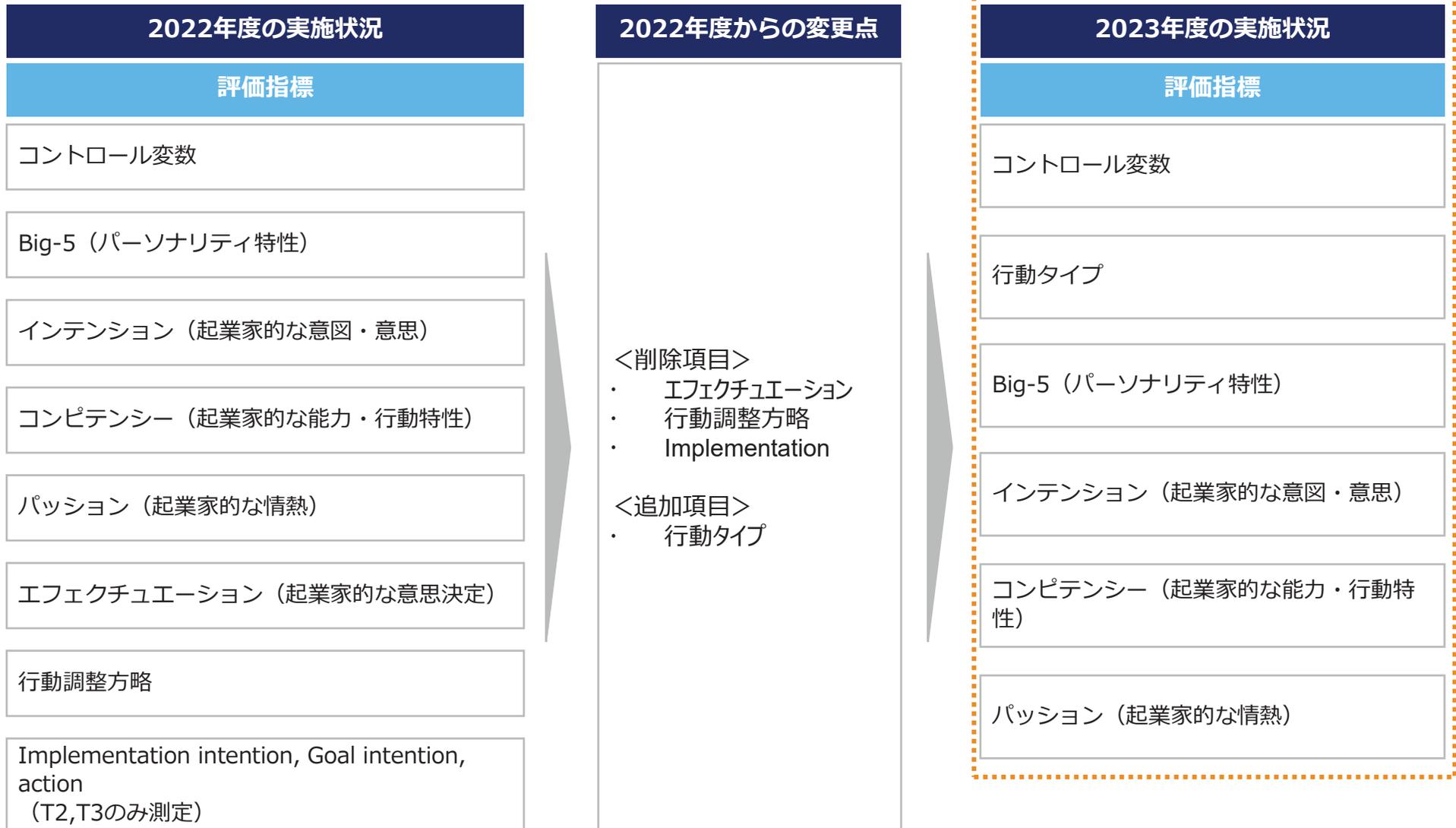
討議事項③
整備した指標に基づく改善・研究の推進

| | |
|------|--|
| 調査目的 | <ul style="list-style-type: none"> プログラムの改善に関する教育的な評価を行えるように、プログラム受講によって学生の意識・行動変容を測定する |
| 調査対象 | <ul style="list-style-type: none"> トリートメント群：全国プログラム受講者、他校プログラム受講者 コントロール群：全国プログラムを受講していない学生（文部科学省から各大学に送付し、各大学から学生に送付） |
| 調査方法 | <ul style="list-style-type: none"> トリートメント群：プログラム受講前（T1）、プログラム受講後（T2）、プログラム受講半年後（T3）の計3回実施 コントロール群：プログラム開始時期（T1）、T1回収時期から半年後（T3）の計2回実施 |

| | T1 | T2 | T3 |
|--------------------------------------|---|---|---|
| 全国プログラム トリート メント群 (受講群) | <ul style="list-style-type: none"> 実施時期：12/23配布 回答数：135件 (有効回答数126件) | <ul style="list-style-type: none"> 実施時期：12/24配布 回答数：121件 (有効回答数89件) | <ul style="list-style-type: none"> 実施時期：2024年7月予定 |
| 他校 プログラム トリート メント群 (受講群) | <ul style="list-style-type: none"> 実施時期：12/18配布 回答数：45件 (有効回答数37件) | <ul style="list-style-type: none"> 実施時期：1/29配布 回答数：36件 (有効回答数21件) | <ul style="list-style-type: none"> 実施時期：2024年7月～8月予定 |
| コントロール群 (非受講群) | <ul style="list-style-type: none"> 実施時期：1/9配布 対象者：全国の学生 回答数：2,091件 (有効回答数1,761件) | <ul style="list-style-type: none"> 配布無し | <ul style="list-style-type: none"> 実施時期：2024年7月予定 |

2023年度の教育効果の測定指標の選定及び開発

✓ 2022年度の全国プログラムにて実施した評価指標をベースとしながら、2023年度の指標を設計した



教育効果の測定指標の選定結果（アンケート実施事項）

✓ 下記の項目をもとに、教育効果測定のためのアンケート票を作成した

討議事項①
教育効果の評価の確立

討議事項②
全国プログラムを通じた検証

討議事項③
整備した指標に基づく改善・研究の推進

| 項目 | T1 | T2 | T3 | 出典 | コメント |
|----------------------------|----|----|----|----|----------|
| デモグラフィック変数 | ✓ | | | | |
| Satisfice | ✓ | ✓ | ✓ | | |
| Big5 | ✓ | | | | |
| Entrepreneurial Intention | ✓ | ✓ | ✓ | ※1 | |
| Entrepreneurial Passion | ✓ | ✓ | ✓ | ※2 | 尺度の一部を利用 |
| Entrepreneurial Competency | ✓ | ✓ | ✓ | ※3 | 尺度の一部を利用 |

| # | 指標 | 意味 | 設問の参考文献 |
|---|--|---|--|
| 1 | インテンション（起業家的な意図・意思） Measures of core entrepreneurial intention model elements | 行動に先立って、新しい事業を始めたり、起業家になるなどの起業家的行動に注意を向ける意識的な心の状態 | Liñán, Francisco, and Yi-Wen Chen. "Development and cross-cultural application of a specific instrument to measure entrepreneurial intentions." Entrepreneurship theory and practice 33.3 (2009): 593-617. |
| 2 | コンピテンシー（起業家的な能力・行動特性） Entrepreneurial competency | 事業を創設、開発、管理、成長させるために必要な一連のスキルと行動 | Morris, Michael H., et al. "A competency-based perspective on entrepreneurship education: conceptual and empirical insights." Journal of small business management 51.3 (2013): 352-369. |
| 3 | パッション（起業家的な情熱） Entrepreneurial passion | 起業活動が自分自身のアイデンティティと一致していると認識し、強烈でポジティブな感情 | Cardon, Melissa S., et al. "Measuring entrepreneurial passion: Conceptual foundations and scale validation." Journal of business venturing 28.3 (2013): 373-396. |

2023年度全国プログラム-FDプログラム

- ✓ FDプログラムは、今後自大学でアントレ教育を展開できる教職員に対して、2023年12月末（学生プログラムと同時期）に開催した

学生

FD

| | |
|---------|--|
| 名称 | 全国アントレプレナーシップ人材育成プログラム-FDプログラム |
| 事業背景・目的 | <p>全国アントレプレナーシップ教育プログラムで実施した内容を、全国各教育機関でアレンジしながら展開できるようにするを目的とします。（※ FDとは Faculty Development の略です）</p> <p>多くの学生がアントレプレナーシップを身に着けるには、アントレプレナーシップを教えらるる教員も増えなければなりません。本講義 (FD) を通して、アントレプレナーシップを伝えらるる方を増やしていきたいと思っています。</p> |
| 募集対象 | <p>自学で今後教育プログラムを展開できる大学等の教職員</p> <p>定員30名程度</p> |
| 開催形式 | <p>東京会場でのオフライン開催</p> <p>(東京都千代田区丸の内三丁目3番1号新東京ビル)</p> |
| 受講料金 | 無料（交通費・宿泊費等は自己負担） |
| その他 | 学生プログラムの授業参観（一部授業体験）を実施 |
| 公式HP | https://entrepreneurship-education.mext.go.jp/ |

プログラム概要

事前講義
@Zoom
2023年
12月20日
17:00-18:30

授業参観@会場
2023年
12月23-24日
1日目10:00-19:00、
2日目9:30-18:00

事後講義@会場
2日目14:40-16:10

本FDは、事前・事後の講義と授業参観（一部体験）を通して、各教育機関において同講義を提供するための考え方やノウハウを身に着けるためのものです

1. 事前講義では、全国アントレプレナーシップ教育講義の設計意図を説明します。
2. 授業参観を通して、実際の授業の様子をご覧ください。
3. 事後講義では、授業実施の様子を振り返り、授業を行うための設計の練習を実施します。FD終了後、各教育機関において同講義を展開いただくための資料セットを提供します。

講師：東京大学 馬田隆明先生 富田佳奈先生

公式WEBサイト

Program 全国プログラム/教職員向け

教職員プログラムの目標

受講した先生方が、プログラム終了後に提供した資料を参照し、またはアレンジし、自分たちの学校で2～3日の間様のプログラムが実践できるようになることを目指します。

実施時期・場所・形式

事前講義の内容：12月14日～20日の間にオンライン（Zoom）で開催
※Zoomには、PCやタブレットなど文字入力ができるデバイスでの参加が必要です
事前講義の目的：
①アントレプレナーシップ教育の重要性を理解する
②プログラムの意図や背景を理解する
③プログラムを実施するための視点で授業を観察できるようになる

※事前講義（当日までに確認する動画やHP）も提示します
※実施時期：2023年12月20日（土）・24日（日）のいずれかDeloitte Tohmatsu Innovation Park*（学生と同じ会場）にて授業参観
※実施時間：24日（日）14：30～18：00の間に90分程度実施
*Deloitte Tohmatsu Innovation Park：東京都千代田区丸の内三丁目3番1号 新東京ビル8F（<https://park.deloitte.jp/>）

各大学/各地域での教育効果測定の実効性を担保する上での論点

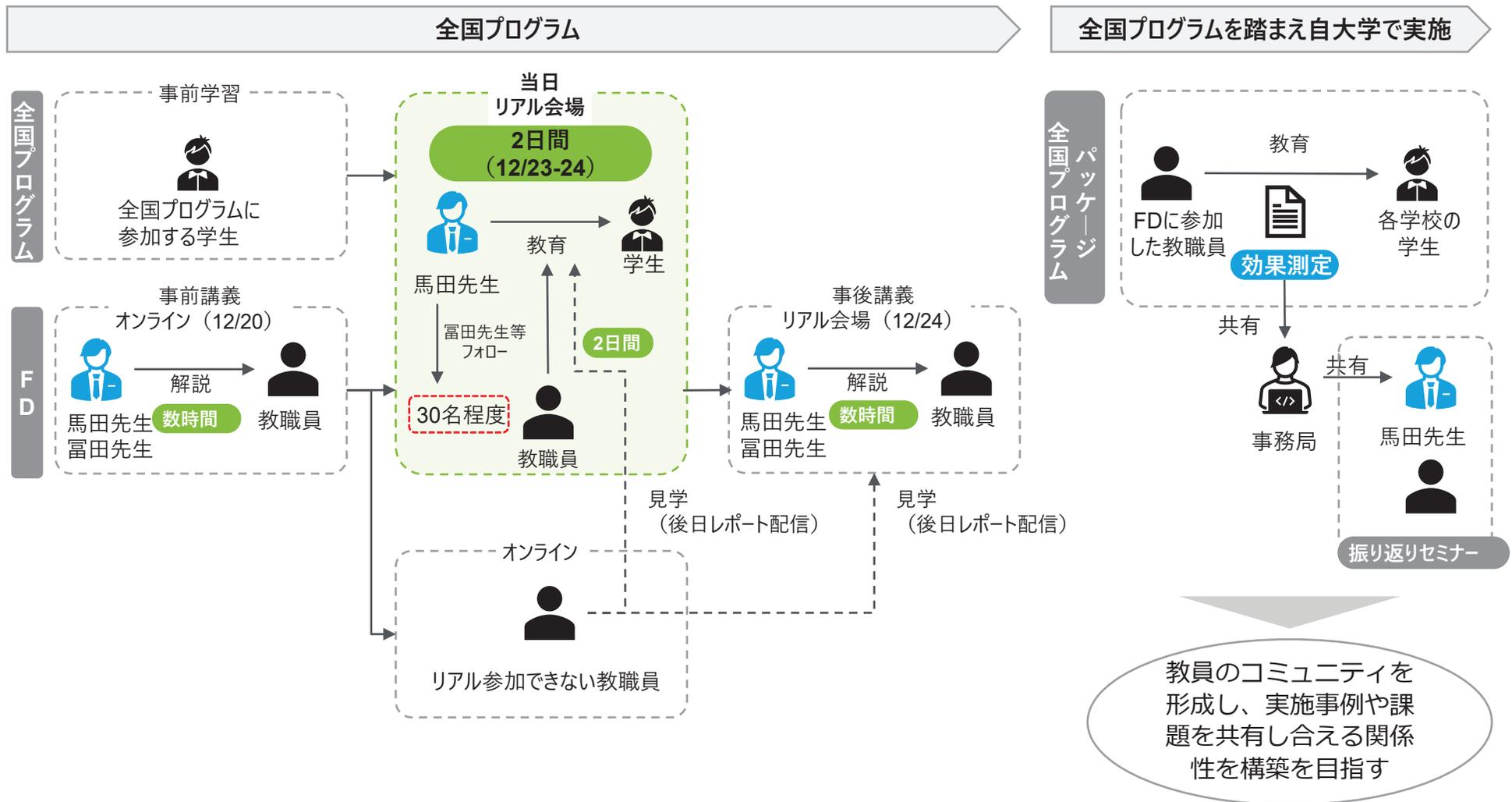
✓ FDプログラムを通し、各大学/各地域での実効性を高めるために、参加者のフィルタリングの論点と、参加者に対するコミュニケーションについて、協議を行った



| | | |
|----------------------|------------------------|--|
| 参加者の フィルタリング | 量的視点 | <ul style="list-style-type: none"> 全国規模で募集をかけ、各地域でのプログラムの展開ができるように広く声かけを行う 各校での導入の確度を高めるために、同校からの申込も増やす必要がある 様々なバックグラウンド、専門性等を持つ方に参加していただく必要がある |
| | 質的視点 | <ul style="list-style-type: none"> 各大学/各地域でアントレ教育を2024年度実施していただける方が望ましい 実施計画書が具体的かつ実現性が高く、担当者の熱量が高いことが望ましい 教育効果測定等の活動に対して、協力的である必要がある |
| 参加者に対する コミュニケーション | FD前 | <ul style="list-style-type: none"> 多くの方に申込をしていただけるように、各校の担当者に声かけを行う 申込時に提出いただいた実施計画書を確認の上、公正に選出を行う 質的視点を担保してもらえるかを事務局より最終意思確認を実施する |
| | FD当日 (12/20, 23-24) | <ul style="list-style-type: none"> 事前講義、全国プログラムの見学、事後講義が円滑に進行できるよう設計する 交流会を開催し、参加者コミュニティ形成を図る（Slackでクローズドなチャンネルも作成） |
| | FD後 | <ul style="list-style-type: none"> 参加者が提出した実施計画書に基づき、実施に向けた事務局から適宜進捗確認を行う 実施後の教育効果測定データのとりまとめ、振り返りセミナーの企画する |

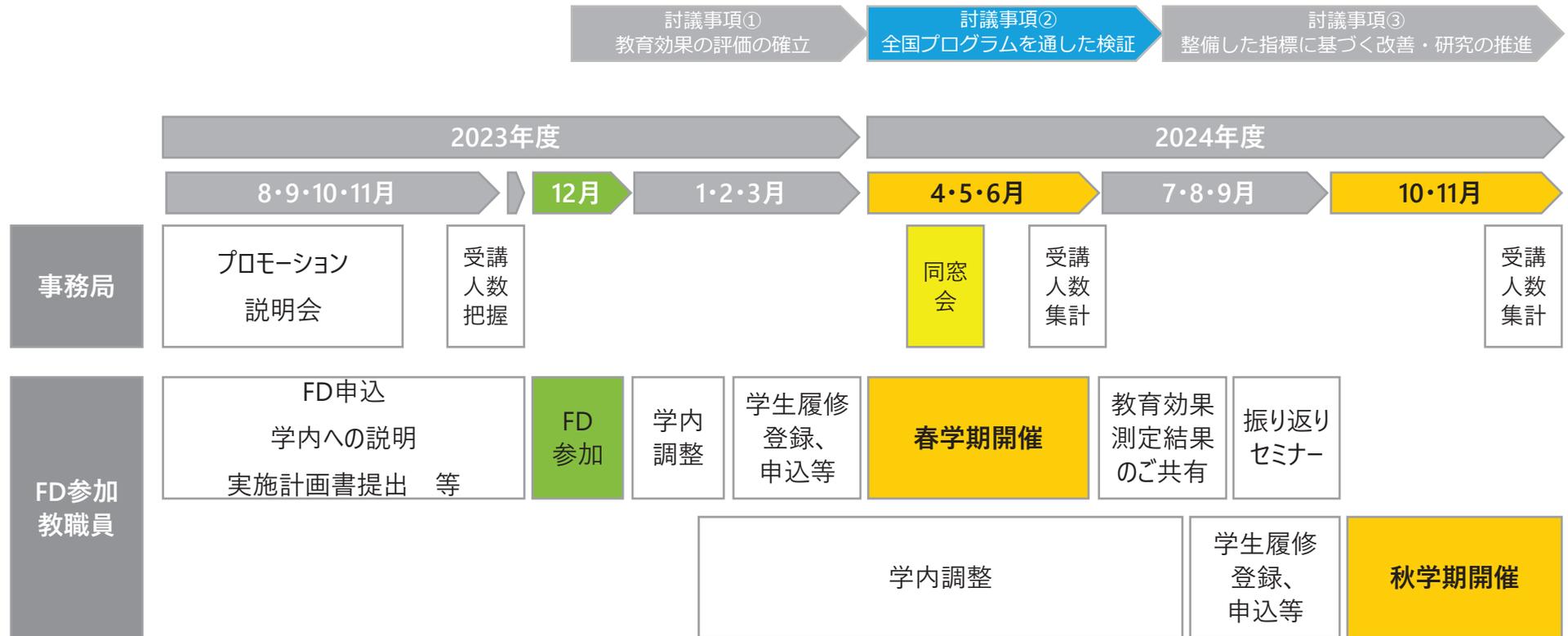
各大学/各地域での教育効果測定の実施に向けた全体像

- ✓ FDプログラムに参加した教職員が各大学/各地域でプログラムを実施し、教育効果を測定し、そこで収集したデータを事務局にて取りまとめを行う



各大学/各地域での教育効果測定の実施に向けた進め方（案）

- ✓ FDプログラムに参加した教職員が自校でプログラムを確実に実施し、教育効果測定をしていただくために、FDプログラムへの申込の際に提出した実施計画書に基づき、事務局にてフォローアップを適宜行う計画としている

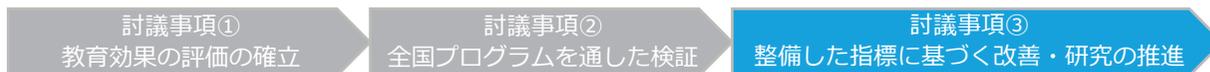


FDプログラム参加者に対するフォローアップに係る取組

FDプログラム参加者に向けた同窓会を企画
また、申込時点で収集した**実施計画書**に基づいた、フォローアップを行う想定

委員会でのディスカッションポイント及び議論内容まとめ

✓ 討議事項③研究の推進について、3回のWGを通して、協議を行った



| | 1回目 | 2回目 | 3回目 |
|--------------|--|---|---|
| ディスカッションポイント | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 2022年度実施した全国プログラムを通して収集した教育効果測定結果のデータを用いた研究を促進するために、どのような取組が必要か検討する ✓ 2022年度の委員会で協議された馬田先生を中心とする研究推進のタスクフォースチームの組成について協議を行う ✓ 研究者の育成やすそ野拡大に向けて、どのような取組が必要か検討する | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 2022年度及び2023年度にて収集したデータの研究活用に向け、馬田先生を中心とするタスクフォースを組成し、推進体制をどのように整えていくかについて協議する ✓ 研究者を巻き込んでいく上で、学会との連携を通じた研究者コミュニティの形成を検討する | <ul style="list-style-type: none"> ✓ データの活用を広めるために、データ公開、発信方法について協議する ✓ 研究者のすそ野拡大について、学際的な学会との連携はどのように進めればよいか検討する |
| 議論内容 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 収集データの利用促進に向け、プログラムのナレッジの横展開・各地でのデータ収集ができれば、各データを参照した研究に繋がられ、関心を持つ教員も増えると考えられる ✓ 研究を行う上でサンプル数の確保のため、調査の継続によるデータの蓄積や定性的な調査とセットに行う必要がある ✓ 研究者のすそ野拡大の観点で、各分野の研究者を巻き込むために、既存の学際的な学会との連携を考える | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 実施体制は本事業の委員メンバーを中心に組成し、トップジャーナルに論文を掲載する目的として推進するが、2024年度以降は教育提供者が教育プログラムの改善に役立つ実務的な調査を意識していく ✓ ビジネスの領域に絞らず、教育の分野の学会や、キャリア×工学×アントレ教育は非常に相性が良いので、それらの学会から連携を図る ✓ 多くの人に研究として活用してもらうために、収集データのオープンソース化を進めていく | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 文部科学省のHPに掲載するだけでなく、各省庁や教育系事業者も活用しているSSJDAにデータを掲載し、データのエクスポージャーを増やしていく ✓ 研究者のすそ野拡大に向けて、イノベーション教育学会への参加、大学教育学会でのRT（ラウンドテーブル）を通じた興味のある先生を広く巻き込んでいく ✓ 実務家教員への巻き込みに向け、教員と民間企業が交流できる場、研究研修との連携を検討していくと良い |

研究タスクフォースに関する論点整理

✓ 研究タスクフォース組成における論点として、研究目的の整理と実施内容（体制と計画）の整理を行った

討議事項①
教育効果の評価の確立

討議事項②
全国プログラムを通じた検証

討議事項③
整備した指標に基づく改善・研究の推進

| | | |
|------|--------------------------|---|
| 研究目的 | 目的① トップの引き上げ | <ul style="list-style-type: none"> 日本から海外の学会等に提出される論文が少ないという背景を踏まえた目的としていく オンラインとオフラインの比較という観点でタンジブルな成果が上げられる可能性がある |
| | 目的② ボトムの引き上げ | <ul style="list-style-type: none"> 日本におけるアントレ教育の研究環境の未整備という背景を踏まえた目的としていく 本事業で回収したデータをオープン化していくことで研究環境の整備を図る |
| | 目的③ プログラムの効果測定 | <ul style="list-style-type: none"> 各大学/各地域で実施されているプログラムの教育的価値向上に向け、プログラムの評価・改善の方法を示し、プログラム提供者（教員等）がPDCAサイクルを自発的に回せるようにすることを目的としていく |
| 実施内容 | 実施体制の構築 | <ul style="list-style-type: none"> 本事業の委員を中心とした体制で推進していく |
| | 実施計画の策定 | <ul style="list-style-type: none"> サンプル数の確保が重要であり、2023年度のプログラムで収集できるデータを基に研究を行っていく 2022年度と2023年度の比較、クロスユニバーシティ分析などの分析を進めていく想定 |

研究データ公開（文部科学省HP）

✓ 文部科学省のHPにて研究データを公開し、利用申請の申込を開始した

討議事項①
教育効果の評価の確立

討議事項②
全国プログラムを通じた検証

討議事項③
整備した指標に基づく改善・研究の推進

2.「アントレプレナーシップ教育に関する調査データ」の概要

アントレプレナーシップ教育の効果検証及びアントレプレナーシップ教育に関する研究の促進・研究環境の整備のため、調査データを公開します。利用にあたっては、以下の条件を遵守して申請してください。

1. 調査データ

「大学生の起業やスタートアップに対する意識やスキルに関する調査」

「全国アントレプレナーシップ人材育成プログラム」において、受講生と非受講生のアントレプレナーシップの醸成度合を定点的に測定したものです。

(参考)「全国アントレプレナーシップ人材育成プログラム」について

○実施: 令和4年12月26日・27日・28日(3日間: 計12時間)

○講師: 東京大学 馬田隆明氏

○方式: オンライン

○内容: ビジネスでの起業をテーマにしたプログラム

プログラムの詳細については、[令和4年度科学技術人材養成等委託事業「全国アントレプレナーシップ醸成促進に向けた調査分析等業務」における調査結果【第2章】](#)を参照

調査実施概要

| | | | |
|-------------------|--|--|--|
| 調査目的 | ■ プログラムの改善に関する教育的な評価を行えるように、プログラム受講によって学生の行動変容（マインド、能力、行動に関する変化）を測定する | | |
| 調査対象 | ■ トリートメント群: 全国プログラム受講者（馬田先生の授業を受けた学生） ■ コントロール群: 全国プログラムを受講していない学生（文部科学省から各大学に送付いただき、各大学から学生に送付） | | |
| 調査方法 | ■ トリートメント群: プログラム受講前（T1）、プログラム受講後（T2）、プログラム受講半年後（T3）の計3回実施 ■ コントロール群: プログラム開始時期（T1）、T1回収時期から半年後（T3）の計2回実施 | | |
| | T1 | T2 | T3 |
| トリートメント群 (受講群) | <ul style="list-style-type: none"> 実施時期: 12/26配布 対象者: プログラム受講者 回答数: 216件 ステータス: 終了 | <ul style="list-style-type: none"> 実施時期: 12/28配布 対象者: プログラム受講者 回答数: 123件 ステータス: 終了 | <ul style="list-style-type: none"> 実施時期: 2023年7月14日 対象者: 有効回答者 回答数: 21件（有効回答数20件） |
| コントロール群 (非受講群) | <ul style="list-style-type: none"> 実施時期: 12/27配布 対象者: 全国の学生 回答数: 1,494件 ステータス: 終了 | <ul style="list-style-type: none"> 配布無し | <ul style="list-style-type: none"> 実施時期: 2023年7月14日 対象者: 有効回答者 回答数: 206件（有効回答数198件） |

質問項目一覧・サンプルデータ

▶ [質問項目一覧 \(PDF:874KB\)](#) 

▶ [提供データ\(サンプル\) \(Excel:34KB\)](#) 

https://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/sangaku/1413730_00014.htm

学会連携の検討論点の整理

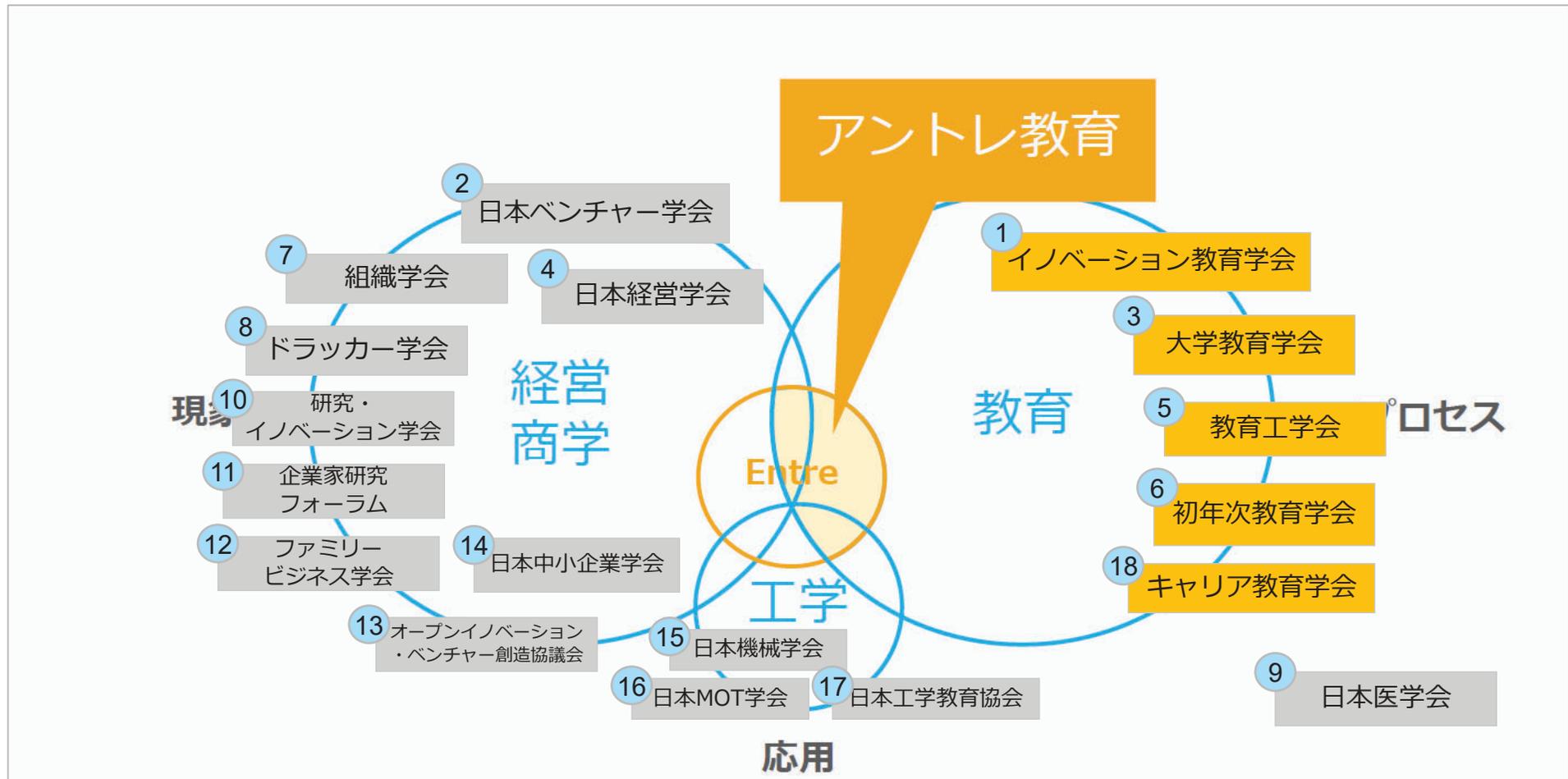
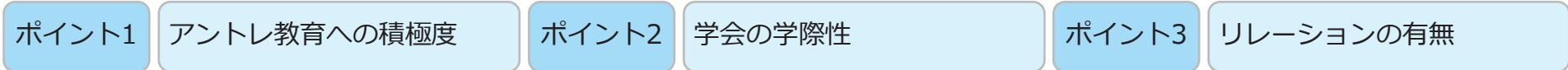
✓ WGにて議論した内容を踏まえ、学会とどのように連携していくかについて、論点整理をした



| 論点 | 検討内容 | 概念図 | | | | | | |
|------------------------------------|---|--|-----|-------|----------|--------|------------|--------------|
| <p>With Whom</p> <p>学際性</p> | <ul style="list-style-type: none"> 学際性（ある一つの対象や目的について、複数の学問分野から研究や分析を行うこと）を意識し、学会との連携は考えていくべき <ul style="list-style-type: none"> 経営学の領域だけではなく、教育学や社会学等の研究者も巻き込む必要がある 教育関連の学会でアントレ教育を取り上げているところは多くないと思うので、教育関係の学会と連携するのは意義がある | <p>アントレプレナーシップ教育の特異性</p> | | | | | | |
| <p>How</p> <p>連携方法</p> | <ul style="list-style-type: none"> どのように学会と連携していくかは、検討していく必要がある <ul style="list-style-type: none"> 既存の学会との連携（既存） <ul style="list-style-type: none"> 親会を立てる 複数の学会と連携する 本事業でコミュニティWGを立ち上げる（新規） | <table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="1281 1007 1599 1066">大方針</th> <th data-bbox="1617 1007 1935 1066">アプローチ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="1281 1086 1599 1254">既存の学会と連携</td> <td data-bbox="1617 1086 1935 1161">親会を立てる</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1281 1278 1599 1445">新規の集まりを設ける</td> <td data-bbox="1617 1278 1935 1445">少数のコミュニティを作る</td> </tr> </tbody> </table> | 大方針 | アプローチ | 既存の学会と連携 | 親会を立てる | 新規の集まりを設ける | 少数のコミュニティを作る |
| 大方針 | アプローチ | | | | | | | |
| 既存の学会と連携 | 親会を立てる | | | | | | | |
| 新規の集まりを設ける | 少数のコミュニティを作る | | | | | | | |

既存の学会の該当領域の整理（連携上のポイントの整理）

✓ 既存の学会との連携を検討するために、調査結果を踏まえた該当領域の整理および、連携上重要なポイントを整理した



既存の学会の調査結果整理（1/3）

✓ 既存の学会に関する調査結果を整理した

討議事項①
教育効果の評価の確立

討議事項②
全国プログラムを通じた検証

討議事項③
整備した指標に基づく改善・研究の推進

| # | 学会名 | 領域 | 創立年 | 会員数 | 概要 |
|---|-------------|-------|-------|---------|---|
| 1 | イノベーション教育学会 | 教育 | 2013年 | NA | イノベーション教育学会のコアイベントとして毎年、年次大会を開催。日本各地の大学や企業と連携し、国内外を問わずイノベーション教育プログラムや実践活動の成果報告・知見共有を行う |
| 2 | 日本ベンチャー学会 | 経営・商学 | 1997年 | NA | ベンチャー企業および一般企業における企業家活動等について理論・実証・実践に関する研究を行うとともに、産学協同の推進および企業家活動の支援に寄与することを目的とする |
| 3 | 大学教育学会 | 教育 | 1979年 | NA | 発足以来一貫して大学教育の大衆化に伴う「大学教育研究」の開拓を志向し、かつ広範な大学教員が参加する「大学教員としての自己研究」活動（FD型研究活動）に主眼をおいて活動 |
| 4 | 日本経営学会 | 経営・商学 | 1926年 | 約2,000名 | 日本における社会科学系の最大規模の学会の1つ。経営学を総合的に網羅する学会として、企業経営だけではなくNPO経営や病院経営など社会に求められている研究領域を幅広く取り上げる |
| 5 | 教育工学会 | 教育 | 1984年 | 約3,400名 | 大学等の教育機関，小中高校，各種団体，企業等において，教育工学に関する研究，開発，実践を行っている者から構成される。日本教育工学会論文誌を年5回発行、教育工学研究の討論の場としての研究会を年4回開催 |
| 6 | 初年次教育学会 | 教育 | 2021年 | NA | 初年次教育の重要性を日本の高等教育界に定着させ、国際的な初年次教育関係団体・学会との情報交換・交流を推進することを目的とする。年に一度、各大学の担当者レベルでの交流を含む大会を開催 |

既存の学会の調査結果整理 (2/3)

✓ 既存の学会に関する調査結果を整理した

討議事項①
教育効果の評価の確立

討議事項②
全国プログラムを通じた検証

討議事項③
整備した指標に基づく改善・研究の推進

| # | 学会名 | 領域 | 創立年 | 会員数 | 概要 |
|----|--------------|-------------|-------|--------|--|
| 7 | 組織学会 | 経営・商学 | 1959年 | 1,987名 | 広く一般市民を対象として、組織科学に関する啓蒙・普及・教育事業と組織科学に関する調査・研究を行う |
| 8 | ドラッカー学会 | 経営・商学 | 2005年 | 約700名 | ドラッカーの思想とその実践に関し、学界、ジャーナリズム、産業界の連携に基づき、その深化と発展を図ることを目的とする。ドラッカー公認の唯一の学術団体 |
| 9 | 日本医学会 | その他 (医学) | 1902年 | NA | 日本医師会と密接な連携の下に、「医学に関する科学および技術の研究促進を図り、医学および医療の水準の向上に寄与する」ことを目的として活動 |
| 10 | 研究・イノベーション学会 | 経営・商学 | 1985 | NA | ノベーションの創出に向けた企業経営・マネジメントの向上、科学技術・イノベーション関連政策の分析、評価、提言を目的とし、研究開発およびイノベーションに関する経営および政策についての学術研究および研究交流を図る |
| 11 | 企業家研究フォーラム | 経営・商学 | 2002 | NA | 大阪商工会議所企業家ミュージアムと連携し、「企業家活動」について総合的・学際的研究を促進。大西正文・前大阪商工会議所会頭顕彰事業「企業家研究基金」(2,000万円)を活用して若手研究者育成や関連分野の研究に対する助成活動等を行う |
| 12 | ファミリービジネス学会 | 経営・商学 | 2009 | NA | 歴史学、家族心理学、経営学、文化人類学などの学問分野との積極的な連携や、研究の相互交流をはかる。また学術的な研究に関心の高いファミリー企業経営者、コンサルタントなどにも参加を呼びかけている |

既存の学会の調査結果整理 (3/3)

✓ 既存の学会に関する調査結果を整理した

討議事項①
教育効果の評価の確立

討議事項②
全国プログラムを通じた検証

討議事項③
整備した指標に基づく改善・研究の推進

| # | 学会名 | 領域 | 創立年 | 会員数 | 概要 |
|----|------------------------|---------|------|---------|--|
| 13 | オープンイノベーション・ベンチャー創造協議会 | 経営・商学 | 2015 | NA | オープンイノベーション協議会とベンチャー創造協議会が合併し設立。民間事業者の「オープンイノベーション」の取組を推進するとともに我が国産業のイノベーションの創出及び競争力の強化に寄与する活動を行う。NEDOが運営事務局を務める |
| 14 | 日本中小企業学会 | 経営・商学 | 1980 | 600 | 国内外の中小企業に関する研究を目的として設立された日本の中小企業研究を代表する学術研究団体。経済学、商学、経営学等の分野の研究者が参加。毎年開催される全国大会のほか、公式年報『日本中小企業学会論集』を発行 |
| 15 | 日本機械学会 | 工学 | 1879 | 31,837 | 機械関連技術に関わる講演発表会、講習会、研究分科会などの企画実施、市民フォーラムによる社会の啓発活動、国際会議 |
| 16 | 日本MOT学会 | 工学 | 2006 | NA | MOT（技術経営）の研究・教育の集積、高度化と日本型MOTの普及、啓蒙を目指し、年次総会や研究会、後援会、セミナーを開催。また、年次の学会誌を発行 |
| 17 | 日本工学教育協会 | 工学 | 1872 | 246 | 工学教育に関する調査研究とその成果の普及・推進を目的に、「工学教育」誌の発行（年6回）、年次大会・研究講演会の開催、調査研究の推進等を行う |
| 18 | 日本キャリア教育学会 | 教育・キャリア | 1978 | 1100名以上 | 進路指導、職業指導のみならず、キャリア・カウンセリグ、キャリアコンサルティング、キャリア・ガイダンス、職業教育、産業教育等の関連領域にも等しく関心を持ち、誰もが希望をもって自らのキャリアを構築できる新たな未来を切り開くことをミッションとする |

イノベーション教育学会への参加報告

- ✓ 3/15-17に開催されたイノベーション教育学会 第11回年次大会（宮崎大学）に文科省と事務局が参加し、活動を発信した

討議事項①
教育効果の評価の確立

討議事項②
全国プログラムを通じた検証

討議事項③
整備した指標に基づく改善・研究の推進



第11回年次大会

【大会テーマ】

◎地域におけるイノベーションの意味と可能性

○「地域におけるイノベーション事例」と「イノベーション教育理論」の発表・交流を通じて、「地域を豊かにするイノベーション創出人材のエッセンス」を抽出することを目的とする（到達点と課題の整理）。

○地域にイノベーションを起こせる人材育成方法論の到達点と課題を探る。

【大会ゴール】

「参加者相互の学びを共有し未来を語ることで、地域の方にイノベーション・イノベーション教育の可能性を感じていただき、明日から身近な課題の解決に役立つ知見をお持ち帰りいただく」ことを目指す

【エクスカッション】 軽食を食べながらのネットワーキングパーティー

日時：2024年3月15日（金）14：00～18：00

会場：MUKASA-HUB ▶ホームページはこちら <https://ippeicompany.com/mukasa/>

定員：最大50名

参加費：Peatix事前申し込み（一般：3300円 学生：2200円）/当日現金 4000円

内容

【中小企業の事例報告】

《（株）一平ホールディング 代表取締役 村岡様》地域イノベーターによる商品開発・後進育成事例

《（株）高千穂ムラたび 飯干様》中山間地域における商品開発・中山間連携事例

《（株）MFEHIMUKA 代表取締役社長 島原様》中小企業のイノベーション促進支援制度創設事例

【年次大会】 地域におけるイノベーションの意味と可能性

日時：2日間に渡って実施

DAY1：2024年3月16日（土） 9：30～17：50

DAY2：2024年3月17日（日） 9：00～15：30

会場：宮崎大学木花キャンパス ▶会場地図（キャンパスマップ）

メイン会場：330(サンサンマル)記念交流会館 サブ会場：地域デザイン棟

定員：最大100名（社会人・学生含む）

参加費：Peatix事前申し込み 対面・オンライン（一般：1800円 学生：無料）/当日現金 2000円



【懇親会】

日時：2024年3月16日（土） 18：10～20：30

会場：宮崎大学木花キャンパス 学生生協

定員：最大50名

参加費：Peatix事前申し込み（一般：3300円 学生：2200円）/当日現金 4000円

内容：

【懇親会基調講演】《霧島酒造（株）専務 江夏拓三 様》

（業界一位を達成した地域資源を活用した商品開発事例）

演題：「宮崎が全国に誇る「霧島」を生み出した会社経営のヒミツ」

講演概要：「霧島酒造は1916年の創業以来、芋焼酎を中心に麦焼酎・米焼酎など、本格焼酎を軸として、食文化を豊かにできるような多様な商品をお届けしてまいりました。今後の業界全体の市場拡大のためにも、新しい時代に合わせたダイナミックな考え方を身につけていく必要があると考えています。当社が目指す企業像と人材育成の視点を交え、近年の霧島酒造の会社経営をご紹介します。」

2024年度の有識者会議の今後の検討論点

✓ 2024年度の達成目的（ゴール）を設定した上で、2024年度の有識者会議の今後の検討論点として下記のように設計している

2024年度の教育効果の測定指標具体化WGの進め方（案）

実証結果を踏まえた、
アントレ教育を提供する
仕組みの実践
(2023年度－2024年度)

- アントレ教育の指標の全体像が明確化されている
- 全国プログラムを通じたアントレ教育の指標の検証方法が確立されている
- 調査データの収集方法・蓄積方法・活用方法が確立されている

| テーマ | 2024年度のゴール | 今後委員会で検討していくべき事項 |
|-----------------------------|---|---|
| ① 教育効果の評価の 確立 | <ul style="list-style-type: none"> ■ アントレ教育の指標の全体像の整理に基づくガイドの作成 ■ 学校現場に適合できるように、現場のヒアリング及びブラッシュアップを実施 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 全体統括委員会での協議内容であるアントレ教育の全体像を踏まえた、指標の全体像のガイドについて検討 ■ 指標の全体像の整理に基づき、指標を用いた効果測定方法の検討 ■ ガイドの初期案を作成し、各大学等に対しヒアリングを行い、ブラッシュアップの方法について検討 |
| ② 全国プログラムを通 じた検証 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 全国プログラムを通じた指標の検証 ■ 全国プログラムで検証した指標を用いた各大学での実証（FDプログラムと連携） | <ul style="list-style-type: none"> ■ 全国プログラムでの指標、効果測定の実施方法等を検討（経年でモニタリング） ■ 全国プログラムで検証した指標を実際に導入する大学の検討、大学への導入における課題の整理（FDプログラムと連携） ■ 各大学での導入事例のモデルケース化の検討（FDプログラムを受講した教員等のコミュニティを通じた情報発信） |
| ③ 整備した指標に基づ く改善・研究の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 全国プログラムを通して、収集したデータを活用するタスクフォースの組成し、研究の推進 ■ 各分野の研究者を集い、コミュニティ形成を図る | <ul style="list-style-type: none"> ■ タスクフォースによる研究推進計画の策定及び検討 ■ 学際的な学会等のコミュニティに参画し、アントレ教育周辺の分野の研究者の巻き込み方について検討 ■ 各分野の研究者の交流を促すコミュニティの設計及び研究者の育成（RDプログラム※）等に関する検討 |

※RDプログラム：Researcher Development Program

【第1章】有識者委員会での取組・議論内容

■ 全体統括委員会（アントレプレナーシップ醸成促進に係る全体像の整理）

- 1.1 アントレプレナーシップ醸成における課題を踏まえた論点の整理
- 1.2 アントレプレナーシップ醸成促進に向けた目指すべき姿
- 1.3 検証論点の全体像の整理

■ プラットフォーム具体化WG（アントレプレナーシップ人材の裾野拡大に向けたプラットフォーム形成に関する検討）

- 2.1 2023年度の検討課題
- 2.2 学生の巻き込み
- 2.3 実践の場への接続
- 2.4 企業等との連携
- 2.5 今後の検討項目

■ 教育効果の測定指標具体化WG（アントレプレナーシップ教育における教育効果の測定指標の確立に関する検討）

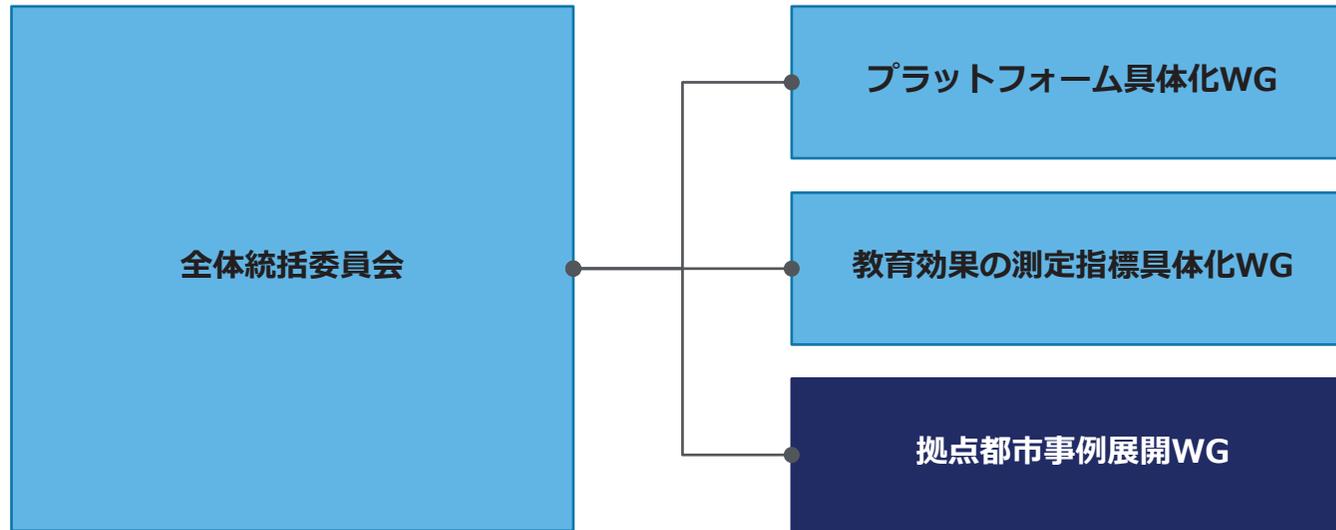
- 3.1 現状の課題・背景に基づく、検討論点と調査概要
- 3.2 教育効果の評価の確立に関する検討
- 3.3 全国アントレプレナーシップ人材育成プログラムを通じた検証に関する結果
- 3.4 整備した指標に基づく改善・研究の推進に関する検討
- 3.5 今後の検討項目

■ 拠点都市事例展開WG（アントレプレナーシップ教育に関する内容の事例やノウハウの共有に関する検討）

- 4.1 実施結果

拠点都市事例展開WGの意義

- ✓ アントレプレナーシップの醸成に向け、拠点都市等のアントレ教育に関する事例やノウハウの共有が求められている



拠点都市事例展開WG

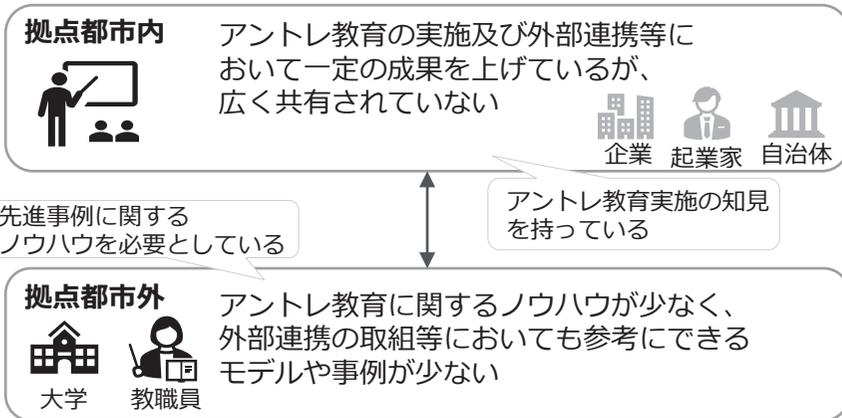
- スタートアップ・エコシステム拠点都市の主にアントレ教育に関する内容の事例やノウハウを拠点都市内外に共有

拠点間・大学間の連携における観点での現状と目指す姿

- ✓ スタートアップ・エコシステム拠点都市のアントレ教育に関する事例やノウハウを拠点都市内外に共有し、広く展開することが求められている

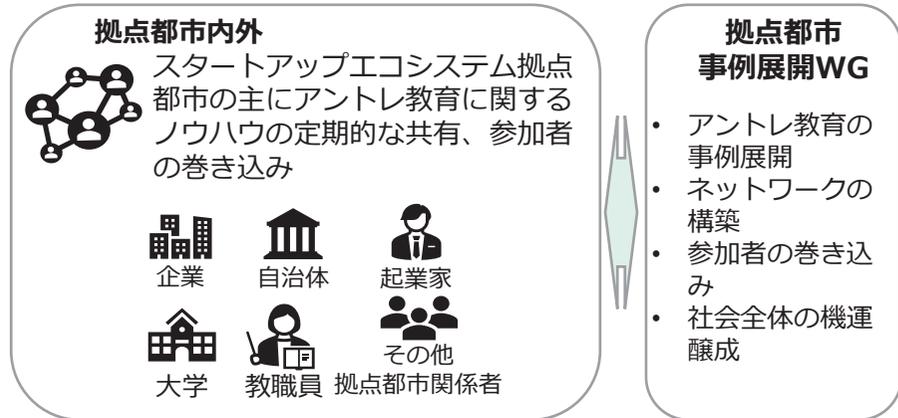
現状

- アントレ教育に関する先進的な取組が拠点都市において実施されているものの、大学間・拠点都市間での連携が不足しているため、共有できていない状況
- 上記課題に対して、スタートアップ・エコシステム拠点都市の主にアントレ教育に関する内容の事例やノウハウの展開が必要である



目指す姿

- アントレ教育に関する先進事例やノウハウを整理し、拠点都市内外に広く共有し、アントレ教育の醸成に寄与する
- 広く参加者を募り、アントレ教育の事例を広く展開する



| | | | |
|--------|---|--------------------------|--|
| 施策の方向性 | 1 | 拠点都市事例・ノウハウの展開 | <ul style="list-style-type: none"> ➢ 拠点都市のアントレ教育の先進的な事例やノウハウを共有し、拠点都市外の関係者にも広く展開 ➢ アントレ教育の知見の少ない大学等の参考モデルになるとともに、アントレ教育の関心醸成にも寄与 |
| | 2 | 広く参加者を募る体制整備 | <ul style="list-style-type: none"> ➢ 拠点都市内外を問わず、アントレ教育に興味関心のあるステークホルダーを募り、大学や民間企業などの関連組織への広報活動、事務局としてのイベント運営機能を整備 |
| | 3 | 共通の目的下における交流機会の創出 | <ul style="list-style-type: none"> ➢ 先進事例に関する議論や事例に関する活用方法など、有機的な交流を促すための場を設置 ➢ ステークホルダー間の交流のみならず、更なる巻き込みを促進 |

拠点都市事例展開WGの開催概要

- ✓ 文部科学省による全体方針を説明したうえで、全国アントレプレナーシップ醸成促進事業について説明し、参加者との意見交換を行った

目的

- スタートアップ・エコシステム拠点都市推進協議会の下に置かれた「アントレプレナーシップ教育ワーキング・グループ」と、文部科学省委託事業「全国アントレプレナーシップ醸成促進に向けた調査分析等業務」における「拠点都市事例展開WG」を合同で開催する
- 文部科学省が推進する施策を多くのステークホルダーに発信し、日本全体のアントレ教育の普及・充実に向け、関係者の参画と連携を後押しすることを目指す

主なアジェンダ

討議事項① アントレ教育の 動きと今後の 方向性の紹介

文部科学省の
アントレ教育に関
する取組の方向性
のご共有

- アントレ教育に関する取組の目的及び背景
- 今後のアントレ教育に関する施策の共有

討議事項② 全国アントレ 醸成促進事業の 報告

拠点都市関係者との
連携の可能性に
ついてご意見交換

- 全国アントレプレナーシップ醸成促進事業の概要報告
- 実施内容である有識者会議、全国アントレ教育プログラム等に関する報告
- 本事業の今後の展望及び拠点都市関係者との連携方法案について、ブレイクアウトセッションを3つ分けて意見交換を実施

実施方法

- 開催日：2024年3月28日（木）12:10~13:30
- 開催形式：オンライン開催
- 参加者：183名
 - スタートアップ・エコシステム拠点都市コンソーシアムに参画する関係者
 - JST「大学発新産業創出プログラム 大学・エコシステム推進型 スタートアップ・エコシステム形成支援」の各プラットフォームに参画する関係者
 - アントレ教育に関心のある民間企業・団体
 - 文部科学省委託事業「全国アントレプレナーシップ醸成促進に向けた調査分析等業務」における有識者会議委員、事業協力者、全国アントレプレナーシップ人材育成プログラムの参加教職員、学生等
 - 文部科学省、経済産業省担当者 等

実施報告

✓ オフィシャルHPにて本WGは広く周知を行った



日時

3月28日（木）ZOOMミーティング

〈第1部〉12:10-12:50

アントレプレナーシップ教育に関する施策の報告

〈第2部〉12:50-13:30

ブレイクアウトルームを活用した質問受付・意見交換

ルームA

（主に大学関係者等を対象に）教育効果測定やFDに関する内容

ルームB

（主に民間企業等を対象に）プラットフォームとの連携に関する内容

ルームC

文部科学省のアントレ教育施策に関する内容

拠点都市事例展開WGでの議論内容抜粋

- ✓ 拠点都市事例展開WGでは、教育現場における教育効果測定や民間との連携した教育機会提供等について意見を得た

| 分類 | 意見内容抜粋 | 得られた示唆 |
|---------------------------------------|---|--|
| ブレイクアウトセッションA 教育効果測定やFDに関する内容 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 本事業で検証した教育効果の測定の方法等を他事業者や他省庁の事業と連携して、教育効果を測定していくと良いのではないかと ✓ 授業の目的や実施方法等によって教育効果も異なってくるので、指標をカスタマイズできるようにすると良いのではないかと | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 本事業で検証した教育効果測定の手法等は他事業と連携した国内の関連プログラムの教育価値向上やプログラムの改善等に繋げることに對するニーズが高いことがわかった ✓ 教育現場の多様なニーズを踏まえ、柔軟性をもつ指標の整備やガイドの作成が必要であることがわかった |
| ブレイクアウトセッションB プラットフォームとの連携に関する内容 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 大学と連携していきたいと考える民間企業等が多いが、連携の仕方のイメージが明確に持てていない ✓ アントレ教育の特性上、学んでから実践するのではなく、実践の場を通じて学んでもらう必要があるのではないかと（座学だけではなく、学生には民間企業や自治体等と連携した体験型の実践的な学びの機会を提供することが必要ではないかと） | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 民間企業等と大学と連携を促進させるための、成功事例の共有や連携促進に向けた機会の創出等へのニーズが高いことがわかった ✓ 民間企業等が求める学生の人物像として、座学だけではなく、いかに社会との繋がりを持ち、実際に課題に取り組んだのか等のポイントが注目されていることがわかった |
| ブレイクアウトセッションC 文部科学省のアントレ教育施策に関する内容 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 教員にもアントレプレナーシップの意識を持ってもらうための教育が必要であるとする ✓ 日本国内だけに閉じず、海外留学生を含めた起業意識の高いトップ層を引き上げる等のグローバル視点で検討する必要があるのではないかと | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 学内のアントレ教育浸透に向け、教職員に対するアントレプレナーシップに関する情報発信やFDプログラム等を通じた教員向けの支援に対するニーズが高いことがわかった ✓ グローバルを意識しながら、起業意識等が高いトップ層を引き上げる仕掛け作りやコミュニティ作りを検討していく必要があることがわかった |

本事業の今後の展望及び拠点都市・地域とのご連携方法案

✓ 本事業の各論点における2024年度の展望を達成するために、拠点都市・地域の方々とのご連携方法案を提示した

| | 本事業の取り組むべき事項 | 拠点都市・地域の皆さまとのご連携方法（案） | | | |
|----------------|---|--|--|---------|-------|
| | | 学生 | 大学・教職員 | 行政・自治体等 | 民間企業等 |
| 受講機会の創出 | <ul style="list-style-type: none"> 効果的な募集・広報施策の実施 学生コミュニティの活性化によるアントレプレナーシップ発揮の機会への接続の拡大 醸成・実践の教育を担うプレイヤー等の地域エコシステムとの連携による広報周知、機会の拡大の促進 | <ul style="list-style-type: none"> 全国プログラムへのご参加 学生コミュニティとのご連携 知人等への口コミ <p>等</p> | <ul style="list-style-type: none"> 広報のご協力（本事業への学生の送り込み） プログラム実施における各種ご支援 プログラムのご見学 アントレ教育に関するご要望に関するヒアリングのご協力 <p>等</p> | | |
| ステークホルダーの参加促進 | <ul style="list-style-type: none"> 教職員コミュニティ活性化におけるインタラクティブな交流の実践、FDプログラムの展開 産業界の啓発による民間企業の参画の実践 拠点都市、地方とのエコシステムの接続の実践の機会の創出 | <ul style="list-style-type: none"> 各拠点都市、各大学等で実施しているのアントレ教育関連のプログラム・イベントへのご参加 <p>等</p> | <ul style="list-style-type: none"> プログラム実施後における各種ご連携（本事業から学生の送り出し） <p>等</p> | | |
| プログラムの教育的価値の向上 | <ul style="list-style-type: none"> 全国プログラムを通じた、教育プログラムの改善検討の実践 アントレ教育の効果測定をする評価手法の展開によるプログラムの教育価値の向上を促進 アントレ教育に関する研究促進 | <ul style="list-style-type: none"> 受講前後の各種アンケート、インタビュー等へのご協力 <p>等</p> | <ul style="list-style-type: none"> 各大学、企業等で実施するプログラムにおける教育効果測定のご協力 アントレ教育の研究に関するご協力（研究者の拡大） <p>等</p> | | |